

構造図版 adpack-NEO i

操作手順マニュアル



目 次

構造図版 adpack-NEO i

構造図版 adpack-NEO i コマンドの実行方法	i
第 1 章 伏図の作成	1-i
1-1 用紙設定を行う	1-1
1-2 通り芯を作図する	1-2
1-3 通り芯、通り符号、寸法を編集する	1-4
(1) 通り芯の編集	1-4
(2) 通り符号の編集	1-5
(3) 寸法の編集	1-5
<1> 寸法のコピー	1-5
<2> 寸法の分割	1-6
<3> 寸法の足し算	1-7
1-4 R C 柱を配置する	1-8
(1) R C 柱の配置	1-8
(2) R C 柱の角度変更	1-11
1-5 大梁を作図する	1-13
(1) 大梁の作図	1-13
(2) 大梁の種類 (属性) 変更	1-15
1-6 小梁を作図する	1-17
(1) 補助線の作図	1-17
(2) 小梁の作図	1-18
(3) 小梁の種類 (属性) 変更	1-20
1-7 耐震壁を作図する	1-22
(1) 耐震壁と接続する柱の属性変更	1-22
(2) 耐震壁の作図	1-22

1－8	階段を作図する.....	1-25
	（1）階段の作図.....	1-25
	（2）矢印の作図.....	1-26
1－9	文字を記入する.....	1-28
	（1）文字の記入.....	1-28
	＜1＞ 文字設定	1-28
	＜2＞ 文字記入	1-28
	（2）図面名称の記入.....	1-29
1－10	伏図をコピーする.....	1-31
1－11	1階伏図を作成する	1-32
	（1）大梁の削除.....	1-32
	（2）基礎梁の作図.....	1-32
	（3）基礎梁の種類（属性）変更.....	1-34
	（4）階段の作図.....	1-35
1－12	R階伏図を作成する.....	1-36
	（1）階段の削除.....	1-36
	（2）小梁と補助線の削除.....	1-36
	（3）小梁の作図.....	1-36

第2章 軸組図の作成	2-i
2-1 用紙設定を行う	2-1
2-2 通り芯を作図する	2-2
(1) 軸組図用基準線作図	2-2
(2) 階符号や基準線の編集	2-3
2-3 RC柱を作図する	2-4
2-4 大梁、基礎梁を作図する	2-7
2-5 梁と柱の線を編集する	2-9
(1) 見かけ線の削除	2-9
(2) 梁と柱の線の編集	2-9
2-6 開口部の斜め線を作成する	2-11
2-7 基準線の長さを整える	2-12
2-8 図面名称を記入する	2-13
2-9 軸組図をコピーする	2-15
2-10 X2 通り軸組図を作成する	2-16
(1) スパン変更	2-16
(2) 梁符号の移動	2-16
(3) 壁符号の作図	2-17
<1> 壁作図	2-17
<2> オブジェクト解除	2-17
<3> 壁符号の作図	2-17
2-11 X3 通り軸組図を作成する	2-19
(1) スパン変更、梁符号の移動、壁符号の作図	2-19
2-12 X4 通り軸組図を作成する	2-20
(1) スパン変更、梁符号の移動	2-20


第3章 断面リストの作成	3-i
3-1-1 柱断面リストの用紙設定を行う	3-1
3-1-2 柱断面表枠を作成する	3-2
3-1-3 表枠へ文字を記入する	3-4
(1) 文字設定	3-4
(2) 符号と階名の記入	3-4
3-1-4 柱断面表を作成する	3-6
3-1-5 作成した柱断面表のパラメータを変更する	3-10
3-2-1 梁断面リストの用紙設定を行う	3-12
3-2-2 梁断面表枠を作成する	3-13
3-2-3 表枠へ文字を記入する	3-14
3-2-4 梁断面表を作成する	3-15

第4章 異縮尺図面の作成	4-i
4-1 異縮尺編集の準備を行う	4-1
4-2 異縮尺編集を開始する	4-3
4-3 ビューを配置する	4-6
4-4 ビューの表示位置を調整する	4-8
(1) ビューの切り替え	4-8
(2) ビューの表示位置の調整	4-9
4-5 ビュー毎のレイヤを切り替える	4-13
(1) ビューの切り替え	4-13
(2) レイヤの切り替え	4-15
4-6 異縮尺図面を印刷する	4-17
4-7 異縮尺図面を切り出す	4-18
4-8 異縮尺編集を終了する	4-20

構造図版 adpack-NEO i コマンドの実行方法

構造図版 adpack-NEO i コマンドの実行方法

構造図版 adpack-NEO i のコマンドは、画面右側のメインツールバーから各ツールバーを表示して選択するか、リボンメニュー [NEO i 基本] [NEO i 構造図] から選択します。
NEO i 基本ヘルプ及び構造図ヘルプでコマンド名が確認できるので、それを直接キーボードから入力して実行することも可能です。

メモ  IJCAD（以下 CAD ソフト）にあるコマンド（例えば線分・円等を描く作図コマンドや移動・コピー等の編集コマンド）は adpack-NEO i のコマンドには加えていないので、基本的な操作は CAD ソフトのコマンドを使用して下さい。

ヒント  各コマンドの機能や操作方法の詳細は、『基本ヘルプ』『構造図ヘルプ』を参照して下さい。

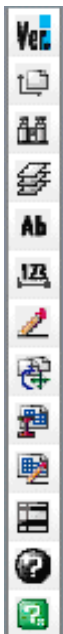
構造図版 NEO i リボンメニュー（NEO i 基本）



構造図版 NEO i リボンメニュー（NEO i 構造図）



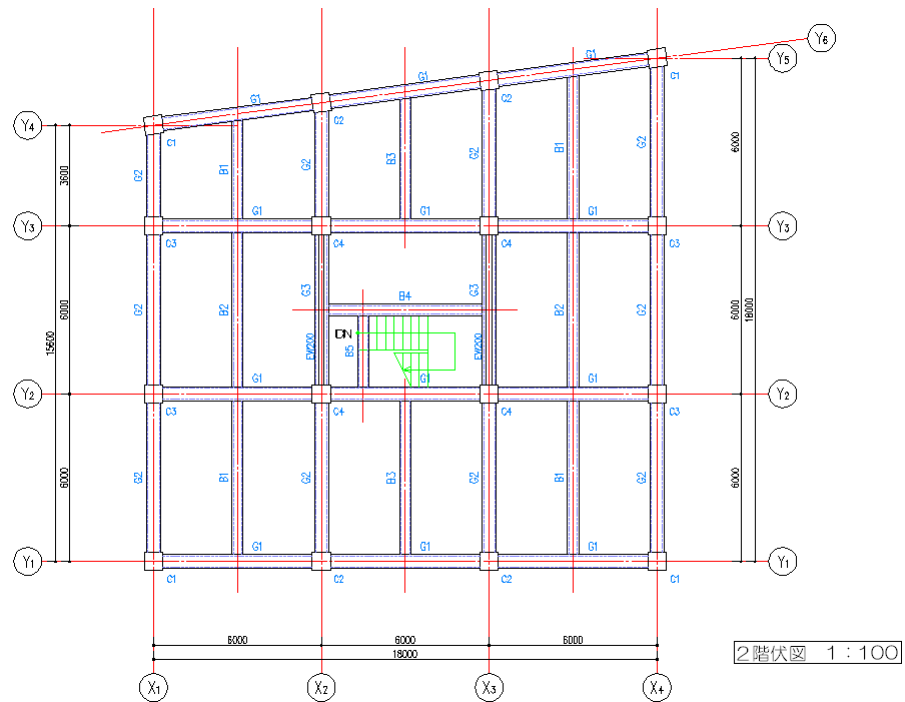
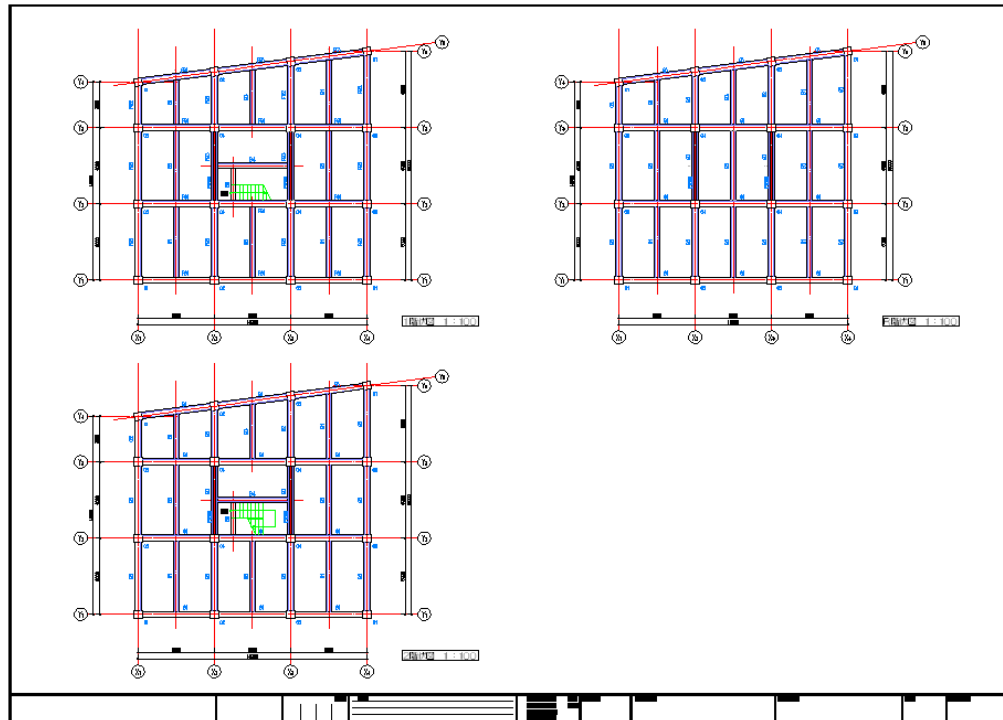
構造図版 NEO i メインツールバー



第1章

伏図の作成

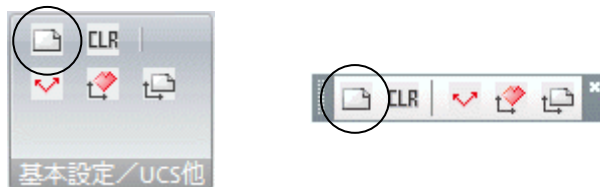
本章では、『構造図版 adpack-NEO i 』の様々な機能を使用して、下図のような伏図を作成する手順について説明します。



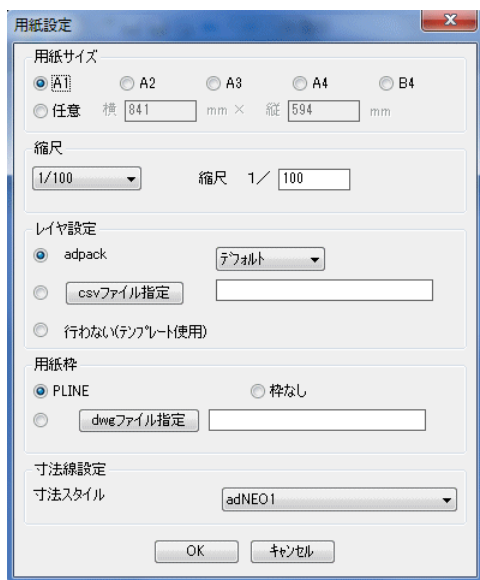
1 - 1 用紙設定を行う

新規図面を開いて、下記の手順で用紙設定と設定変更を行います。

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－「基本設定／UCS 他」またはメインツールバーの「基本設定／UCS 他」ツールバーから、＜用紙設定／設定変更＞コマンドを選択します。

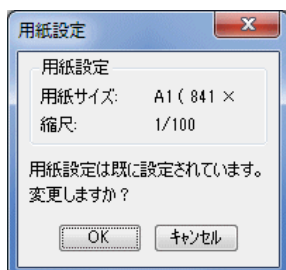


- ② 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。



- ・用紙サイズ：A1
- ・縮尺：1/100
- ・レイヤ設定：[adpack] － デフォルト
- ・用紙枠：PLINE
- ・寸法スタイル：adNEO1

- ③ 作図範囲が設定され、画面上に PLINE で用紙枠が作図されます。
- ④ 用紙サイズと用紙枠を変更するので、再度＜用紙設定／設定変更＞コマンドを選択します。
次のダイアログボックスが表示するので【OK】をクリックします。



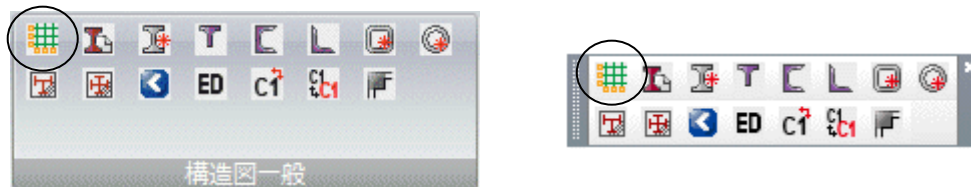
- ⑤ 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように変更して【OK】をクリックします。
用紙枠：[dwg ファイル指定] にチェックしてボタンをクリック － WAKU-A1.dwg

- ⑥ 設定した用紙枠に変更されます。

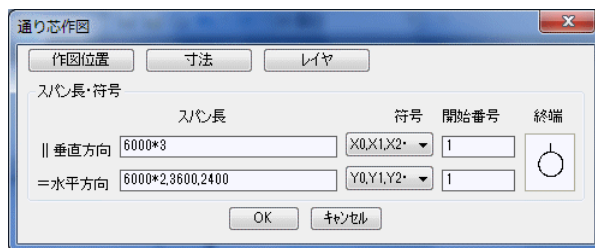
1-2 通り芯を作図する

下記の手順で、通り芯を作図します。

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、《基準線作図》コマンドを選択します。



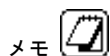
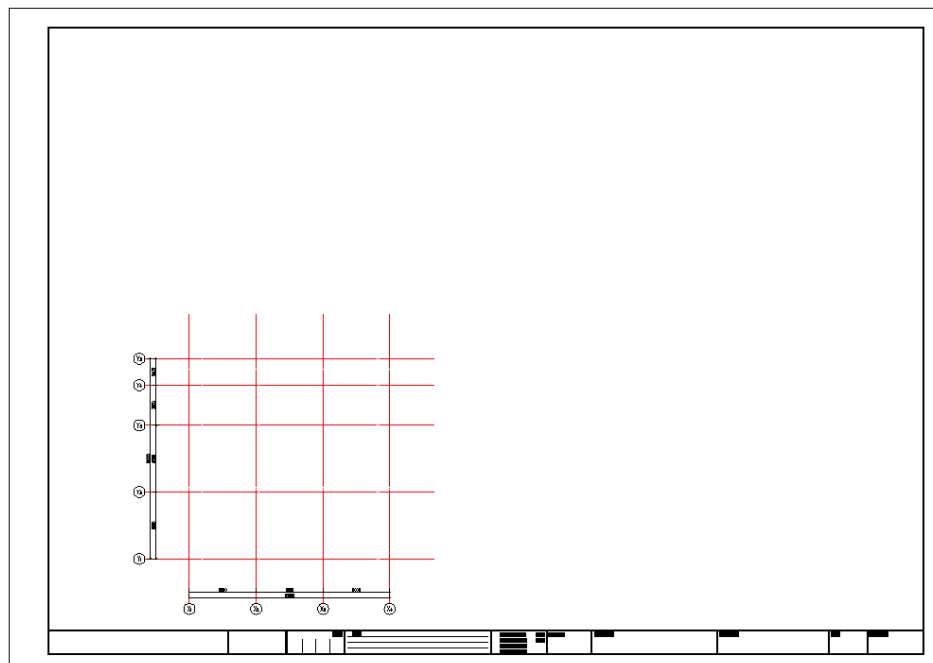
- ② 通り芯作図ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




- ・垂直方向：6000*3
- ・水平方向：6000*2, 3600, 2400


他は初期値

- ③ 設定した通り芯が表示して左下交点がカーソルに付いてくるので、図面枠の左下に配置します。

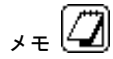


現在画面に表示されている位置状態の登録を行います。

(全図面が表示されていない場合は、ZOOM コマンド「A (図面全体)」を実行して下さい。) キーボードから「V0」として、現在の全図面表示のビューを登録します。

ZOOM コマンドで、通り芯全体を拡大します。キーボードから「V1」として、現在のビューを登録します。

キーボードから「V0」「V1」として、ビューを呼び出して登録を確認します。



リボンメニューの「NEO i 基本」－《ビュー登録／呼出》またはメインツールバーの《ビュー登録／呼出》ツールバーの<V0><V1>コマンドでも同様の操作が行えます。



通り芯と符号は1つのグループで作図されます。

通り芯と符号を個別に扱う場合はグループをオフにして編集を行います。

グループのオン／オフの切り替えは、【Ctrl】＋【Shift】＋【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン／オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効になります。

1-3 通り芯、通り符号、寸法を編集する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」を設定しておきます。

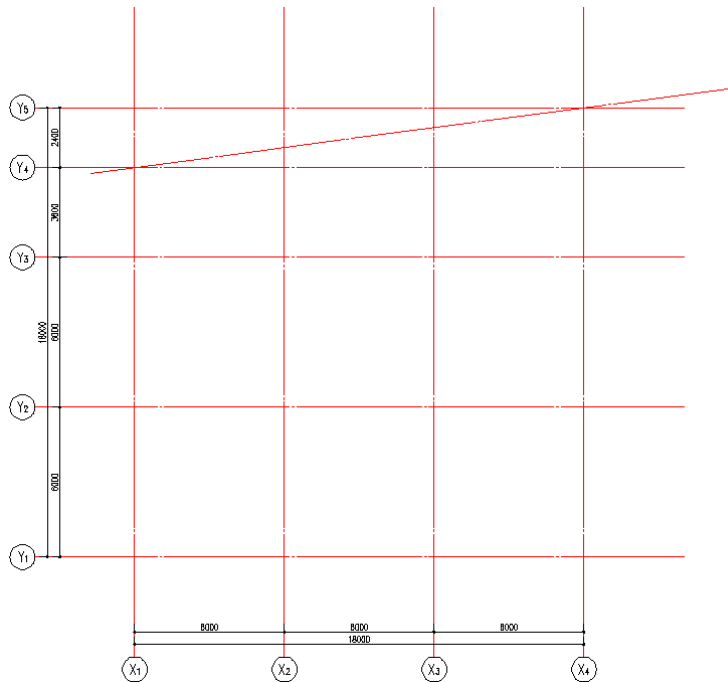
下記の手順で、通り芯、通り符号、寸法を編集します。

(1) 通り芯の編集

- ① 現在のレイヤーを「KIJUN」に変更します。
- ② 斜めの通り芯 Y6 を作図します。

CAD ソフトの線分 (L) コマンドで、Y4 と X1 通りの交点から Y5 と X4 通りの交点まで線分を作図します。

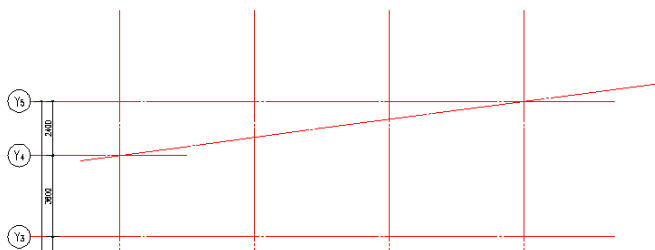
- ③ 長さ変更 (LEN) コマンドのダイナミック (DY) で、作図した斜めの通り芯 (Y6 通り) の両端を下図のように延長します。



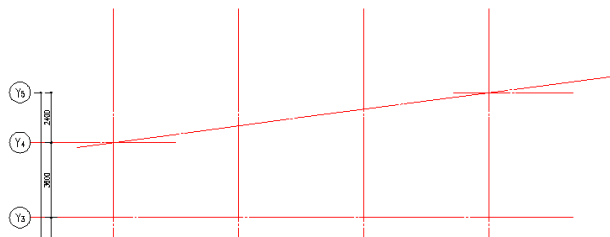
- ④ グリップを使って Y4 通りの右端点を短縮するので、まずグループをオフに設定します。
【Ctrl】 + 【Shift】 + 【A】 キーを押して、コマンドラインの下記の表示を確認します。
コマンド: <グループ オフ>

極トラッキングをオンにしてからグリップの端点をドラッグして、下図のように短縮します。

(Esc キーでグリップ解除)



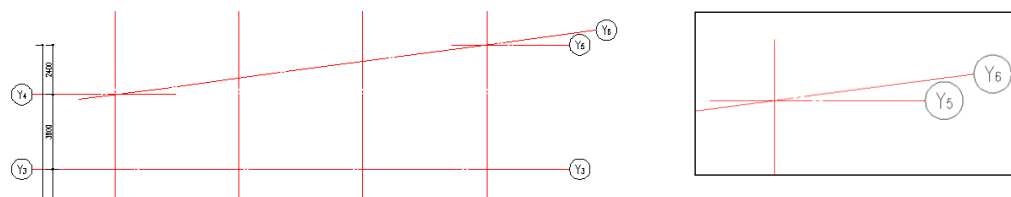
- ⑤ 同様に、グリッップを使って Y5 通りの左端点を下図のように短縮します。



- ⑥ ストレッチ (S) コマンドで、X1～X4 通りの上端点を任意の位置に短縮します。

(2) 通り符号の編集

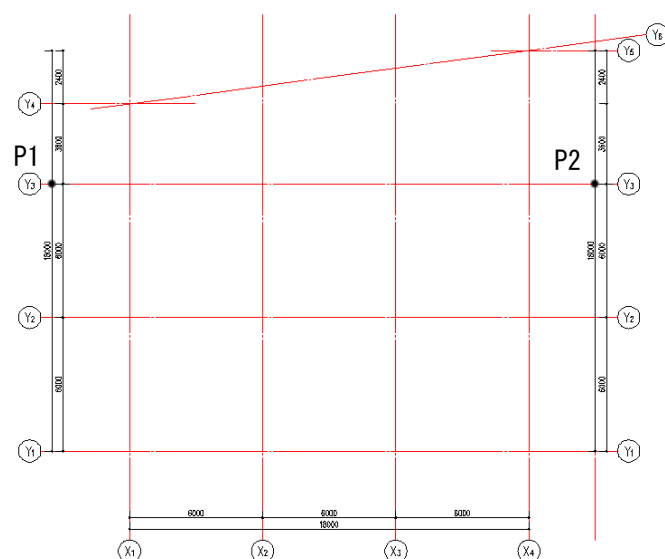
- ① コピー (CP) コマンドで、左側の通り符号 Y1～Y3 を通り芯の右端にコピーします。(OSNAP 四半円点→端点)
- ② 移動 (M) コマンドで、通り符号 Y5 を通り芯の右端に移動します。
- ③ 通り符号 Y5 を斜めの通り芯 (Y6) の右側の任意の位置にコピーして、通り芯の長さを調整します。
- ④ コピー先の通り符号 Y5 の文字をダブルクリックして、Y6 に変更します。



(3) 寸法の編集

<1> 寸法のコピー

- ① オフセット (O) コマンドで、X4 通りを右に **3000** オフセットして、寸法作図位置 (内側) の補助線を作図します。
- ② 左側にある Y1～Y5 通りの寸法を右側の補助線上にコピーします。(基点 P1、2 点目 P2)



＜2＞ 寸法の分割

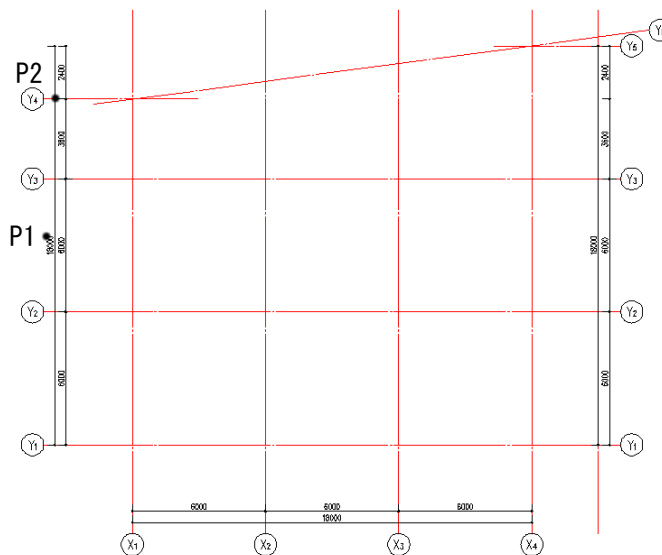
- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－《寸法》またはメインツールバーの《寸法》ツールバーから、＜寸法分割＞コマンドを選択します。



- ② 左側の全体寸法 18000 を Y4 通りとの交点で分割します。

》分割する寸法オブジェクトを指示：（18000 の文字 P1 を指示）

》分割点を指示：（P2 を指示）

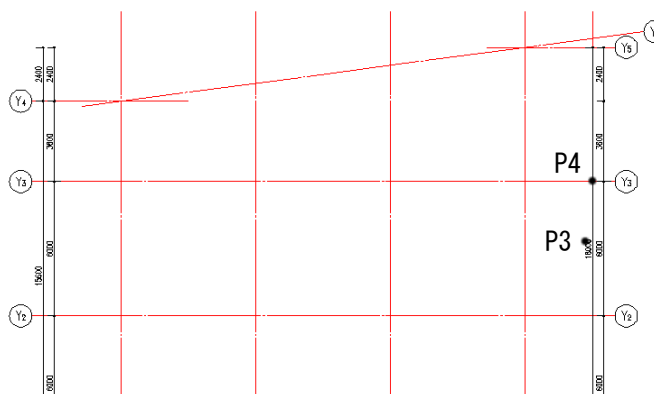


- ③ 指示した寸法が「15600」と「2400」に分割されます。

- ④ 再度＜寸法分割＞コマンドを実行し、右側の全体寸法 18000 を Y3 通りとの交点で分割します。

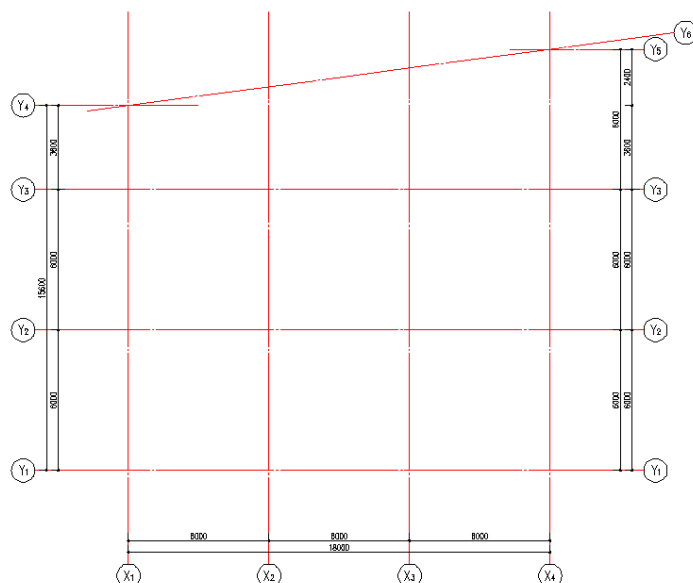
》分割する寸法オブジェクトを指示：（18000 の文字 P3 を指示）

》分割点を指示：（P4 を指示）




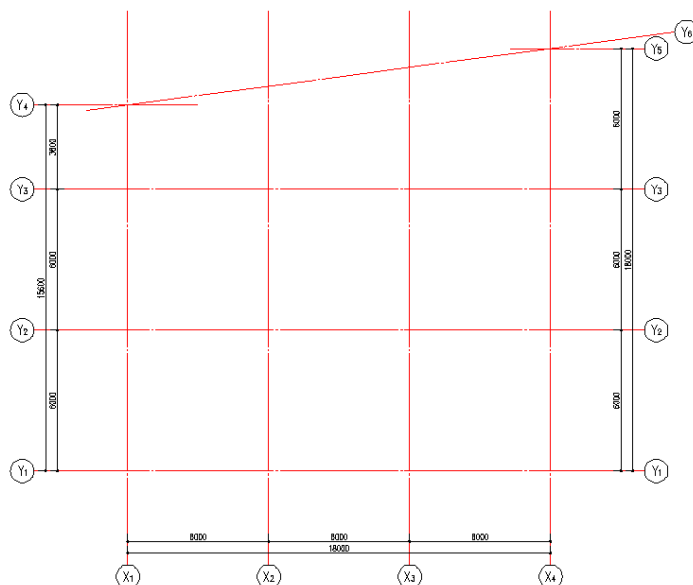
- ⑤ 指示した寸法が「12000」と「6000」に分割されます。

- ⑥ <寸法分割>コマンドを繰り返し実行し、右側の寸法 12000 を Y2 通りとの交点で分割します。
- ⑦ 先程オフセットした補助線と、左側の寸法「2400」2 つを削除します。




＜3＞ 寸法の足し算

- ① リボンメニューの [NEO i 基本] - <<寸法>>またはメインツールバーの<<寸法>>ツールバーから、<寸法足し算>コマンド  を選択します。
- ② 右側の寸法 2400 と 3600 を足します。
 - 》基準となる寸法オブジェクトを指示：(2400 の寸法を指示)
 - 》足し算する寸法オブジェクトを指示：(3600 の寸法を指示)
- ③ 寸法が「6000」になります。
- ④ <寸法足し算>コマンドを繰り返し実行し、右外側の 6000 と 6000 を選択すると、寸法が「12000」になります。
- ⑤ <寸法足し算>コマンドを繰り返し実行し、右外側の 12000 と 6000 を選択すると、寸法が「18000」になります。



1-4 RC柱を配置する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」と「近接点」を設定しておきます。

下記の手順で、RC柱を配置します。

(1) RC 柱の配置

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－「伏図／軸組図」またはメインツールバーの「伏図／軸組図」ツールバーから、＜RC 角柱＞コマンドを選択します。



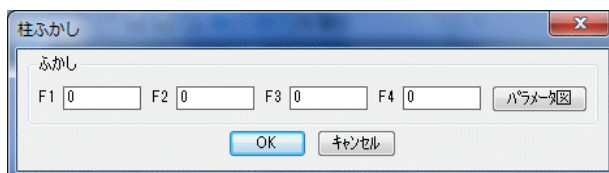
- ② RC 柱作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【ふかし】をクリックします。



- ・柱符号 : C1
- ・柱幅 : 650
- ・柱成 : 650

他は初期値

- ③ 柱ふかしのダイアログボックスが表示するので、F1～F4 全て「0」に設定して【OK】をクリックします。





- ④ RC 柱作図のダイアログボックスに戻るので、【個別配置】をクリックします。





- ⑤ 画面上で作図位置を指示します。

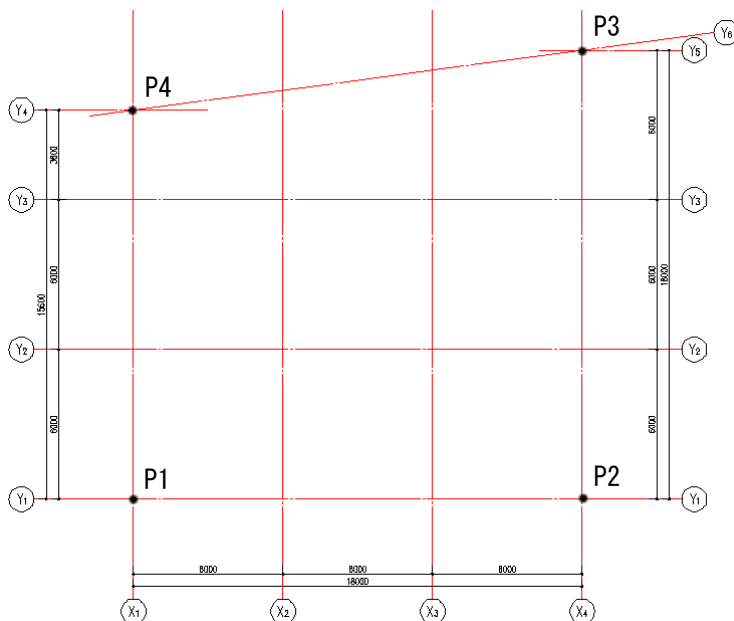
》柱作図位置を指示<終了> : (P1 を指示)

- ⑥ 次に作図方向を指定しますが、ここでは中心にします。(中心の場合 :  を入力)

》作図方向を指定<中心> : 


- ⑦ 続けて作図できるので、同様の操作で P2～P4 に中心で作図して  でコマンドを終了します。

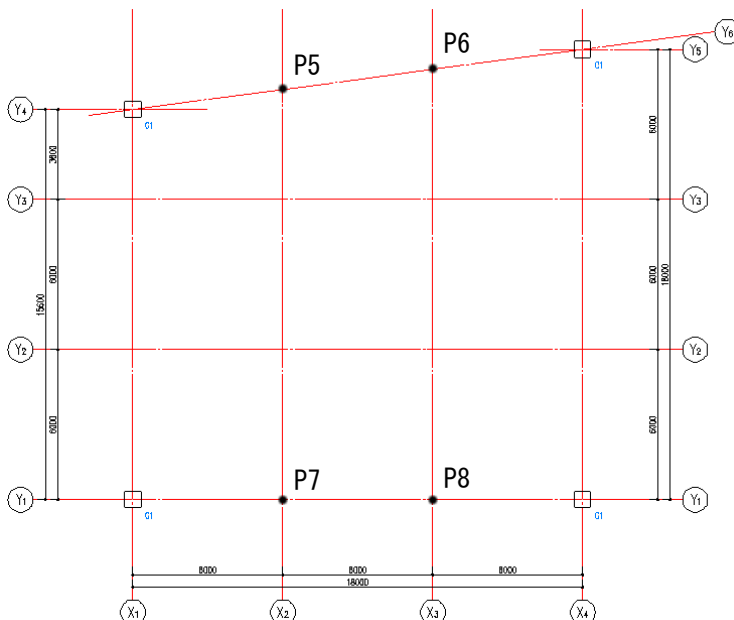
》柱作図位置を指示<終了>: 



- ⑧ <RC 角柱> コマンドを繰り返し実行します。


表示したダイアログボックスで 柱符号「C2」に設定し、他は初期値のまま【個別配置】をクリックします。


- ⑨ 操作手順 ⑤～⑥を繰り返して、作図位置 P5～P8 に中心で作図します。  でコマンドを終了します。

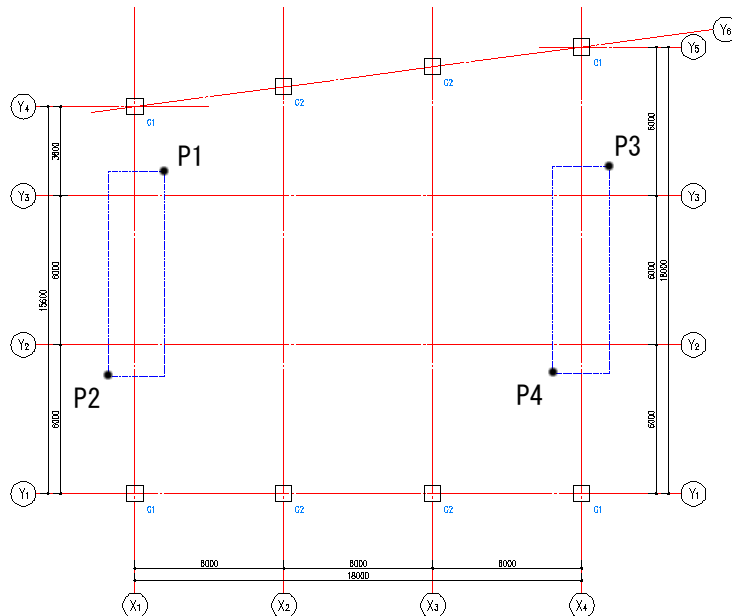



- ⑩ <RC 角柱> コマンドを繰り返し実行します。


表示したダイアログボックスで 柱符号「C3」に設定し、他は初期値のまま【一括配置】をクリックします。

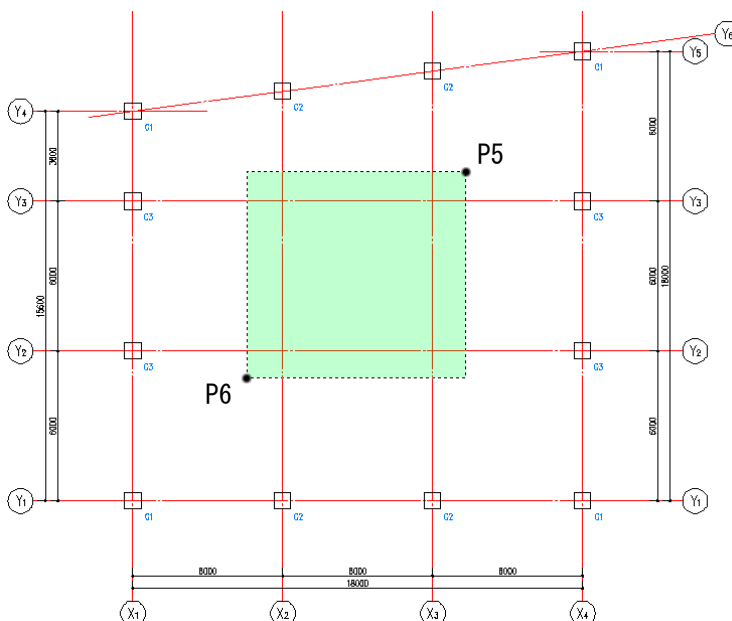
- ⑪ 画面上で柱を配置する通り芯を交差選択した後で、 で図形選択を終了します。

- 》 柱を配置する通り芯を指示： (P1 を指示)
- 》 もう一方のコーナーを指定： (P2 を指示)
- 》 柱を配置する通り芯を指示： (P3 を指示)
- 》 もう一方のコーナーを指定： (P4 を指示)
- 》 柱を配置する通り芯を指示： オブジェクトを選択： 

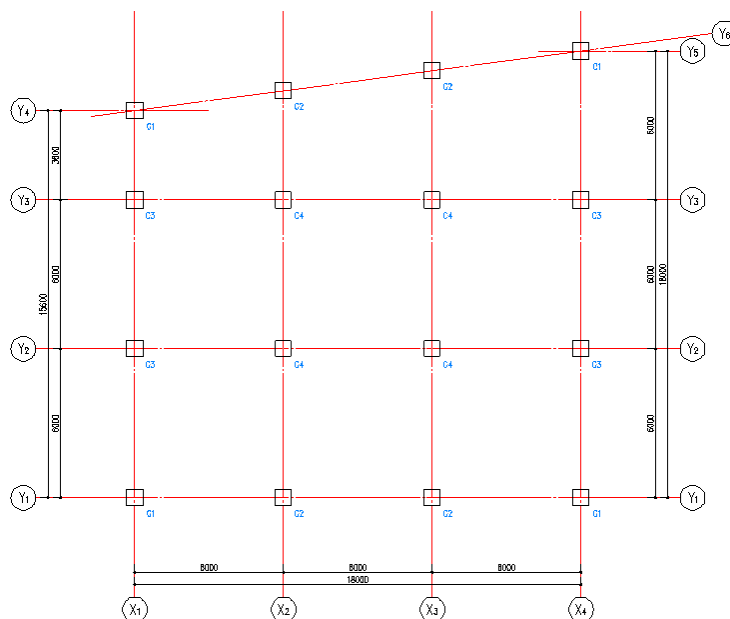


- ⑫ <RC 角柱> コマンドを繰り返し実行します。表示したダイアログボックスで 柱符号「C4」に設定し、他は初期値のまま【一括配置】をクリックします。
- ⑬ 画面上で柱を配置する通り芯を交差選択した後で、 で図形選択を終了します。

- 》 柱を配置する通り芯を指示： (P5 を指示)
- 》 もう一方のコーナーを指定： (P6 を指示)
- 》 柱を配置する通り芯を指示： オブジェクトを選択： 



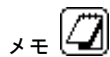
⑭ RC 柱が配置されます。



RC 角柱で作図した柱部材は、部材、符号等がオブジェクト化されます。

オブジェクト図形を個別に自由編集する場合は、グループをオフに行います。

グループのオン/オフの切り替えは、【Ctrl】+【Shift】+【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン/オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効になります。



グループ オフの状態でも部材オブジェクトの配置は可能です。

必ずグループ オン状態にしておく必要はありません。



オブジェクト図形には、《構造図一般》の＜オブジェクト更新＞コマンドや＜オブジェクト編集＞コマンドが使用可能です。

(2) RC 柱の角度変更

斜めの Y6 通り上の柱を通り芯と同じ角度に回転させます。

【Ctrl】+【Shift】+【A】キーを押して、コマンドラインの下記の表示を確認します。

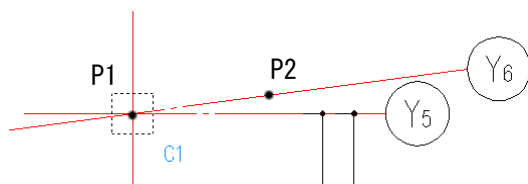
コマンド: <グループ オフ>

① CAD ソフトの回転 (RO) コマンドを実行して、Y6 通りと X4 通りの交点にある柱 C1 の柱線 4 本を窓選択で指示します。(符号は選択しない)

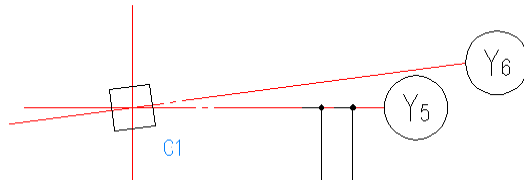
② 基点と回転角度を指定します。

》基点を指定: (P1 を指示)

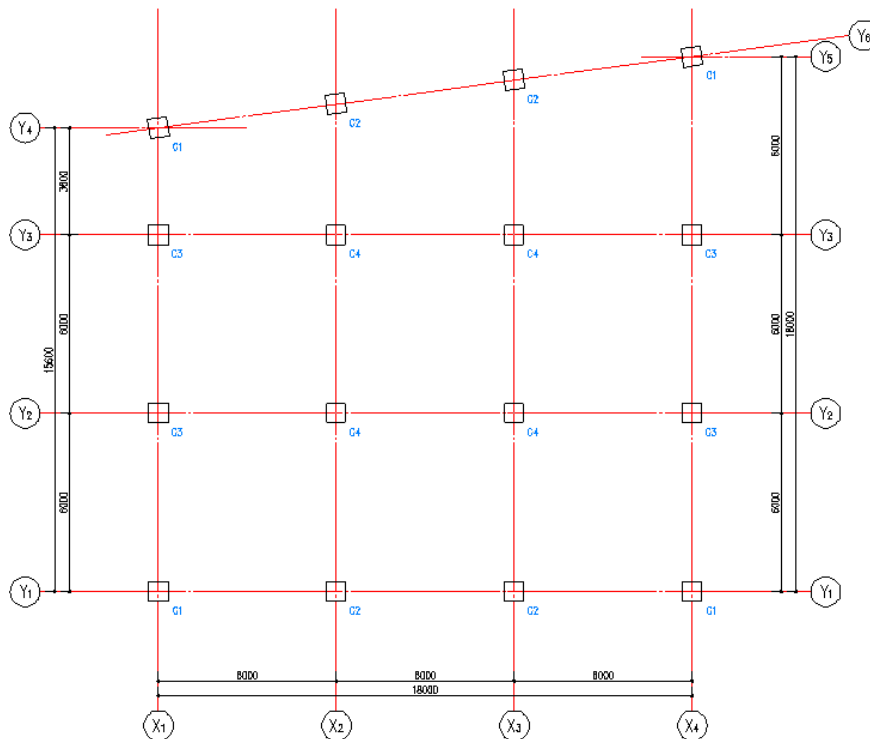
》回転角度を指定 または [コピー(C)/参照(R)] <0>: (P2 を指示)



- ③ 柱が指定した角度で回転されます。



- ④ 操作手順 ①～②の操作を繰り返して、下図のように、Y6 通り上の他の柱も回転させます。




1-5 大梁を作図する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」を設定しておきます。

下記の手順で、大梁を作図します。

(1) 大梁の作図

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜RC 梁＞コマンド  を選択します。
- ② 梁作図のダイアログボックスが表示するので、下記のように設定して【ハンチ・ふかし】をクリックします。



- ・ 梁符号 : G1
- ・ 梁幅 : 同一 400
- ・ 梁成 : 同一 800


他は初期値

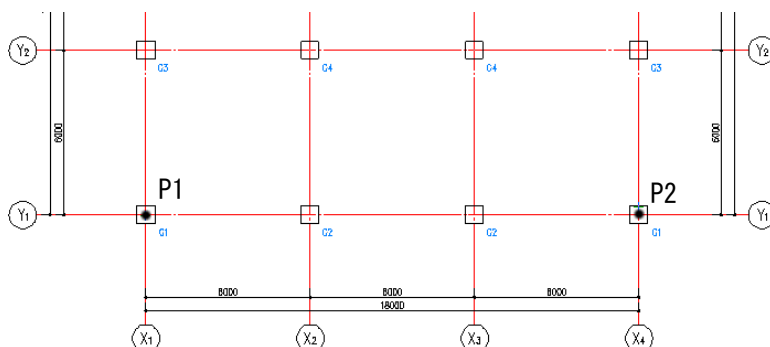
- ③ 梁ハンチ・ふかしのダイアログボックスが開くので、F1～F4 を「50」に設定して【OK】をクリックします。




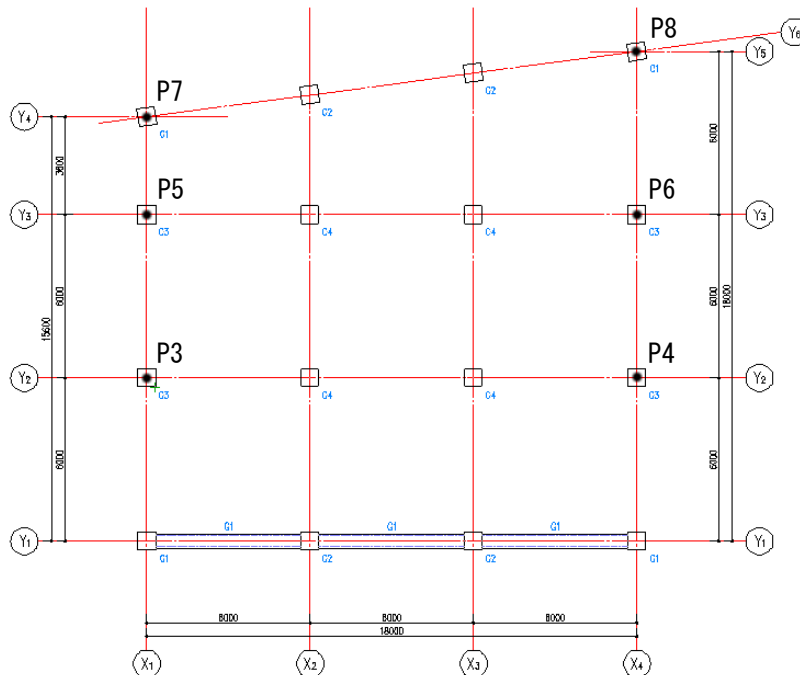
- ④ 梁作図のダイアログボックスに戻るので、【平面作図】をクリックします。


Y1 通り上の柱芯から柱芯に、中心合せて一括作図します。

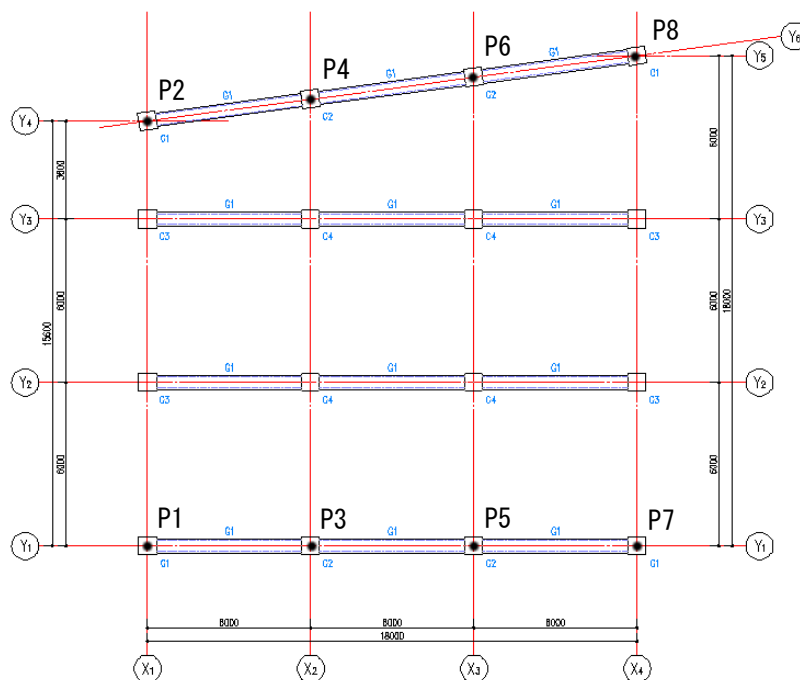
- 》 梁作図始点を指定<終了> : (P1 を指示)
- 》 梁作図終点を指定<終了> : (P2 を指示)
- 》 作図方向を指定<中心> :  (中心の場合 :  を入力)




- ⑤ 続けて作図できるので、操作手順④を繰り返し、P3～P4、P5～P6、P7～P8 に中心合せで作図して、 でコマンドを終了します。



- ⑥ <RC 梁>コマンドを繰り返し実行します。表示したダイアログボックスで 梁符号「G2」に設定し、他は初期値のまま【平面作図】をクリックします。
- ⑦ 操作手順④を繰り返し、P1～P2、P3～P4、P5～P6、P7～P8 に中心合せで作図して、 でコマンドを終了します。



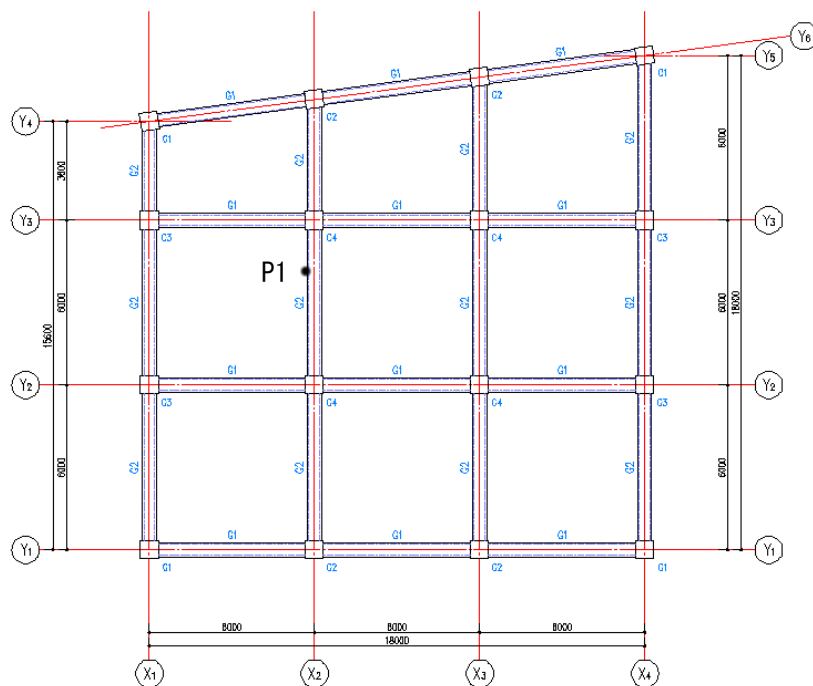
メモ  ダイアログボックスで「寄り」にチェックして数値入力すると、作図方向が“中心”の場合に反映されます。

(2) 大梁の種類 (属性) 変更

- ① リボンメニューの [NEO i 構造図] - 《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンド **ED** を選択します。

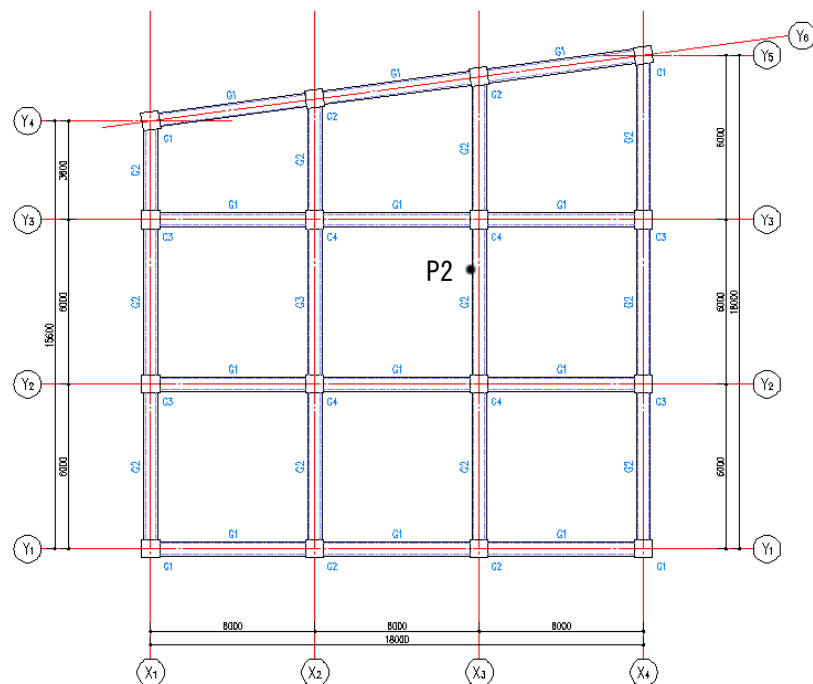
- ② 種類を変更する大梁を選択します。

》編集するオブジェクトを指示： (P1 を指示)

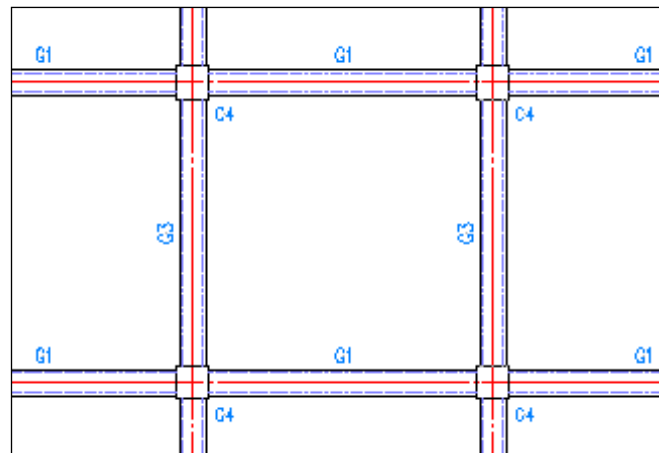
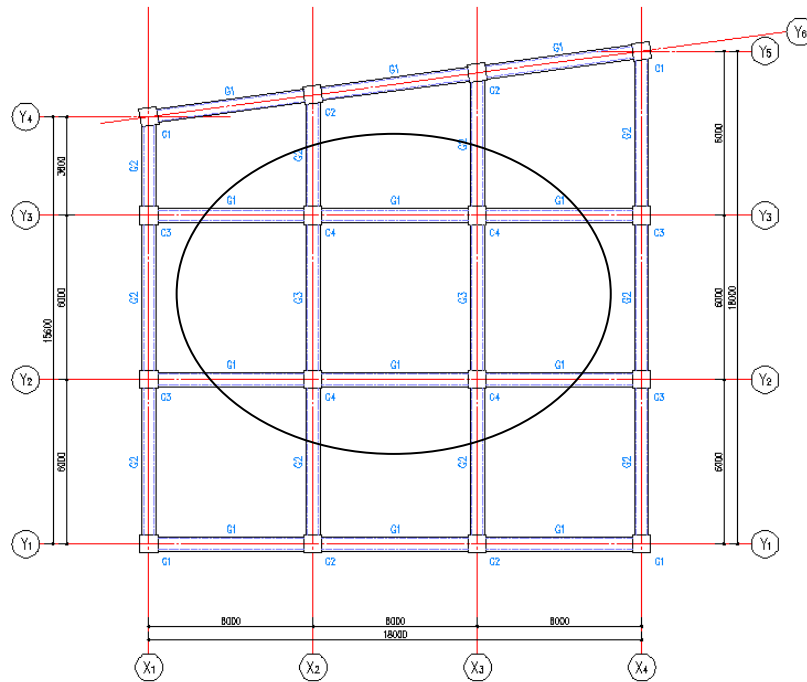


- ③ 梁編集ダイアログボックスが表示するので、梁符号を「G3」に変更して【OK】をクリックします。G2の梁がG3に変更されます。

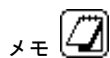
- ④ <オブジェクト編集>コマンドを繰り返し実行して、もう1つ大梁 (P2) を選択します。



- ⑤ 同様に、梁編集ダイアログボックスで梁符号を「G3」に変更して【OK】をクリックします。



1-6 小梁を作図する

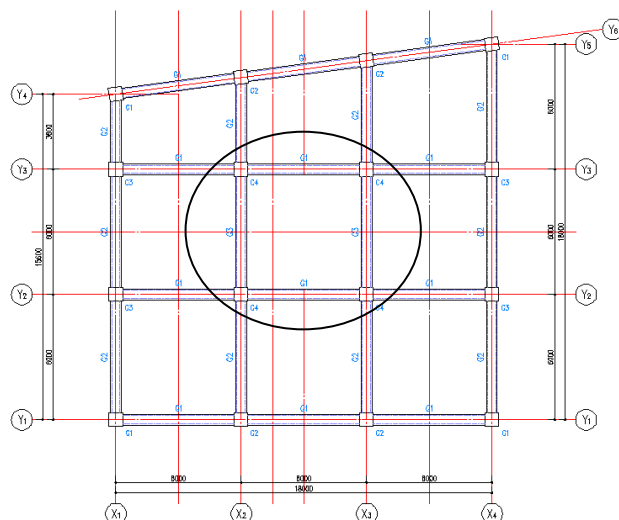


メモ あらかじめ、定常OSNAPの「交点」を設定しておきます。

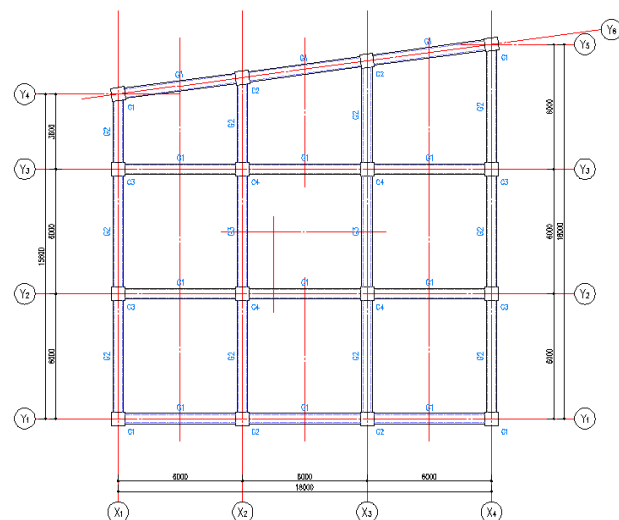
(1) 補助線の作図

小梁作図の為の補助線を作図します。

- ① CAD ソフトのオフセット (O) コマンドを実行します。
- ② オフセット距離を「3000」として、X1 通りを選択して右側へオフセットします。
- ③ 続けて、X2 通りを選択して右側へオフセット、X3 通りを選択して右側へオフセット、Y2 通りを選択して上側へオフセットして、コマンドを終了します。
- ④ 再度オフセットコマンドを実行して、オフセット距離「1500」とし、X2 通りを選択して右側へオフセットして、コマンドを終了します。
- ⑤ トリム (TR) コマンドを実行して、下図のように、X2-X3 通り間の垂直の補助線を大梁を境界線として中抜きします。




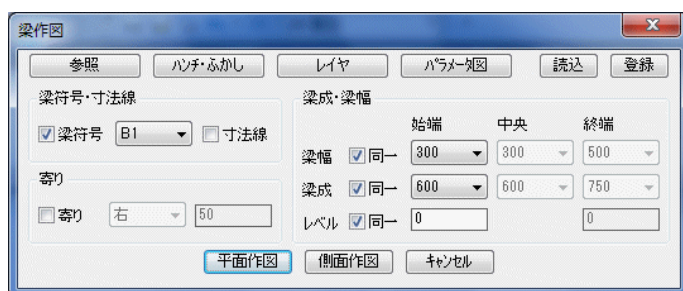
- ⑥ 極トラッキングをオンにしてからグリップの端点をドラッグして、下図のように補助線を伸縮します。(Esc キーでグリップ解除)



(2) 小梁の作図

下記の手順で、小梁を作図します。


- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜RC 梁＞コマンド  を選択します。
- ② 梁作図のダイアログボックスが表示するので、下記のように設定して【平面作図】をクリックします。
 - ・梁符号：任意 → 梁符号ダイアログボックスで「B1」と入力して【OK】をクリック
※この操作で「梁符号：B1」がリストに追加されます。
 - ・梁幅：同一 300 ・梁成：同一 600
 - ・ハンチ・ふかし：F1～F4 50 他は初期値



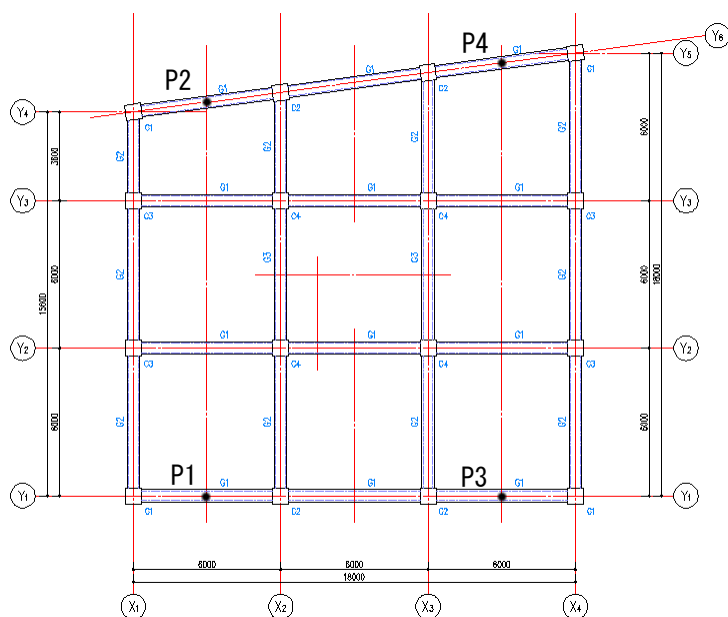
- ③ X1～X2 通り間の補助線上に、中心合せて一括作図します。

》梁作図始点を指定<終了>：(P1 を指示)

》梁作図終点を指定<終了>：(P2 を指示)


》作図方向を指定/<中心>： 

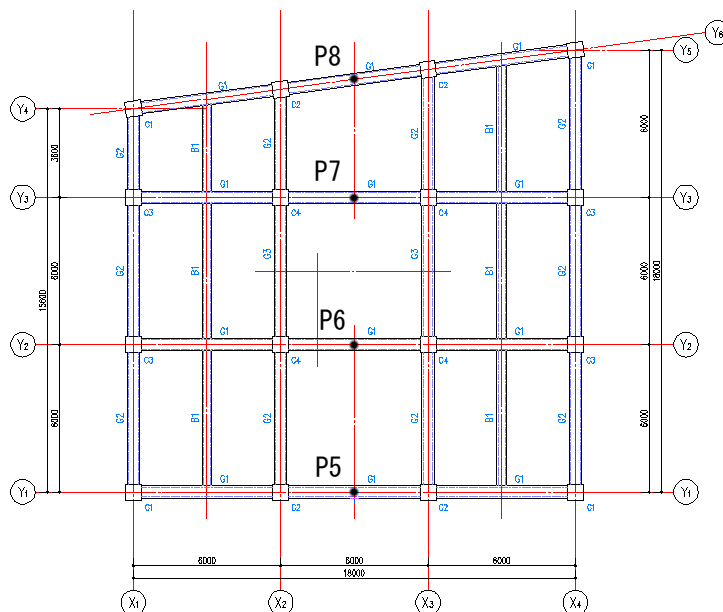
- ④ 続けて③を繰り返し、P3～P4 に一括作図して、 でコマンドを終了します。



- ⑤ ＜RC 梁＞コマンドを繰り返し実行します。

表示したダイアログボックスで 梁符号「B3」に設定し、他は初期値のまま【平面作図】をクリックします。

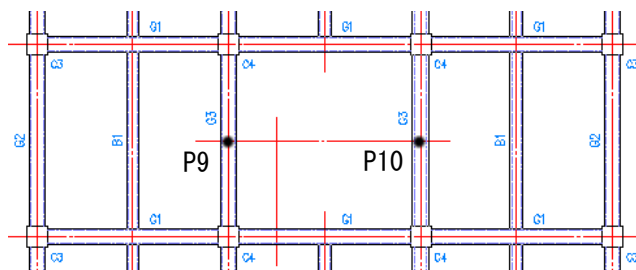
- ⑥ 操作手順③を繰り返し、P5～P6、P7～P8 に作図して、 でコマンドを終了します。



- ⑦ <RC 梁>コマンドを繰り返し実行します。

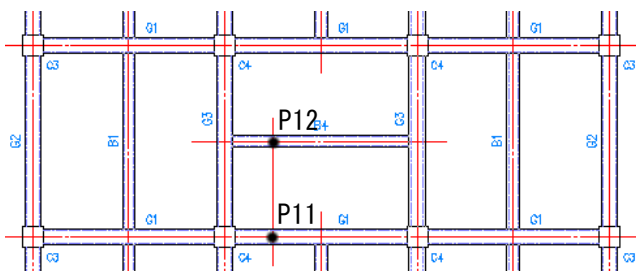
表示したダイアログボックスで 梁符号「B4」に設定し、他は初期値のまま【平面作図】をクリックします。

- ⑧ P9～P10 に中心合せて作図して、 でコマンドを終了します。

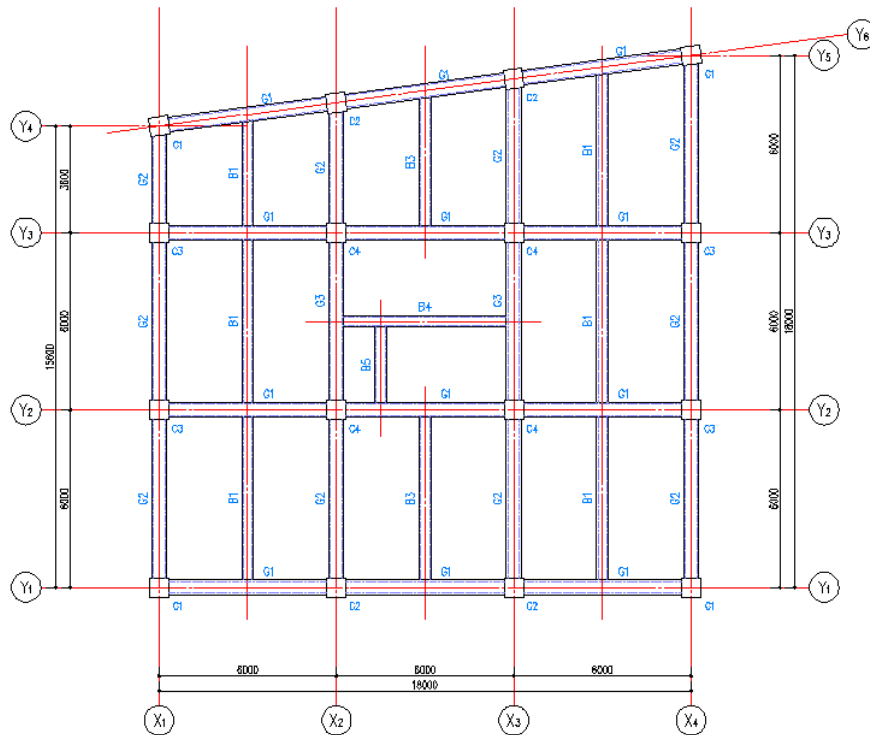


- ⑨ <RC 梁>コマンドを繰り返し実行します。

梁符号「B5」に設定して、P11～P12 に中心合せて作図して、 でコマンドを終了します。



小梁がすべて作図されました。

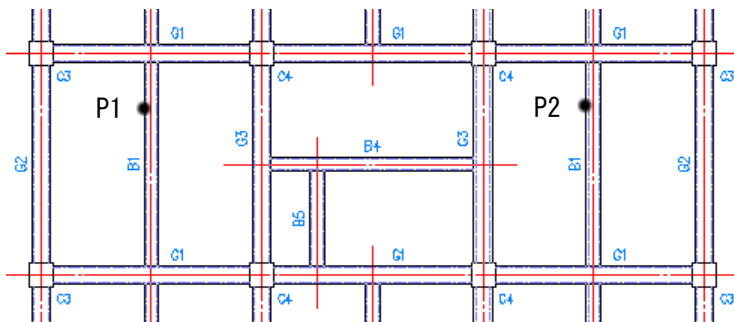


(3) 小梁の種類（属性）変更

① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンド **ED** を選択します。

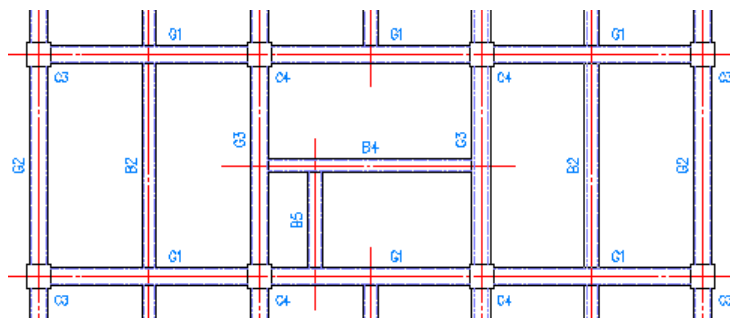
② 種類を変更する小梁を選択します。

》編集するオブジェクトを指示：（P1 を指示）





③ 梁編集ダイアログボックスが表示するので、梁符号を「B2」に変更して **【OK】** をクリックします。B1 の梁が B2 に変更されます。

- ④ <オブジェクト編集>コマンドを繰り返し実行して、もう 1 つ小梁 (P2) を選択して、「B2」に変更します。



1-7 耐震壁を作図する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」を設定しておきます。

メモ  ZOOM コマンドで真ん中の柱 4 本を拡大します。
キーボードから「V2」 として、現在のビューを登録します。

下記の手順で、耐震壁を作図します。

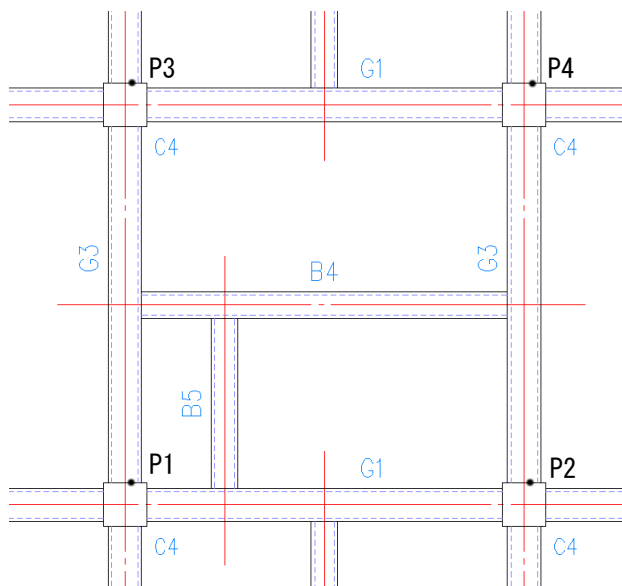
(1) 耐震壁と接続する柱の属性変更

これから作図する耐震壁と接続する柱の属性を変更します。

① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンド **ED** を選択します。

② 編集する柱オブジェクトを 1 つ選択します。

》編集するオブジェクトを指示：（P1 を指示）




③ 柱編集ダイアログボックスが表示されるので、「包絡」のチェックをオフにして、【OK】をクリックすると、変更した内容で柱が再作図されます。

この操作で、この柱に接続する壁を作図しても、柱が包絡されないようになります。（この時点では画面上での変化はありません。）

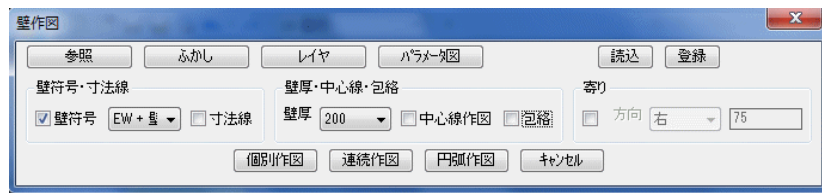
④ 他の柱の属性も変更するので、①～③の操作を繰り返して、P2、P3、P4 の柱の「包絡」のチェックをオフにします。

(2) 耐震壁の作図

① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜壁作図＞コマンド  を選択します。

- ② 壁作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【個別作図】をクリックします。

・壁符号：EW+壁厚　・壁厚：200　・包絡：チェック OFF　他は初期値

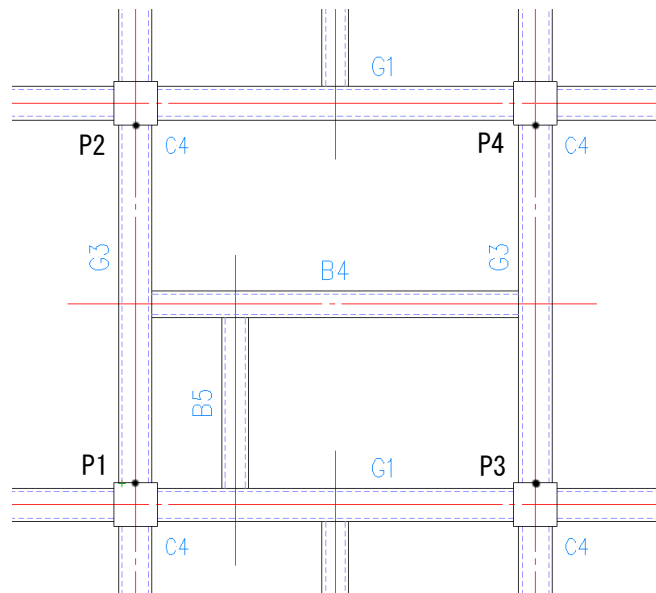


- ③ 画面上で壁の始点・終点を指示して、中心合せで作図します。

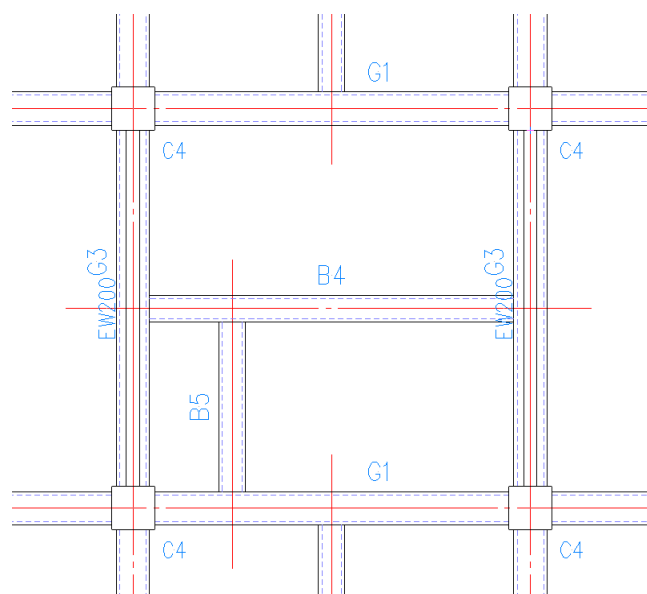
》壁作図始点を指定<終了>：(P1 を指示)

》壁作図終点を指定<終了>：(P2 を指示)

》作図方向を指定/<中心>：☞

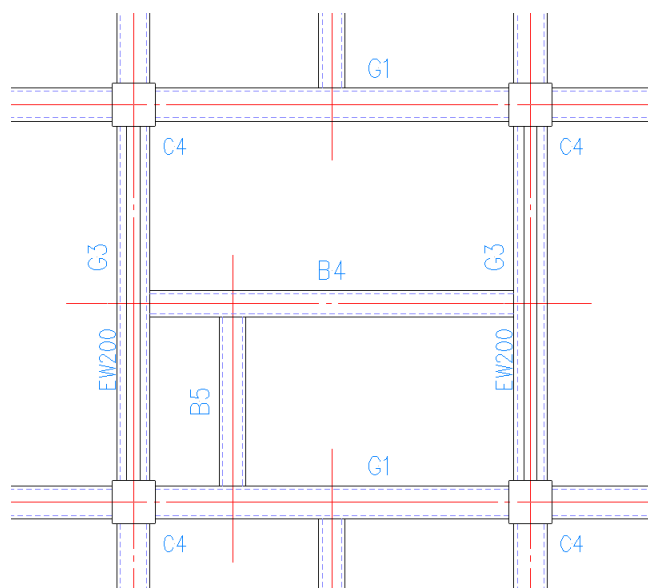


- ④ 同様の操作で、P3、P4 に耐震壁を作図して、☞でコマンドを終了します。





⑤ 耐震壁の符号を移動します。

CAD ソフトの移動 (M) コマンドを実行して、耐震壁 **EW200** の符号を 2 つ共、下に移動します。



1-8 階段を作図する

下記の手順で、階段を作図します。

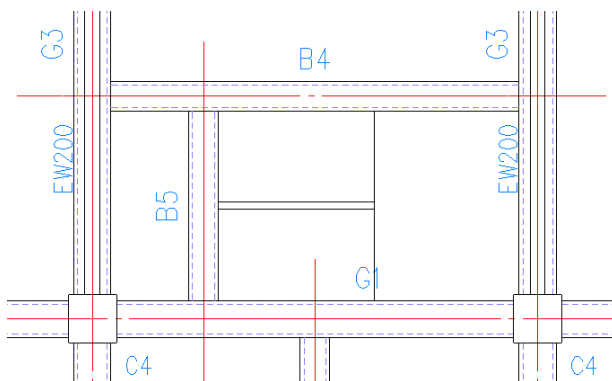
メモ  キーボードから「V2」 として、階段を作図する範囲を表示します。

(1) 階段の作図

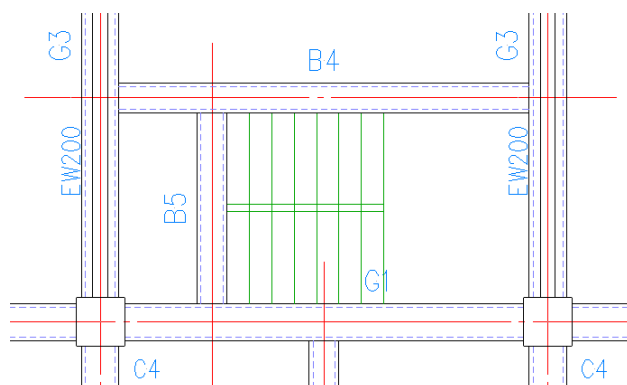
CAD ソフトの編集コマンド等を使用して階段を作図します。

現在のレイヤーを「ZATU」に変更します。

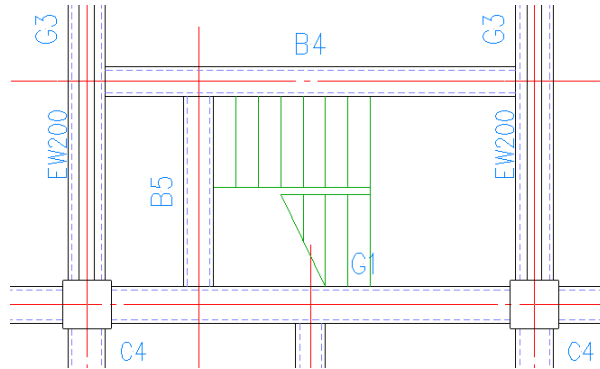
- ① オフセット (O) コマンドを実行します。
- ② オフセット距離「2200」で、右の大梁 G3 の通り芯 (X3 通り) を選択して左側へオフセットして、コマンドを終了します。
- ③ 再度オフセットコマンドを実行して、オフセット距離「1425」で、上側の小梁 B4 の通り芯を選択して下側へオフセットしてコマンドを終了します。
- ④ 再度オフセットコマンドを実行して、オフセット距離「1475」で、下側の大梁 G1 の通り芯 (Y2 通り) を選択して上側へオフセットして、コマンドを終了します。
- ⑤ TRIM (TR) コマンドで、下図のように編集します。



- ⑥ オフセットした線を ZATU レイヤーに変更します。
- ⑦ 再度オフセットコマンドを実行して、距離「300」で階段線（縦線）を選択して、左に 6 本平行複写してコマンドを終了します。

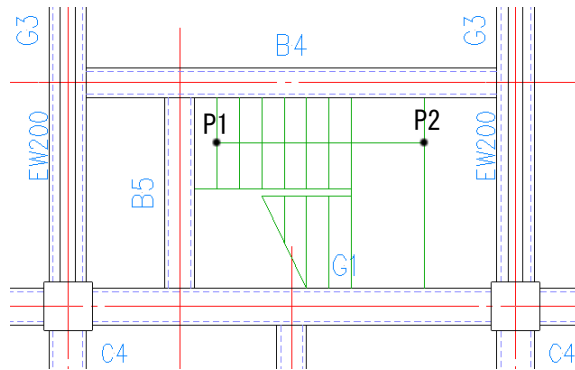


- ⑧ 線分コマンドで、下図のように斜めの線を作図して、TRIM や削除コマンドで階段線を編集します。



(2) 矢印の作図

- ① オフセットコマンドを実行して、距離「975」で右側の階段線（縦線）を選択して、右に平行複写します。
- ② 線分コマンドで、階段の midpoint (P1) から垂直な点 (P2) を指示して線を作図します。



- ③ リボンメニューの [NEO i 基本] -《作図／記号》またはメインツールバーの《作図／記号》ツールバーから、＜矢印作図＞コマンドを選択します。



- ④ 矢印作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

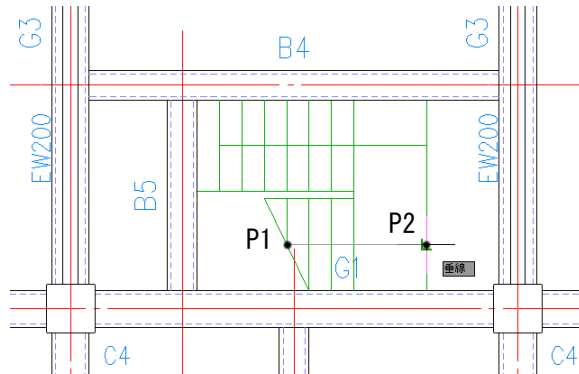


⑤ 始点と次の点を指示して矢印を作図し、コマンドを終了します。

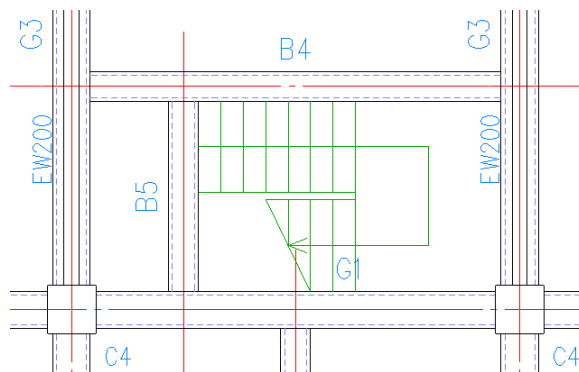
》 始点を指示：（OSNAP 交点で P1 を指示）

》 次の点：（OSNAP 垂線で P2 を指示）

》 次の点(retrun=終了)： 

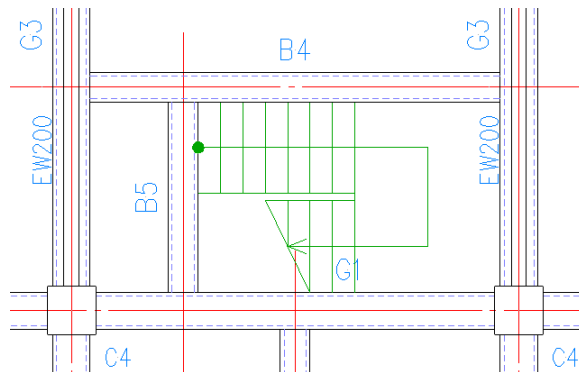


⑥ 設定したサイズの矢印図形が作図されるので、TRIM や延長コマンドで下図のように編集します。



⑦ CAD ソフトのドーナツ（D0）コマンドで、矢印図形の元の点に下記の設定で黒丸を作図します。

内側の直径：0 外側の直径：150



1-9 文字を記入する

下記の手順で文字を記入します。

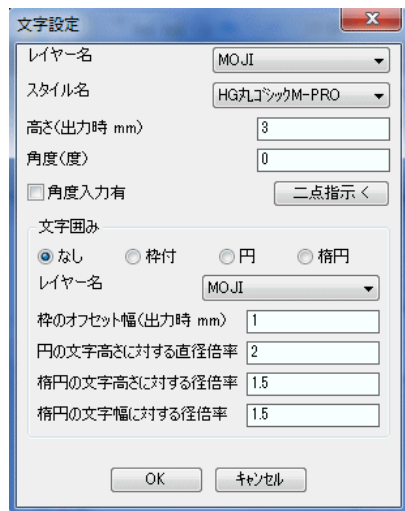
(1) 文字の記入

<1> 文字設定

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」-《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから<文字設定>コマンドを選択します。




- ② 文字設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・スタイル名：HG 丸ゴシック M-PRO

他は初期値


メモ  この設定は、これ以降に《文字／引出線》メニューの<文字記入>や<スタンプ>コマンドで作図した文字に反映されます。

<2> 文字記入

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」-《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから、<文字記入 右>コマンド  を選択します。


- ② 文字の垂直方向の基点を「M=中」に変更して、文字の基点（右中央）の位置を指示します。

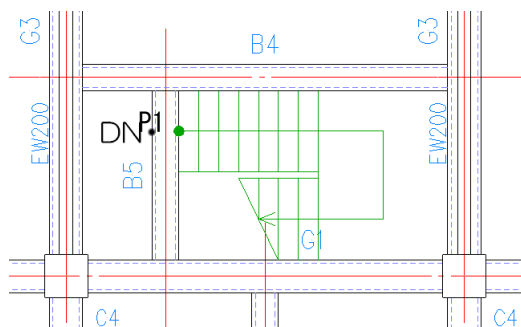
記入する文字列を入力して、コマンドを終了します。

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=B]: M 

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]: (P1 を指示)


》文字列を入力(Enter=挿入点指示): DN

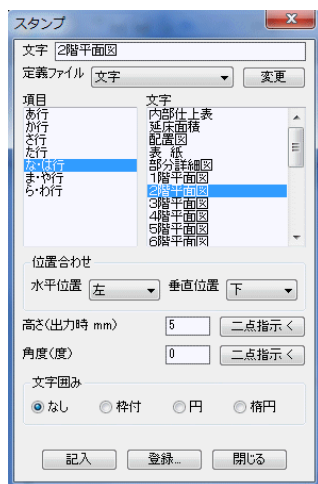
》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]: 



(2) 図面名称の記入


メモ  キーボードから「V1」 として、伏図全体を表示します。

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから、＜スタンプ＞コマンド  を選択します。
- ② スタンプのダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【記入】をクリックします。

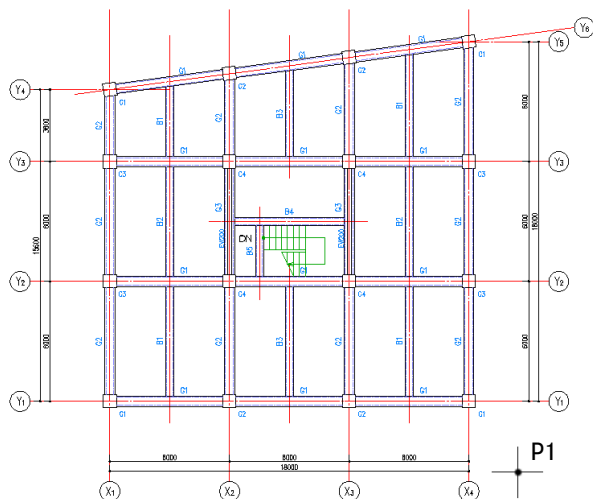



- ・定義ファイル：文字
- ・項目：な・は行
- ・文字：2階平面図
- ・位置合わせ：水平位置 左 / 垂直位置 下
- ・高さ（出力時 mm）：5

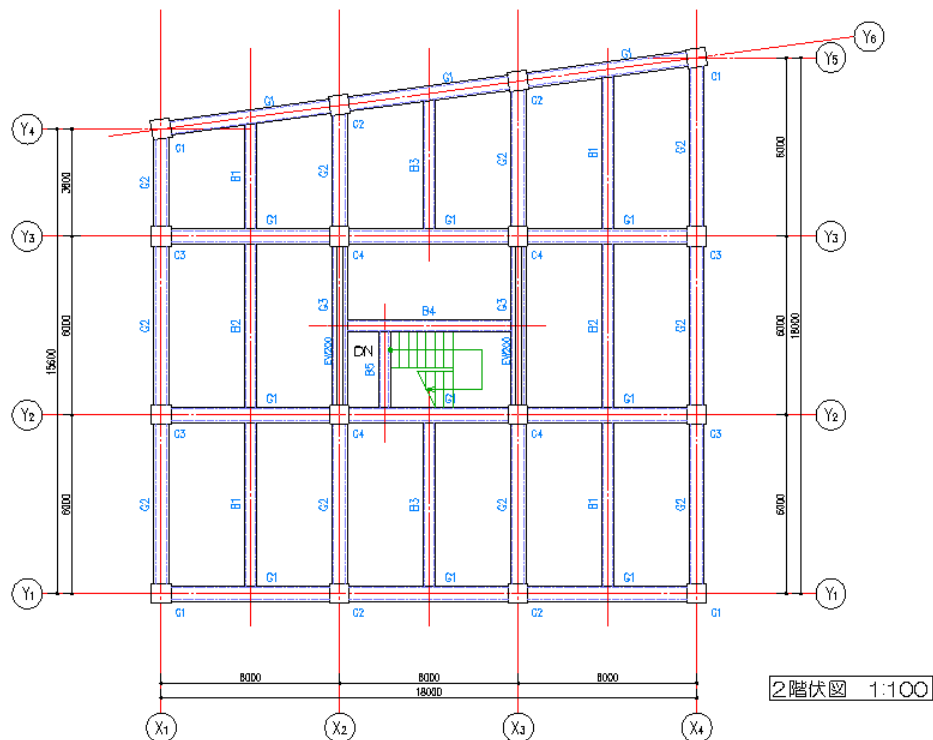
他は初期値

- ③ 配置する文字の基点位置（P1）を指示します。続けて同じ文字を配置できますが、 で終了します。

》挿入点を指示 (Enter=終了)：(P1 を指示)



- ④ 再びスタンプのダイアログボックスが表示するので、【閉じる】をクリックしてコマンドを終了します。
- ⑤ 配置した文字をダブルクリックして、「**2階伏図 1:100**」に変更します。
- ⑥ リボンメニューの [NEO i 基本] - «文字／引出線» またはメインツールバーの «文字／引出線» ツールバーから、<文字枠（四角）> コマンド **AB** を選択します。
- ⑦ 文字枠を付ける文字を選択して、コマンドを終了します。
 - 》文字を選択 (Enter=終了): (文字列を指示)
 - 》文字を選択 (Enter=終了): 

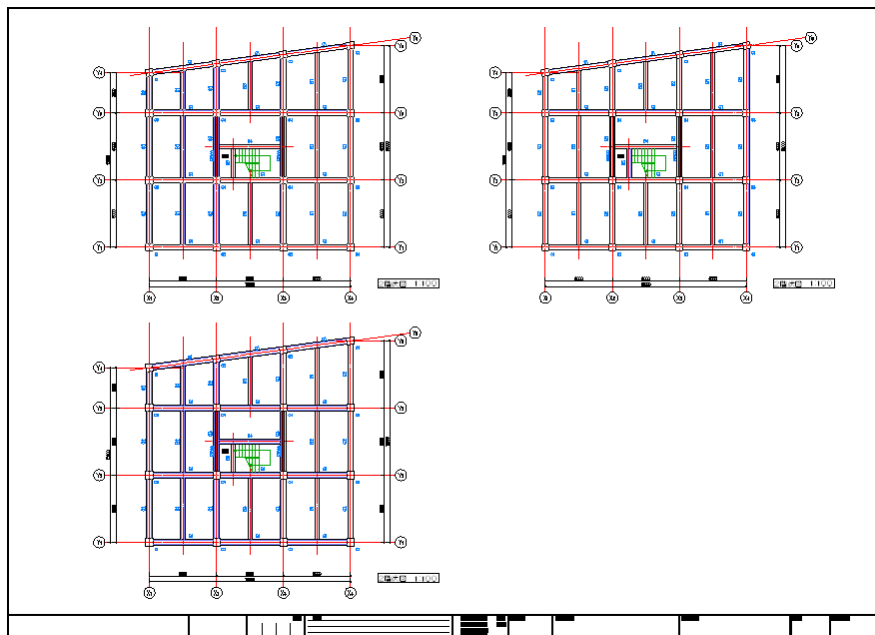




図面全体ズームを実行した後で、CAD ソフトの [名前を付けて保存] コマンドを実行します。
任意の場所に、ファイル名「**伏図**」として保存します。

1-10 伏図をコピーする



下記の手順で2階伏図をコピーします。

- ① CAD ソフトのコピー (CP) コマンドを実行して、2階伏図全体を真っ直ぐ上にコピーします。
- ② コピーした伏図全体を真っ直ぐ右にコピーします。



メモ  コピーした左上の伏図を拡大して、キーボードから「V3」 として、現在のビューを登録します。

- ③ 左上の伏図の図面名称をダブルクリックして、「1階伏図 1:100」に変更します。

メモ  右側の伏図が表示するように画面移動して、キーボードから「V4」 として、現在のビューを登録します。

- ④ 右上の伏図の図面名称をダブルクリックして、「R階伏図 1:100」に変更します。

1-1-1 1階伏図を作成する

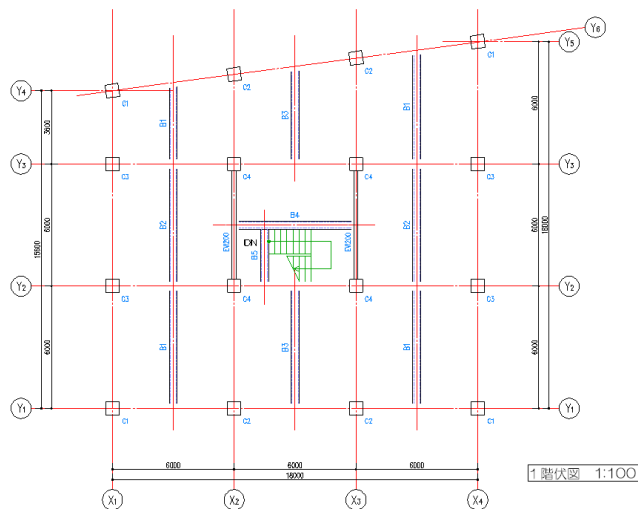
下記の手順で、コピーした2階伏図を1階伏図に編集します。

メモ  キーボードから「V3」 として、1階伏図全体を表示します。

(1) 大梁の削除


【Ctrl】 + 【Shift】 + 【A】 キーを押して、コマンドラインの下記の表示を確認します。
コマンド: <グループ オン>

① 削除 (E) コマンド等で、大梁 (G1、G2、G3) を選択して、全て削除します。

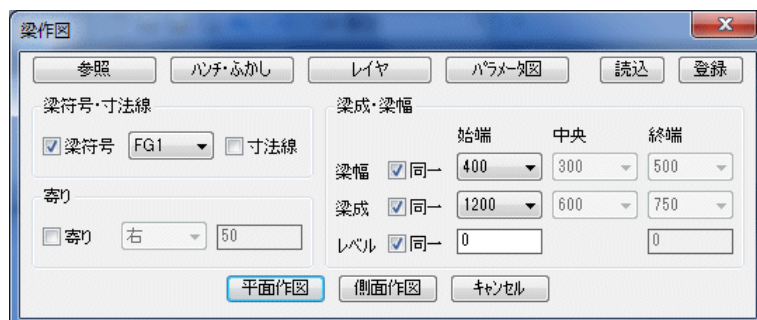


(2) 基礎梁の作図

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの [交点] を設定しておきます。

- ① リボンメニューの [NEO i 構造図] - << 伏図 / 軸組図 >> またはメインツールバーの << 伏図 / 軸組図 >> ツールバーから、< RC 梁 > コマンド  を選択します。
- ② 梁作図のダイアログボックスが表示するので、下記のように設定して【平面作図】をクリックします。


- ・梁符号: 任意 → FG1
- ・梁幅: 同一 400
- ・梁成: 同一 任意 → 1200
- ・ハンチ・ふかし: F1~F4 50 他は初期値

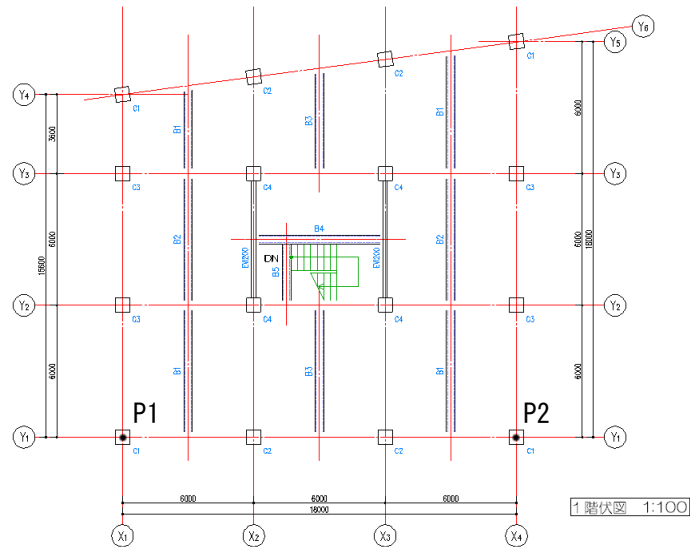



- ③ Y1 通りの柱の柱芯から柱芯まで中心合せて一括作図します。

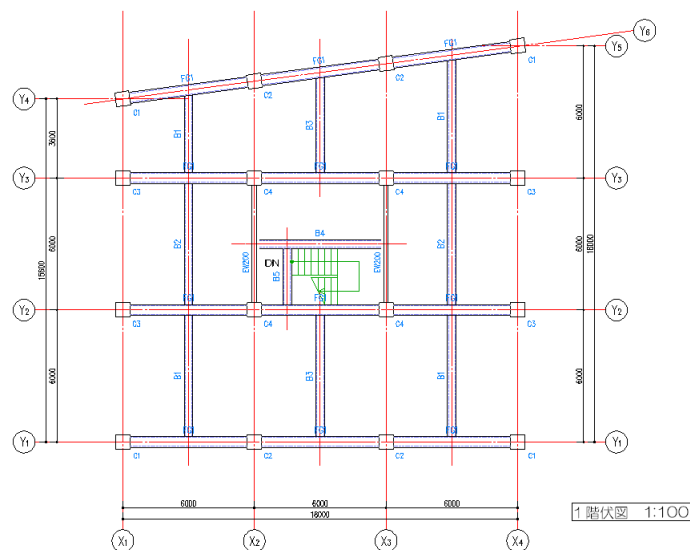
》 梁作図始点を指定<終了>： (P1 を指示)

》 梁作図終点を指定<終了>： (P2 を指示)

》 作図方向を指定/<中心>： 




- ④ 続けて③を繰り返し、Y2、Y3、Y6 通りにも中心合せて一括作図して、でコマンドを終了します。

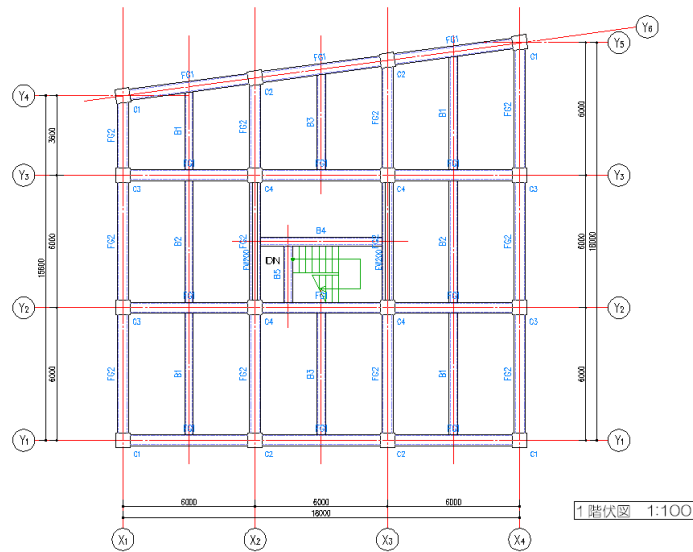


- ⑤ <RC 梁>コマンドを繰り返し実行します。

表示したダイアログボックスで 梁符号「FG2」に設定し、他は初期値のまま【平面作図】をクリックします。

- ⑥ X1 通りの柱の柱芯から柱芯まで中心合せて一括作図します。

X2、X3、X4 通りにも、中心合せて一括作図して、でコマンドを終了します。

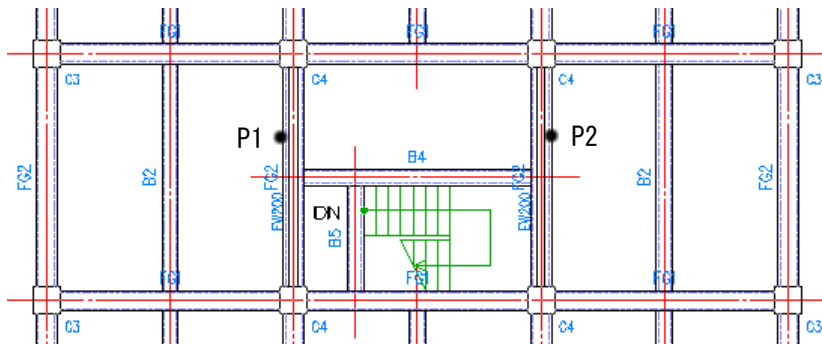


(3) 基礎梁の種類（属性）変更

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンド **EO** を選択します。

- ② 種類を変更する基礎梁を選択します。

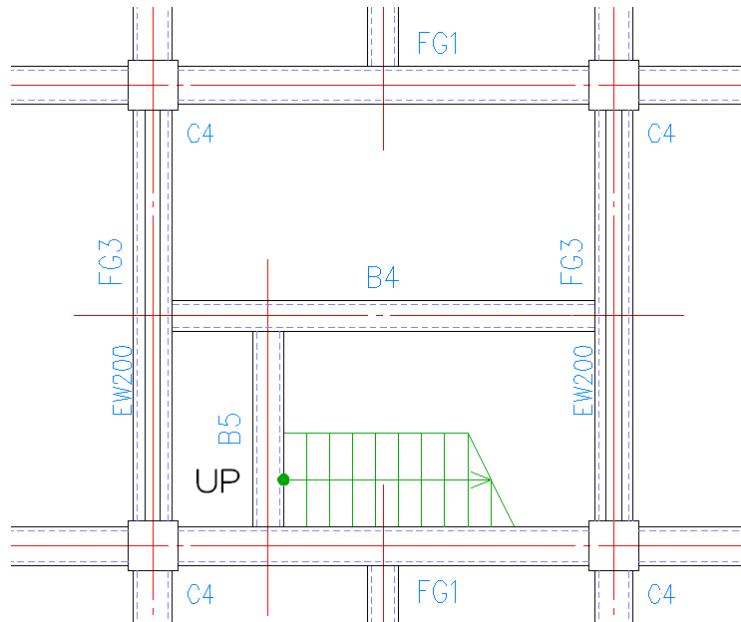
》編集するオブジェクトを指示：（P1 を指示）



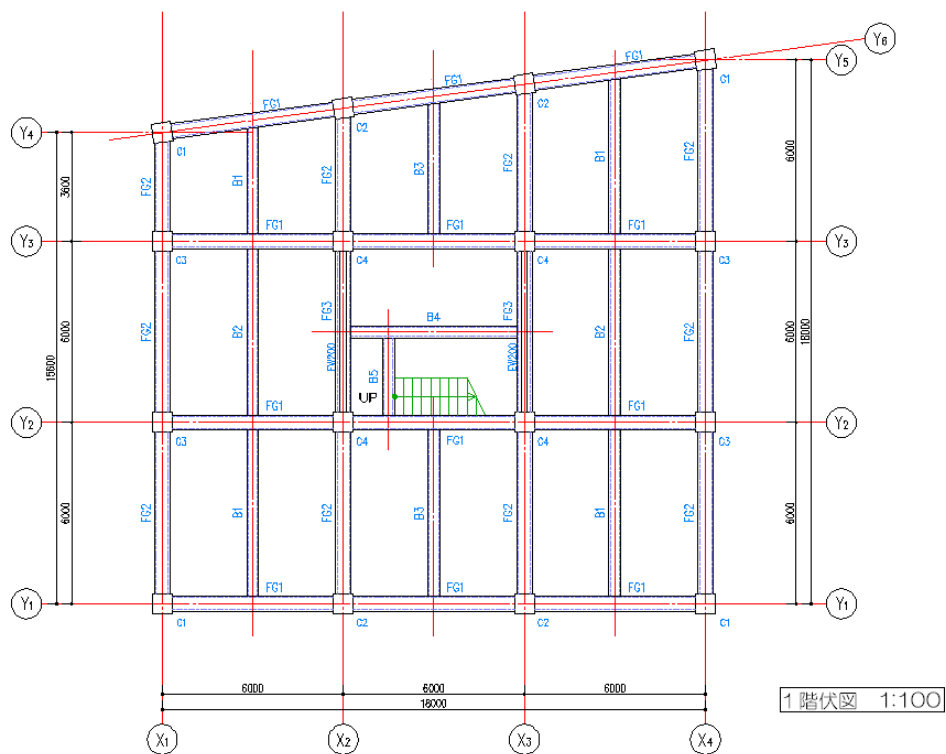
- ③ 梁編集ダイアログボックスが表示するので、梁符号を「FG3」に変更して【OK】をクリックします。FG2 の梁が FG3 に変更されます。
- ④ <オブジェクト編集>コマンドを繰り返し実行して、もう 1 つ基礎梁（P2）を選択して、「FG3」に変更します。

(4) 階段の作図

CAD ソフトの編集コマンドを使用して、下図のように 1 階伏図用の階段に変更します。



1 階伏図が作成されました。



図面全体ズームを実行した後で、[上書き保存] コマンドを実行します。

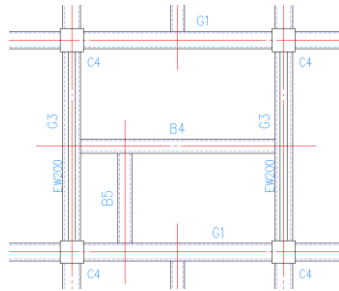
1-12 R階伏図を作成する

下記の手順で、コピーした2階伏図をR階伏図に編集します。

メモ  キーボードから「V4」 として、R階伏図全体を表示します。

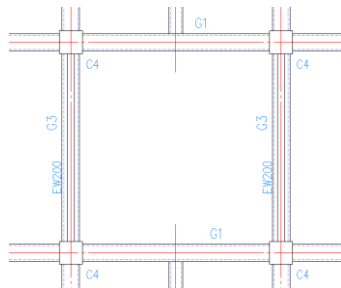
(1) 階段の削除

削除 (E) コマンド等を実行して、階段を削除します。



(2) 小梁と補助線の削除

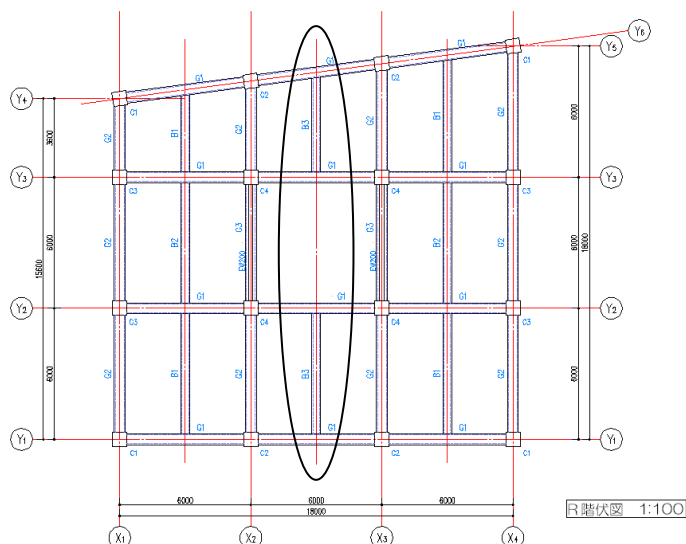
削除 (E) コマンド等を実行して、小梁 B4、B5 とその補助線を削除します。



(3) 小梁の作図

① まず補助線を作図します。

上下どちらかの補助線を削除して、残った補助線を下図のように延長します。

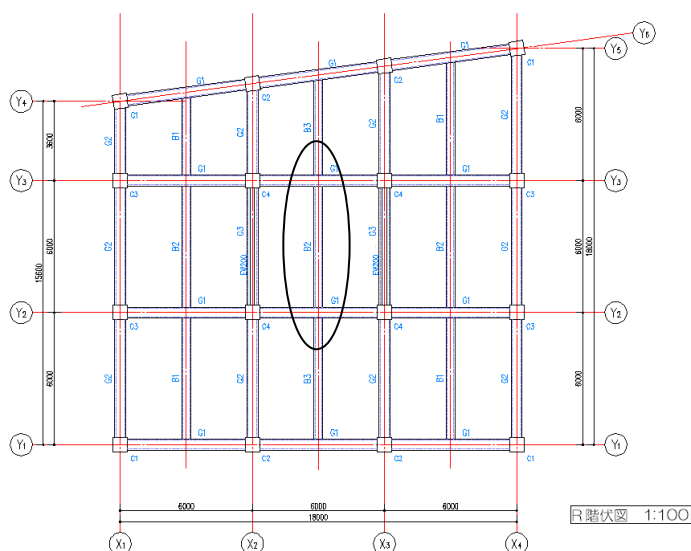


② リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜RC 梁＞コマンド  を選択します。

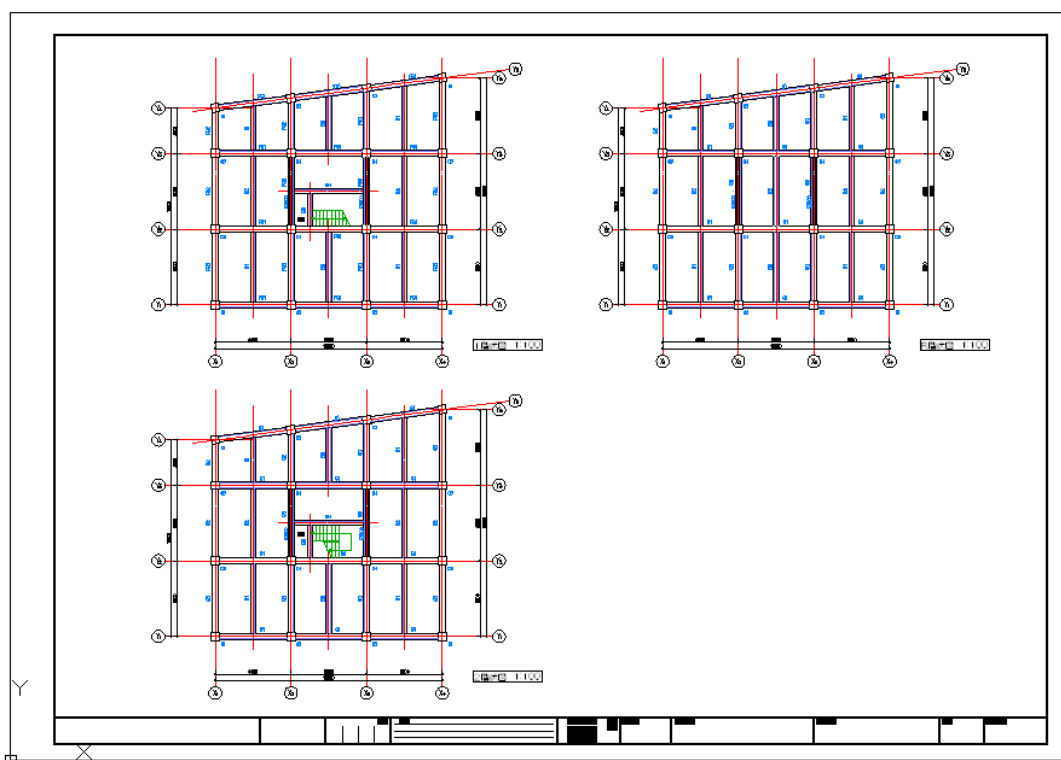
③ 梁作図のダイアログボックスが表示するので、下記のように設定して【平面作図】をクリックします。

- ・梁符号：任意 → B2
- ・梁幅：同一 300
- ・梁成：同一 600
- ・ハンチ・ふかし：F1～F4 50 他は初期値

④ 下図のように、補助線上に中心合せて作図して、コマンドを終了します。



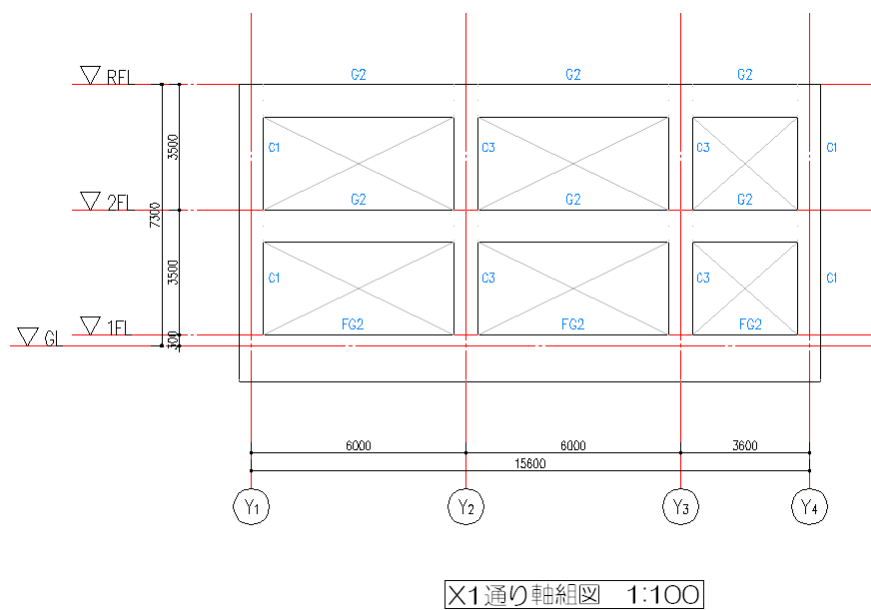
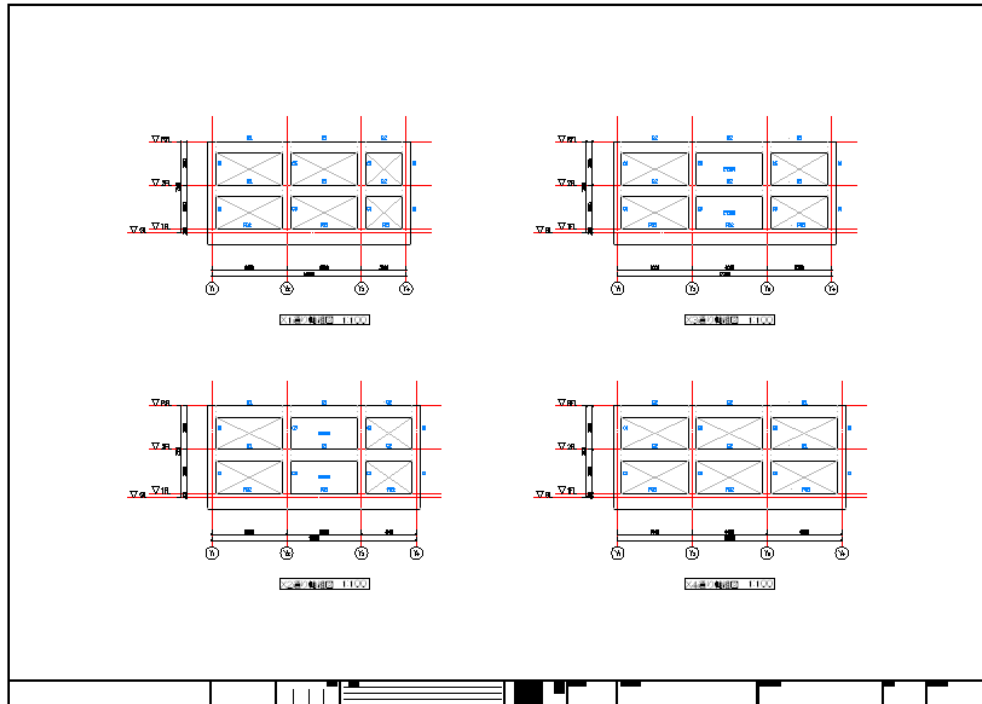
図面全体ズームを実行した後で、[上書き保存] コマンドを実行します。



第2章

軸組図の作成

本章では、『構造図版 adpack-NEO i 』の様々な機能を使用して、下図のような軸組図を作成する手順について説明します。



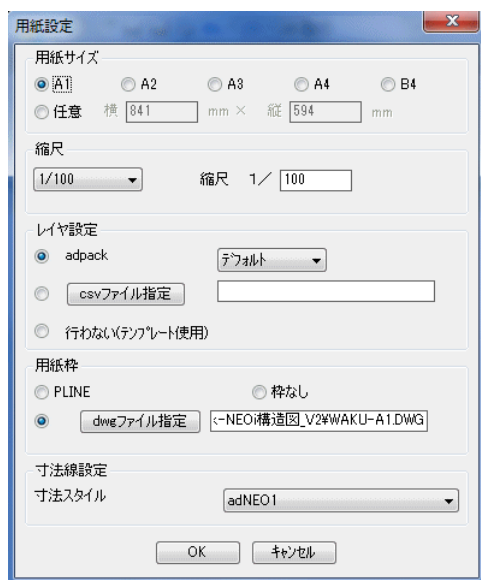
2-1 用紙設定を行う

新規図面を開いて、下記の手順で用紙設定を行います。

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－「基本設定／UCS 他」またはメインツールバーの「基本設定／UCS 他」ツールバーから、＜用紙設定／設定変更＞コマンドを選択します。



- ② 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




- ・用紙サイズ：A1
- ・縮尺：1/100
- ・レイヤ設定：[adpack] － デフォルト
- ・用紙枠：[dwg ファイル指定] － WAKU-A1.dwg
- ・寸法スタイル：adNEO1

- ③ 作図範囲が設定され、画面上に設定した用紙枠が作図されます。



2-2 通り芯を作図する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」と、極トラッキングをオンに設定しておきます。

下記の手順で、軸組図用の通り芯を作図します。

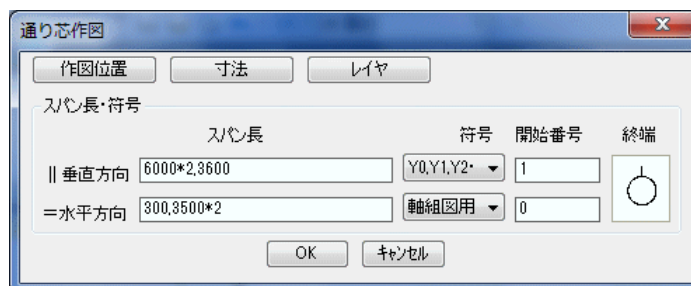
(1) 軸組図用基準線作図

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、＜基準線作図＞コマンドを選択します。

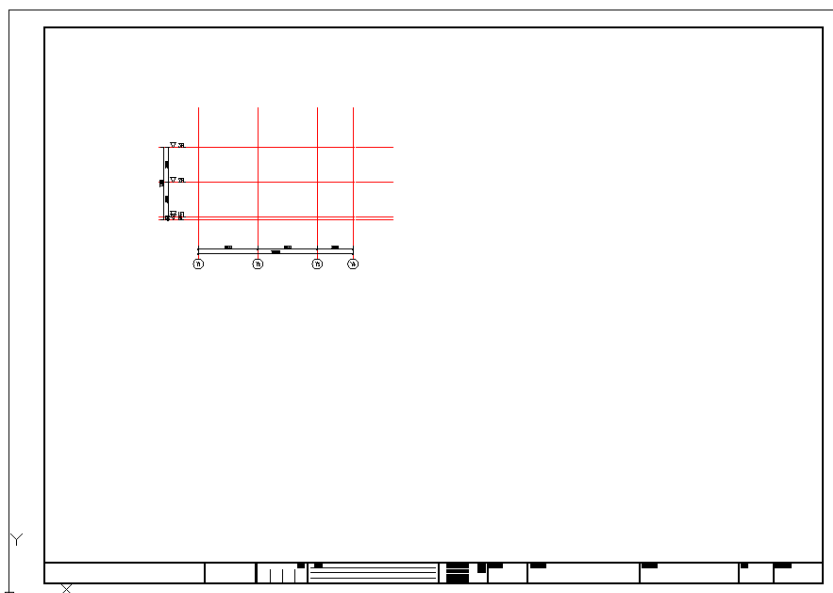


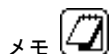
- ② 通り芯作図ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

- ・垂直方向：スパン長「6000*2, 3600」符号「Y0,Y1,Y2・・・」開始番号「1」
- ・水平方向：スパン長「300, 3500*2」符号「軸組図用」開始番号「0」 他は初期値



- ③ 設定した通り芯が表示して左下交点がカーソルに付いてくるので、図面枠の左上に配置します。





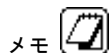
メモ

現在画面に表示されている位置状態の登録を行います。

(全図面が表示されていない場合は、ZOOM コマンド「A (図面全体)」を実行して下さい。) キーボードから「V0」として、現在の全図面表示のビューを登録します。

ZOOM コマンドで、通り芯全体を拡大します。キーボードから「V1」として、現在のビューを登録します。

キーボードから「V0」「V1」として、ビューを呼び出して登録を確認します。



メモ

リボンメニューの「NEO 基本」-《ビュー登録/呼出》またはメインツールバーの《ビュー登録/呼出》ツールバーの<V0><V1>コマンドでも同様の操作が行えます。

ヒント



通り芯と符号は1つのグループで作図されます。

通り芯と符号を個別に扱う場合はグループをオフにして編集を行います。

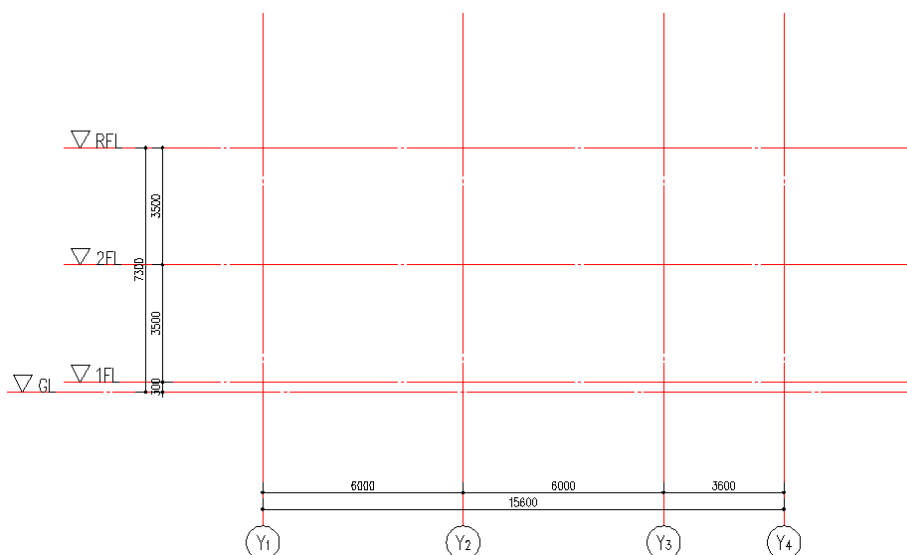
グループのオン/オフの切り替えは、【Ctrl】+【Shift】+【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン/オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効になります。

(2) 階符号や基準線の編集

【Ctrl】+【Shift】+【A】キーを押して、コマンドラインの下記の表示を確認します。

コマンド: <グループ オフ>

- ① 階符号「3FL」を「RFL」に変更します。
- ② CAD ソフトの移動 (M) コマンドで、階符号「1FL」「2FL」「RFL」と▽を選択して、真っ直ぐ左側の任意の位置まで移動します。
- ③ 1FL から RFL の基準線の左端点を、真っ直ぐ左側の任意の位置まで移動します。
- ④ 移動コマンドで、階符号「GL」と▽を選択して、真っ直ぐ左側の任意の位置まで移動します。
- ⑤ GL の基準線の左端点を、真っ直ぐ左側の任意の位置まで移動します。



2-3 RC柱を作図する

下記の手順で、RC柱を作図します。

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜RC 角柱＞コマンドを選択します。



- ② RC 柱作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【成側面】をクリックします。

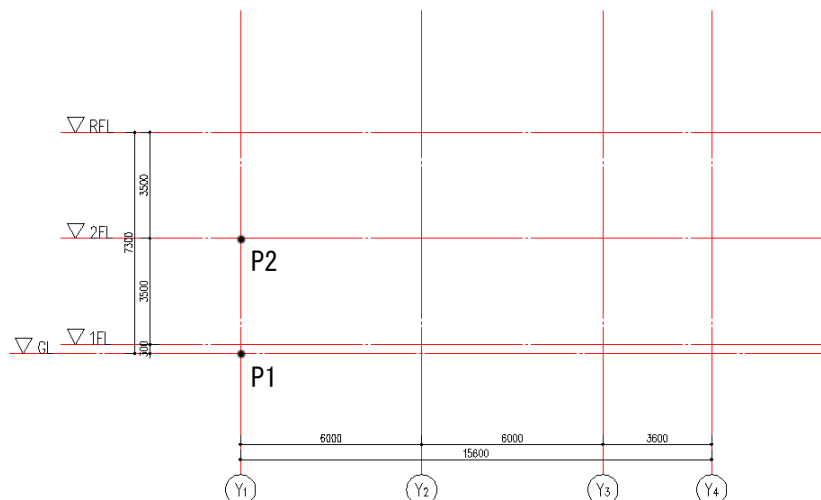
- ・ 柱符号 : C1
- ・ 柱幅 : 650 / ・ 柱成 : 650
- ・ ふかし : F1～F4 「0」


他は初期値




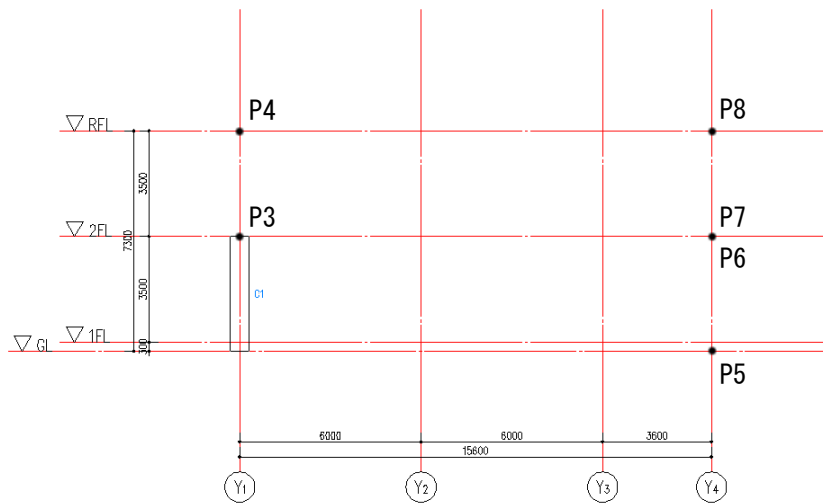
- ③ 画面上で作図位置を指示して、作図方向を指定します。

- 》 柱作図始点を指定<終了> : (P1 を指示)
- 》 柱作図終点を指定<終了> : (P2 を指示)
- 》 作図方向を指定/<中心> :



- ④ 続けて作図できるので、同様の操作で P3～P4 に中心で作図します。P5～P6、P7～P8 にも中心で作図して、でコマンドを終了します。


》柱作図始点を指定<終了>: 

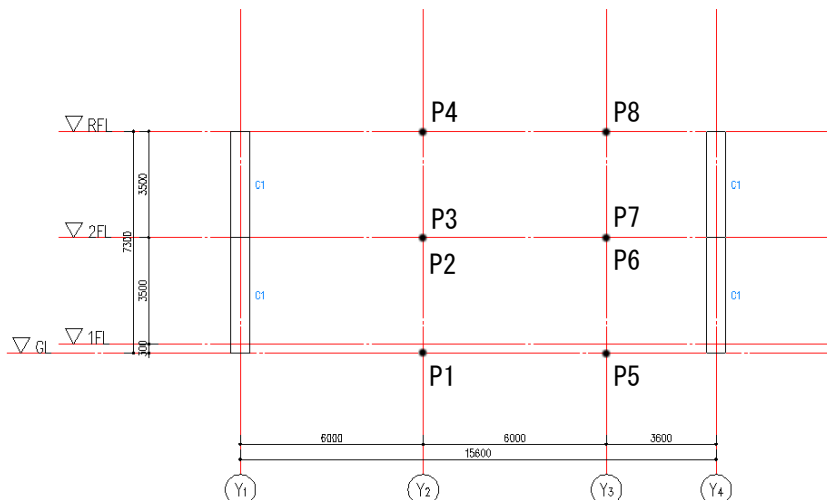


- ⑤ <RC 角柱> コマンドを繰り返し実行します。

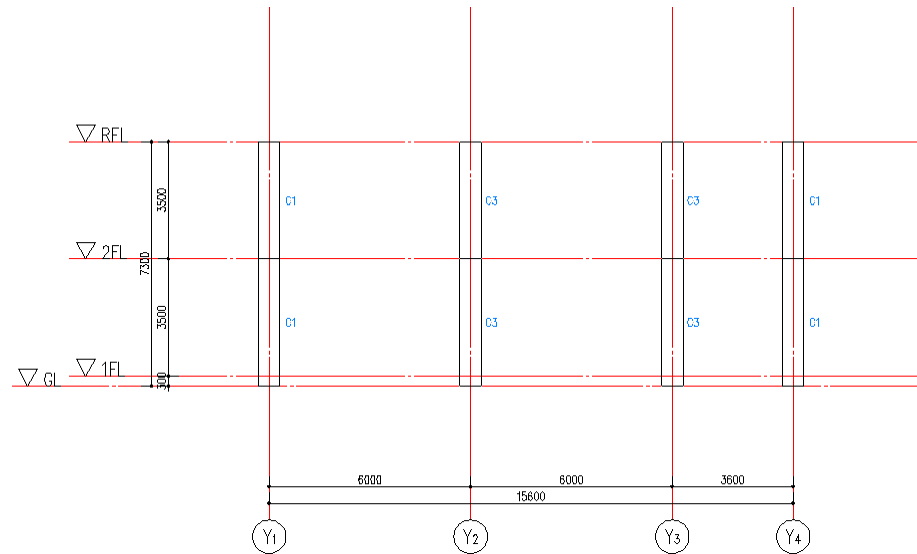
表示したダイアログボックスで 柱符号「C3」に設定し、他は初期値のまま【成側面】をクリックします。



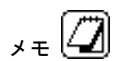
- ⑥ 操作手順 ③を繰り返して、P1～P2、P3～P4、P5～P6、P7～P8 に中心で作図して、でコマンドを終了します。



⑦ RC 柱が作図されます。



RC 角柱で作図した柱部材は、部材、符号等がオブジェクト化されます。オブジェクト図形を個別に自由編集する場合は、グループをオフにして行います。グループのオン／オフの切り替えは、【Ctrl】+【Shift】+【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン／オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効になります。



グループ オフの状態でも部材オブジェクトの配置は可能です。必ずグループ オンの状態にしておく必要はありません。




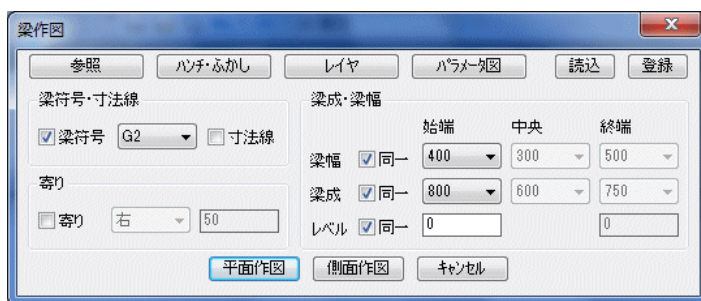
オブジェクト図形には、《構造図一般》の＜オブジェクト更新＞コマンドや＜オブジェクト編集＞コマンドが使用可能です。

2-4 大梁、基礎梁を作図する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」を設定しておきます。

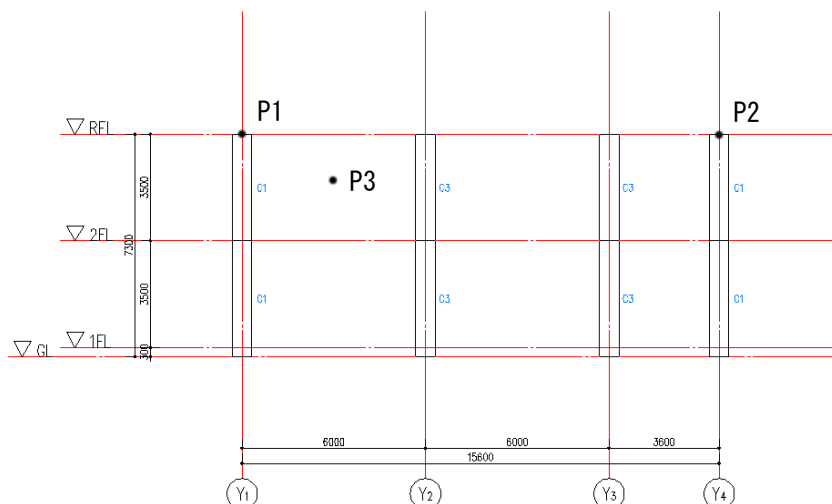
下記の手順で、大梁、基礎梁を作図します。


- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜RC 梁＞コマンド  を選択します。
- ② 梁作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【側面作図】をクリックします。
 - ・ 梁符号：G2
 - ・ 梁幅：同一 400 /
 - ・ 梁成：同一 800
 - ・ ふかし：F1～F4「50」 他は初期値

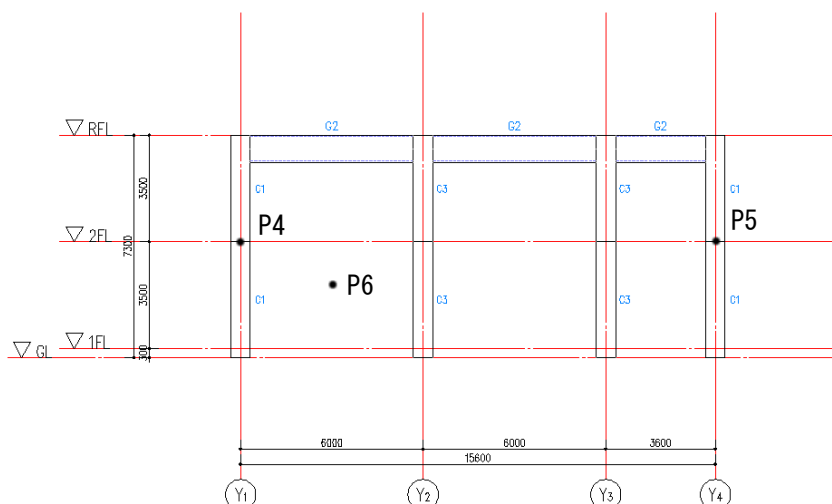


- ③ RFL の Y1 通りの柱芯から Y4 通りの柱芯まで、上合せで一括作図します。

- 》 梁作図始点を指定<終了>： (P1 を指示)
- 》 梁作図終点を指定<終了>： (P2 を指示)
- 》 作図方向を指定/<中心>： (P3 を指示)



- ④ 続けて作図できるので、操作手順③を繰り返します。2FL の Y1 通りの柱芯 P4 から Y4 通りの柱芯 P5、作図方向 P6 を指示し、上合せで一括作図して、 でコマンドを終了します。




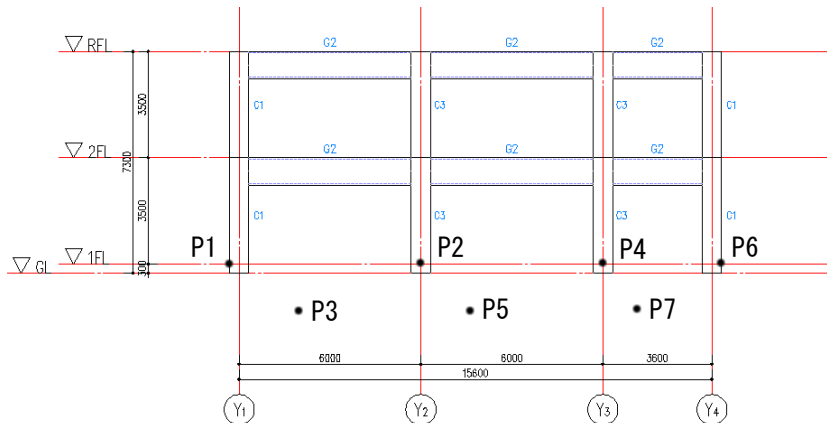
⑤ <RC 梁>コマンドを繰り返し実行します。

表示したダイアログボックスで次のように設定して【側面作図】をクリックします。

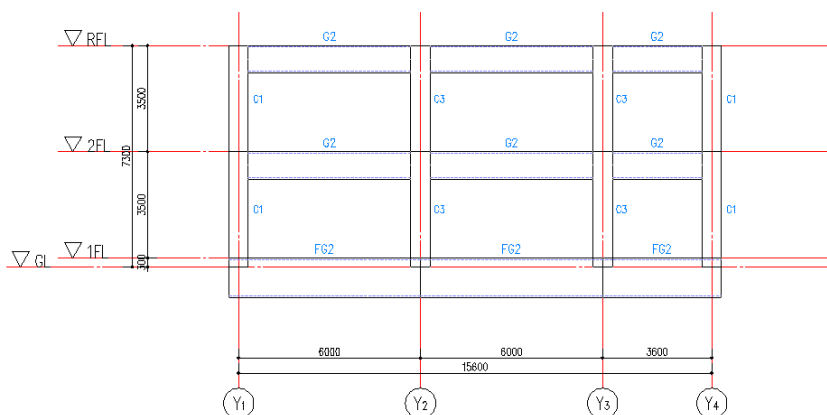
- ・ 梁符号：任意 → FG2
- ・ 梁幅：同一 400 ／ ・ 梁成：同一 任意 → 1200
- ・ ふかし：F1～F4 「50」 他は初期値

⑥ 操作手順③を繰り返し、1FL に基礎梁を作図します。

P1、P2、P3 を指示、続けて P2、P4、P5 を指示、続けて P4、P6、P7 を指示して上合せて作図し、 でコマンドを終了します。



⑦ 梁が作図されます。



2-5 梁と柱の線を編集する


(1) 見かけ線の削除

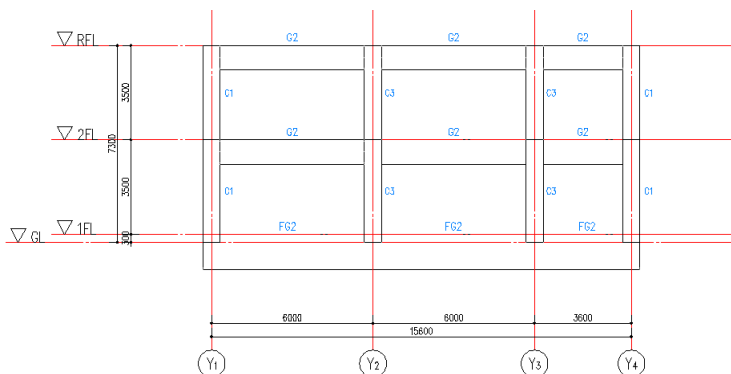
【Ctrl】 + 【Shift】 + 【A】 キーを押して、コマンドラインの下記の表示を確認します。

コマンド: <グループ オフ>


- ① 現在のレイヤーを見かけ線レイヤー「HARI1」に変更します。
- ② リボンメニューの [NEO i 基本] -<<レイヤー>>またはメインツールバーの<<レイヤー>>ツールバーから、<全レイヤーOFF>コマンドを選択します。

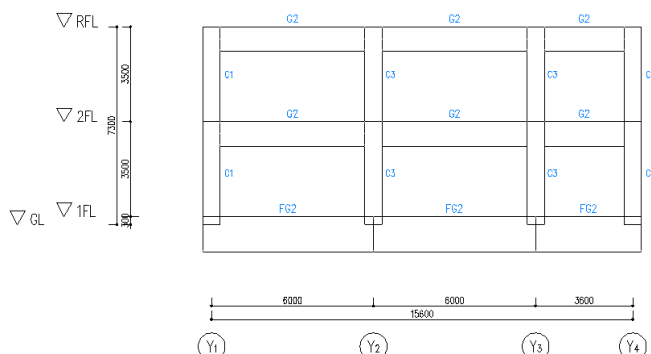


- ③ コマンドが実行され、現在層 (HARI1) 以外のレイヤーがオフになるので、CAD ソフトの削除 (E) コマンド等で、見かけ線を全て削除します。
- ④ リボンメニューの [NEO i 基本] -<<レイヤー>>またはメインツールバーの<<レイヤー>>ツールバーの左端<全レイヤーON>コマンドを選択します。
- ⑤ コマンドが実行され、全てのレイヤーが表示されます。

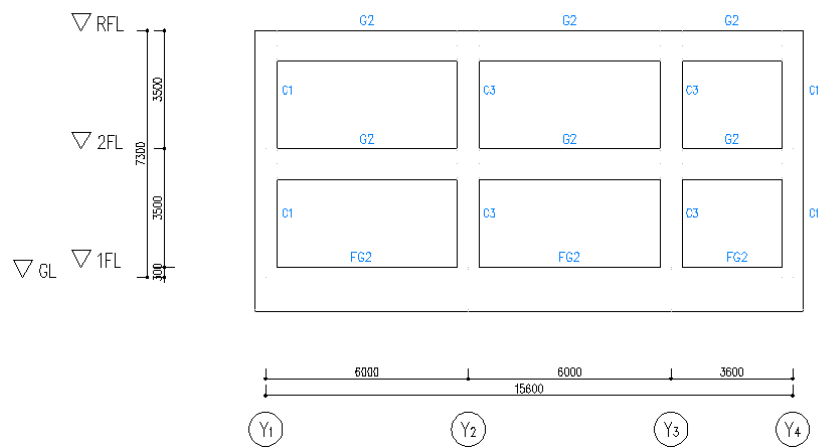



(2) 梁と柱の線の編集

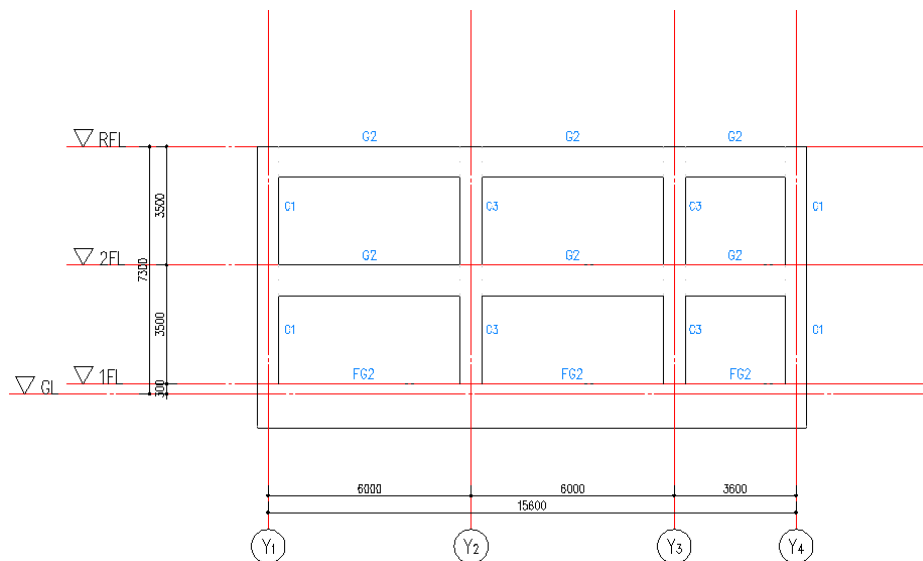
- ① リボンメニューの [NEO i 基本] -<<レイヤー>>またはメインツールバーの<<レイヤー>>ツールバーの左から 3 番目<指示図形レイヤーを OFF>コマンドを選択します。
- ② 基準線をクリックして、KIJUN レイヤーだけを OFF にします。



- ③ トリムやフィレット、削除コマンド等を使用して、下図のように梁や柱の不要な線を編集します。



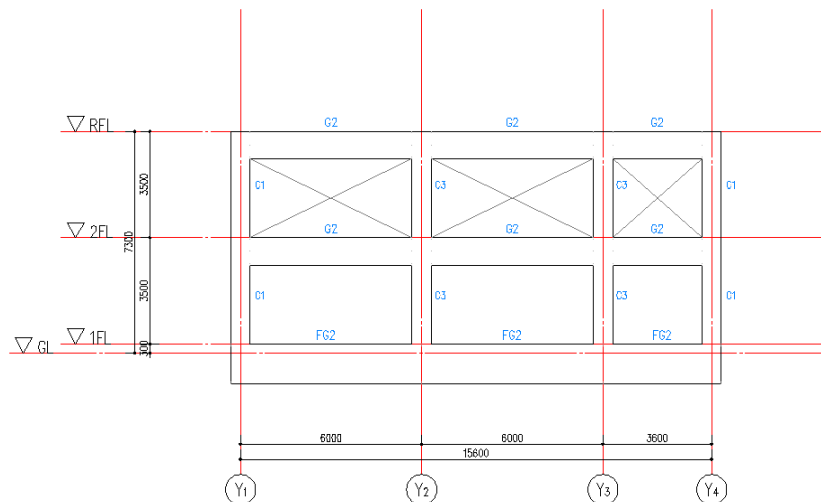
- ④ リボンメニューの [NEO i 基本] -《レイヤー》またはメインツールバーの《レイヤー》ツールバーの左端<全レイヤーON>コマンド  を選択します。
- ⑤ コマンドが実行され、全てのレイヤーが表示されます。



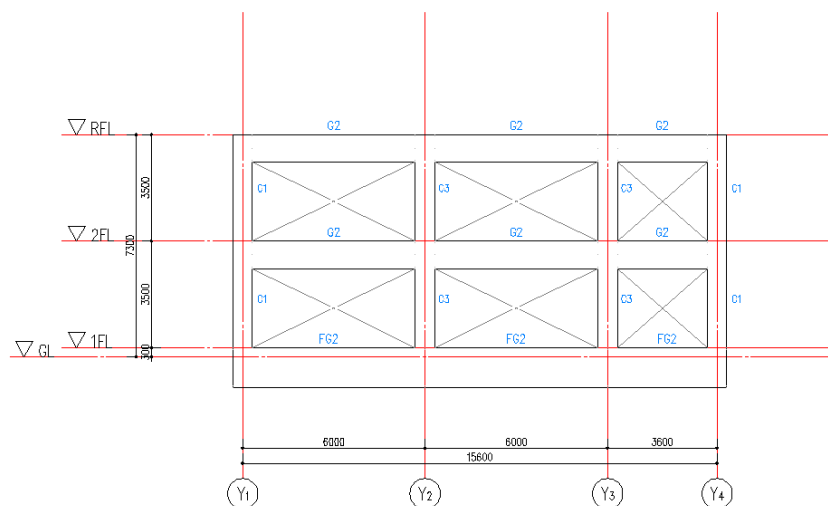
2-6 開口部の斜め線を作成する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「交点」を設定しておきます。

- ① 現在のレイヤーを「HATCHING」に変更します。
- ② 線分 (L) コマンドで、下図のように斜めの線分を作図します。

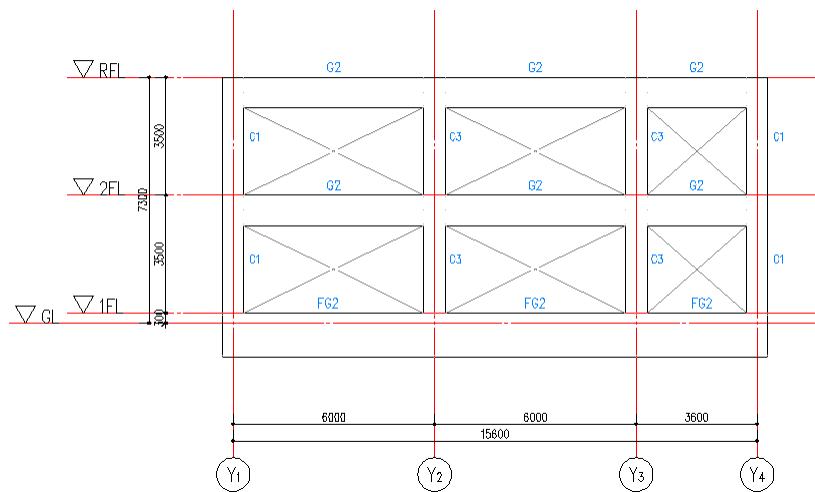


- ③ 作図した線分を全て選択して、線種を「JIS_08_50」に変更します。
- ④ コピー (CP) コマンドで、作図した線分を下の階にコピーします。



2-7 基準線の長さを整える

- ① ストレッチ (S) コマンドを実行します。
- ② 基準線 GL~RFL の右端の点を交差選択して、左に「2000」点を移動します。
- ③ ストレッチコマンドを繰り返し、基準線 GL~RFL の左端の点（寸法を含める）を交差選択して、右に「1000」点を移動します。
- ④ ストレッチコマンドを繰り返し、基準線 Y1~Y4 の上端の点を交差選択して、下に「2000」点を移動します。



2-8 図面名称を記入する

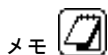
下記の手順で図面名称を記入します。

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから《文字設定》コマンドを選択します。




- ② 文字設定のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

- ・スタイル名：HG 丸ゴシック M-PRO
 - ・高さ（出力時 mm）：5
 - ・文字囲み：枠付
- 他は初期値




メモ

この設定は、これ以降に《文字／引出線》メニューの《文字記入》や《スタンプ》コマンドで作図した文字に反映されます。


- ③ リボンメニューの「NEO i 基本」－《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから、《文字記入 中》コマンド  を選択します。

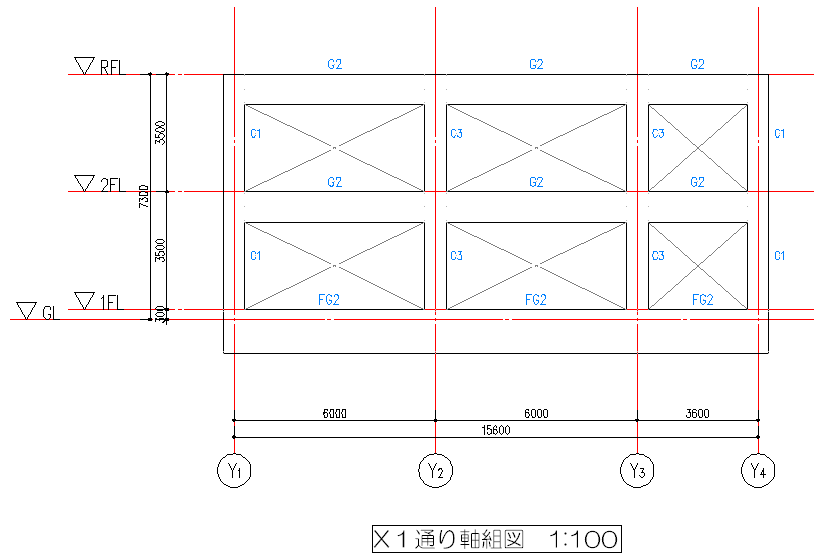
- ④ 文字の垂直方向の基点は初期値で「B=下」になっているので、そのまま文字の基点（下中央）の位置を指示します。

記入する文字列を入力して、 でコマンドを終了します。

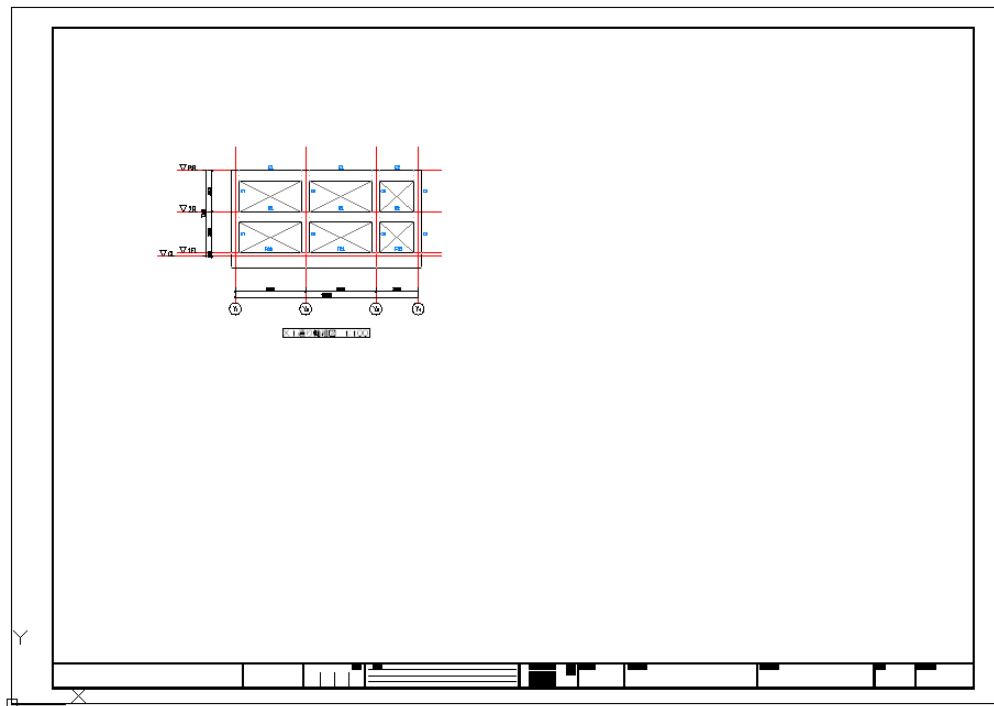
》挿入点を指示 (Enter=終了/T=上/M=中/B=下) [現設定=B]：（図面下の中央の点を指示）

》文字列を入力 (Enter=挿入点指示)：X 1 通り軸組図 1:100

》挿入点を指示 (Enter=終了/T=上/M=中/B=下) [現設定=B]：



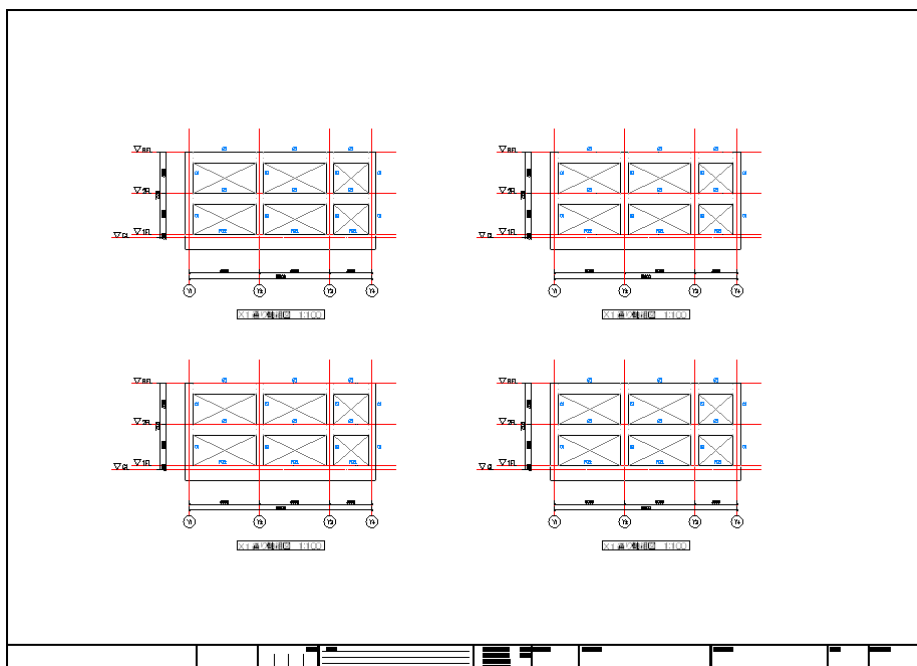
図面全体ズームを実行した後で、CAD ソフトの「名前を付けて保存」コマンドを実行します。
任意の場所に、ファイル名「軸組図」として保存します。





2-9 軸組図をコピーする

下記の手順で、「X1通り軸組図」をコピーします。

- ① CAD ソフトのコピー (CP) コマンドを実行して、X1 通り軸組図全体を真っ直ぐ下にコピーします。
- ② 再度コピーコマンドを実行して、左側にある軸組図を2つ共真っ直ぐ右にコピーします。





メモ  コピーした左下の軸組図を拡大して、キーボードから「V2」 として、現在のビューを登録します。

- ③ 左下軸組図の図面名称をダブルクリックして、「X 2 通り軸組図 1 : 100」に変更します。

メモ  コピーした右上の軸組図を拡大して、キーボードから「V3」 として、現在のビューを登録します。



- ④ 右上軸組図の図面名称をダブルクリックして、「X 3 通り軸組図 1 : 100」に変更します。

メモ  コピーした右下の軸組図を拡大して、キーボードから「V4」 として、現在のビューを登録します。

- ⑤ 右下軸組図の図面名称をダブルクリックして、「X 4 通り軸組図 1 : 100」に変更します。

2-10 X2通り軸組図を作成する

下記の手順で、コピーした「X1通り軸組図」を「X2通り軸組図」に編集します。

メモ  キーボードから「V2」 として、X2 通り軸組図を表示します。

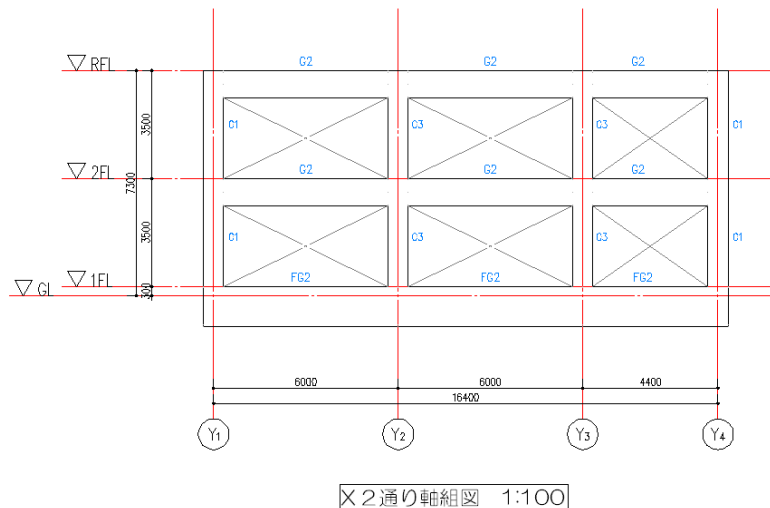
(1) スパン変更

【Ctrl】 + 【Shift】 + 【A】 キーを押して、コマンドラインの下記の表示を確認します。

コマンド: <グループ オフ>

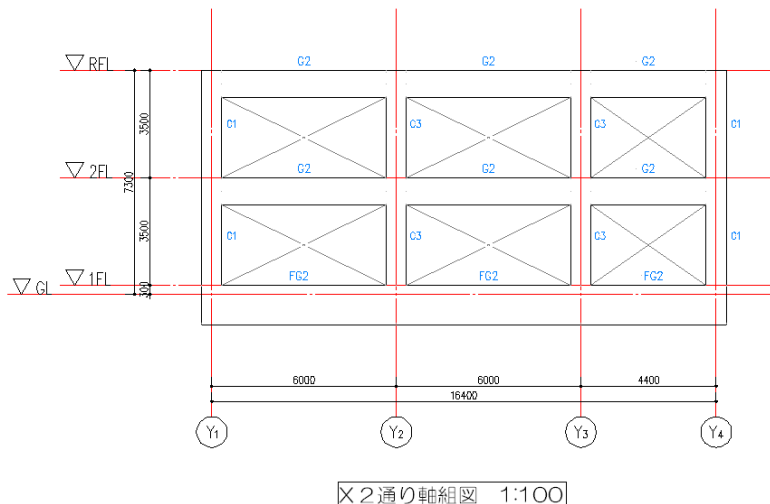
① Y3-Y4 通り間のスパンを「4400」に変更します。

CAD ソフトのストレッチ (S) コマンドを実行して、右側から Y4 通り全体が入るように交差選択して、右側に「800」移動します。




(2) 梁符号の移動

① 梁符号がストレッチの範囲に入っていなかった場合は、移動 (M) コマンドを実行して、Y3-Y4 通り間の梁符号「FG2」「G2」を、右に「400」移動します。

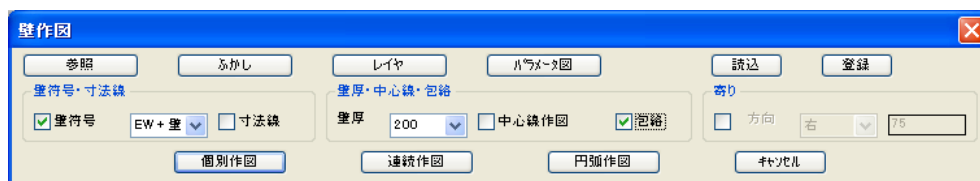


(3) 壁符号の作図

<1> 壁作図

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《伏図／軸組図》またはメインツールバーの《伏図／軸組図》ツールバーから、＜壁作図＞コマンド  を選択します。
- ② 壁作図のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【個別作図】をクリックします。


・壁符号：EW+壁厚　・壁厚：200　他は初期値



- ③ 図面の空いている所に、始点・終点を指示して中心合わせで壁を作図します。



<2> オブジェクト解除

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－《編集》またはメインツールバーの《編集》ツールバーから、＜オブジェクト解除＞コマンド  を選択します。
- ② 作図した壁（EW200）を選択して、オブジェクト解除を実行します。
 》分解するオブジェクトを選択：（壁を指示）
- ③ 選択した壁がオブジェクト解除され、4本の壁線と壁符号に分解されます。

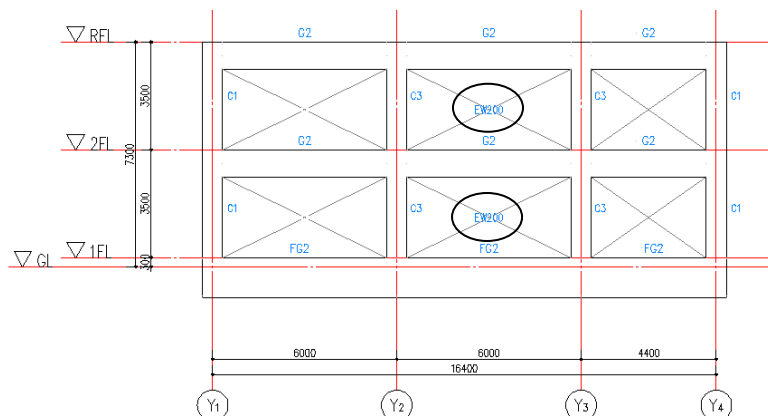


ヒント

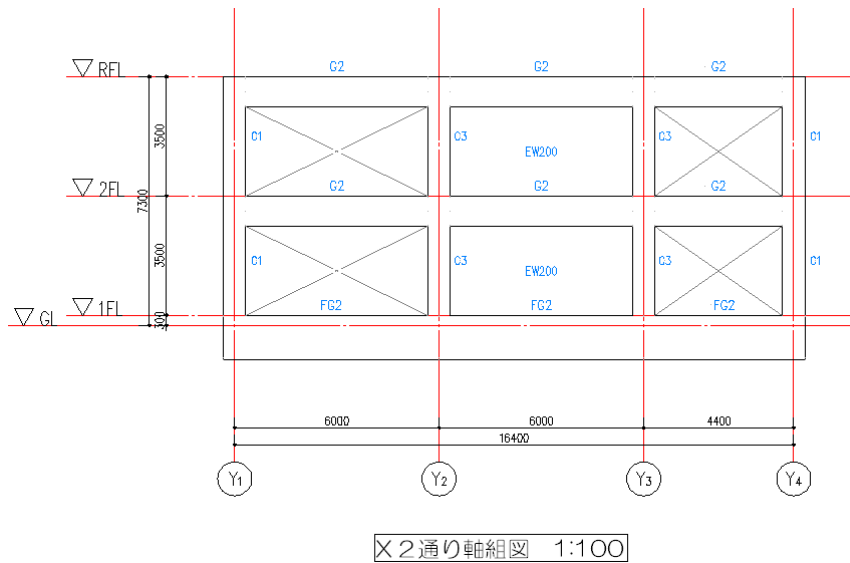
オブジェクト解除された図形には、《構造図一般》の＜オブジェクト更新＞コマンドや＜オブジェクト編集＞コマンドは使用できません。
 また、オブジェクト解除された図形を、再度オブジェクト図形に変更することはできません。

<3> 壁符号の作図

- ① 壁符号「EW200」を選択します。
- ② 表示した中心のグリッスをクリックして、1Fと2FのY2-Y3通り間中央にコピーします。



- ③ 残った壁と、1F と 2F の Y2－Y3 通り間にある開口部の斜め線を削除します。



X2 通り軸組図が作成されました。

図面全体ズームを実行した後で、[上書き保存] コマンドを実行します。

2-1-1 X3通り軸組図を作成する

下記の手順で、コピーした「X1通り軸組図」を「X3通り軸組図」に編集します。

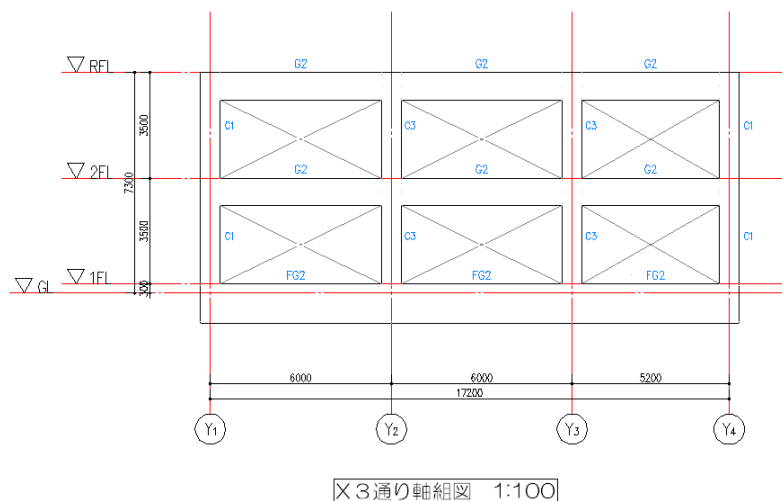
メモ  キーボードから「V3」 として、X3 通り軸組図を表示します。

(1) スパン変更、梁符号の移動、壁符号の作図

① Y3-Y4 通り間のスパンを「5200」に変更します。

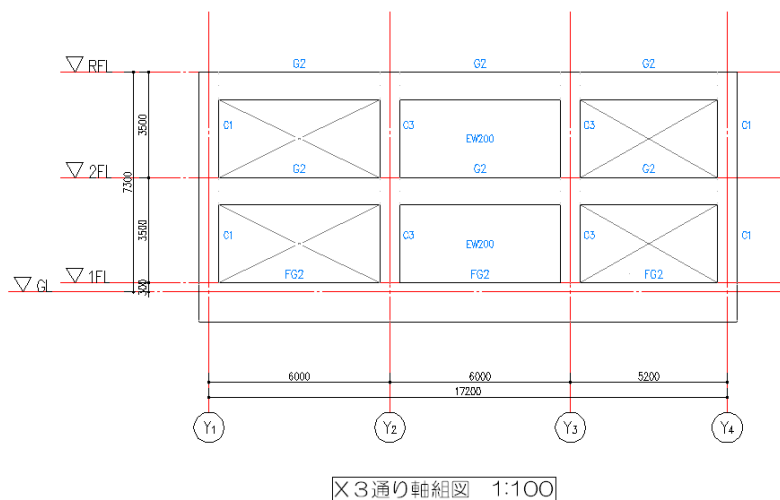
CAD ソフトのストレッチ (S) コマンドを実行して、右側から Y4 通り全体が入るように交差選択して、右側に「1600」移動します。

② 必要に応じて、移動 (M) コマンドを実行して、Y3-Y4 通り間の梁符号「FG2」「G2」を、右に「800」移動します。



③ X2 通り軸組図の壁符号「EW200」を選択して、グリップの中心をクリックします。複写モードで Y2-Y3 通り間の 1F、2F にコピーします。

1F、2F とも斜めの線を削除します。



図面全体ズームを実行した後で、[上書き保存] コマンドを実行します。

2-12 X4通り軸組図を作成する

下記の手順で、コピーした「X1通り軸組図」を「X4通り軸組図」に編集します。

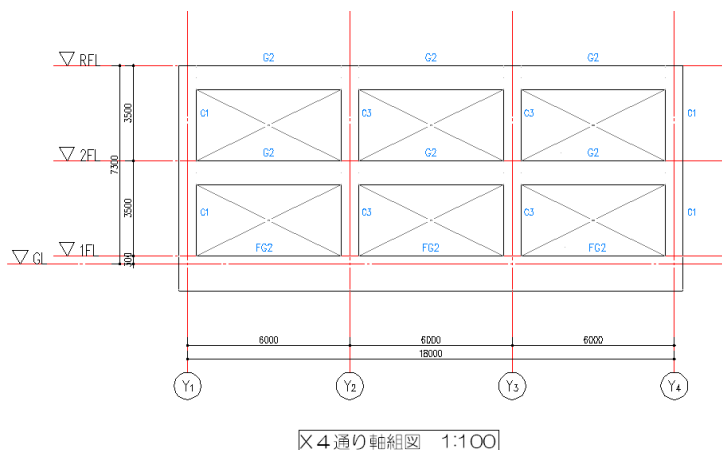
メモ  キーボードから「V4」 として、X4 通り軸組図を表示します。

(1) スパン変更、梁符号の移動

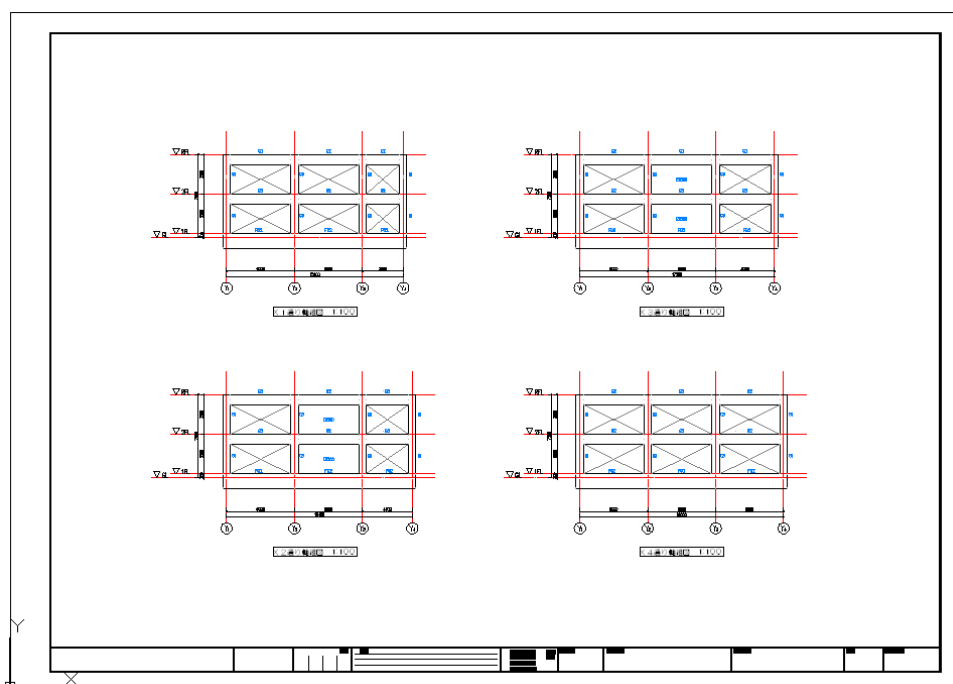
① Y3-Y4 通り間のスパンを「6000」に変更します。

CAD ソフトのストレッチ (S) コマンドを実行して、右側から Y4 通り全体が入るように交差選択して、右側に「2400」移動します。

② 必要に応じて、移動 (M) コマンドを実行して、Y3-Y4 通り間の梁符号「FG2」「G2」を、右に「1200」移動します。



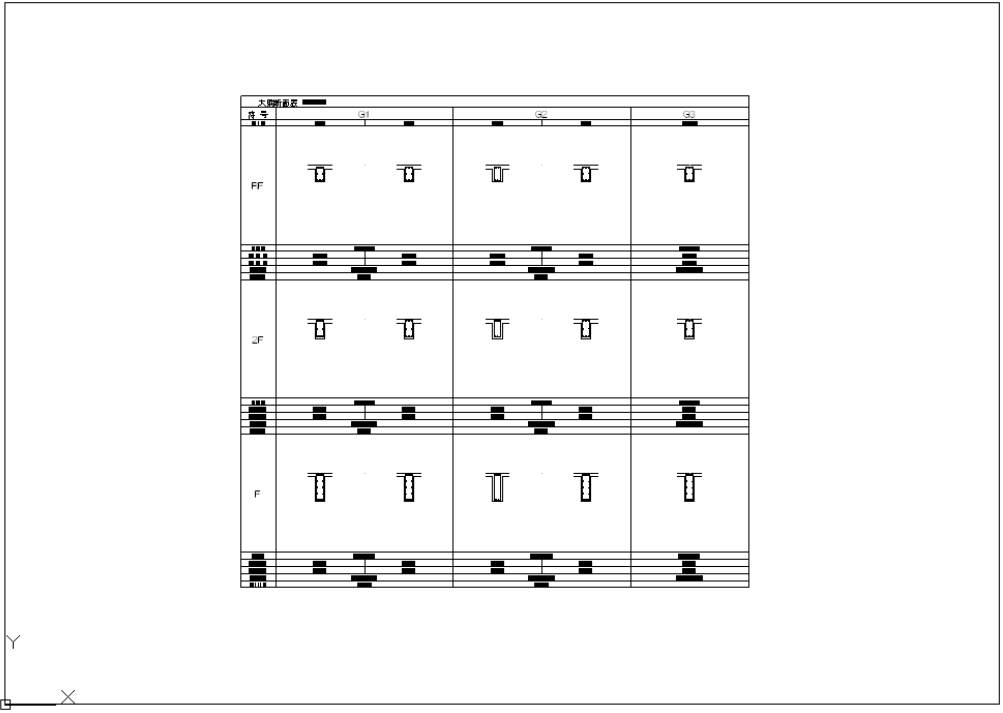
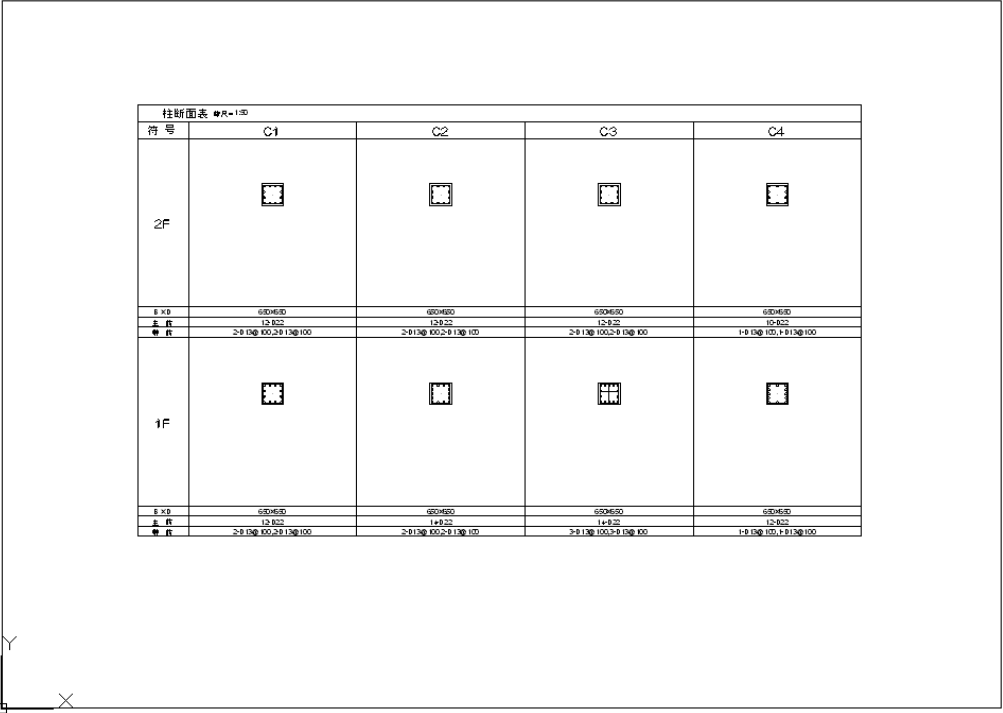
図面全体ズームを実行し、図面名称の配置位置のバランス等を調整してから、[上書き保存] コマンドを実行します。



第3章

断面リストの作成

本章では、『構造図版 adpack-NEO i 』の様々な機能を使用して、下図のような断面リストを作成する手順について説明します。



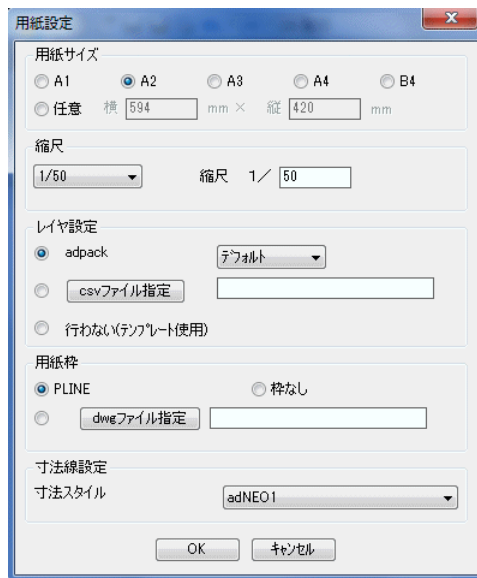
3-1-1 柱断面リストの用紙設定を行う

新規図面を開いて、下記の手順で用紙設定を行います。

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－「基本設定／UCS 他」またはメインツールバーの「基本設定／UCS 他」ツールバーから、「用紙設定／設定変更」コマンドを選択します。

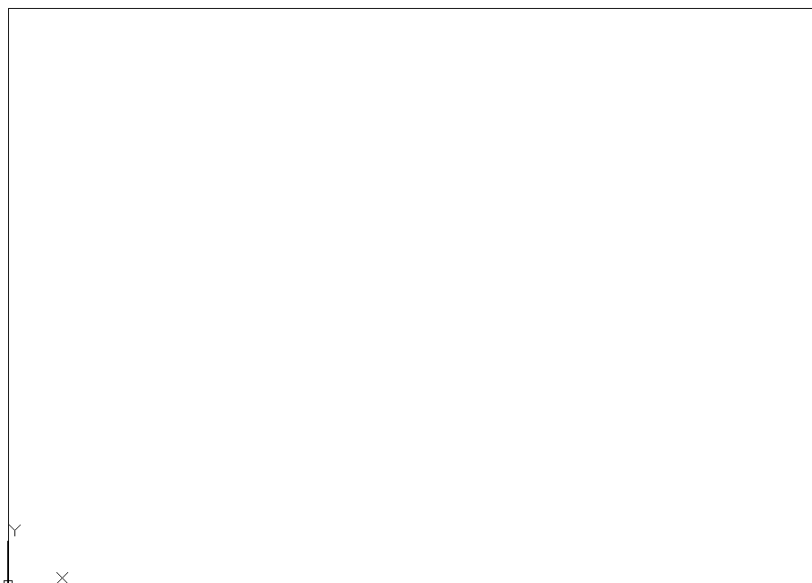


- ② 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。



- ・用紙サイズ：A2
- ・縮尺：1/50
- ・レイヤ設定：[adpack] － デフォルト
- ・用紙枠：PLINE
- ・寸法スタイル：adNEO1

- ③ 作図範囲が設定され、画面上に設定した用紙枠が作図されます。



3-1-2 柱断面表枠を作成する

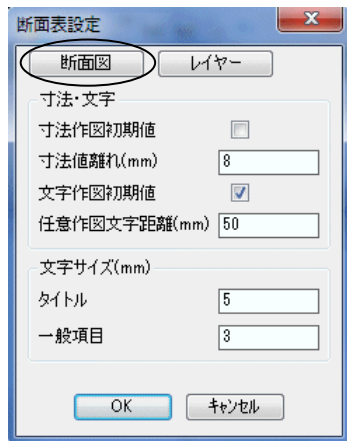
下記の手順で、柱断面表枠を作成します。

- ① まず、断面表の寸法や文字サイズ等の各種設定の内容を確認します。

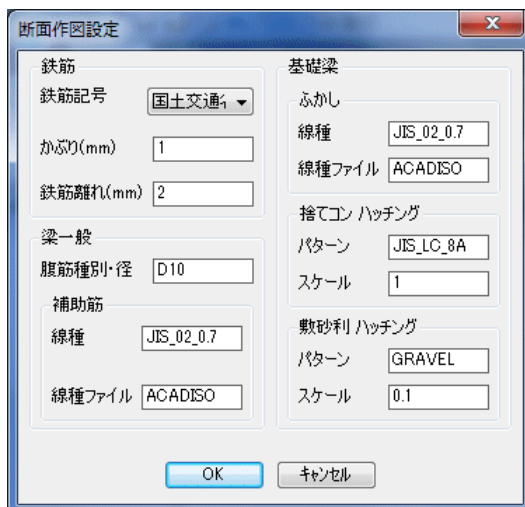
リボンメニューの [NEO i 構造図] - <<断面リスト>> またはメインツールバーの <<断面リスト>> ツールバーから、<断面表設定> コマンドを選択します。



- ② 断面表設定ダイアログボックスが表示するので、内容を確認して【断面図】 ボタンをクリックします。



- ③ 断面作図設定ダイアログボックスが表示するので、さらに内容を確認して、ここでは【キャンセル】をクリックします。



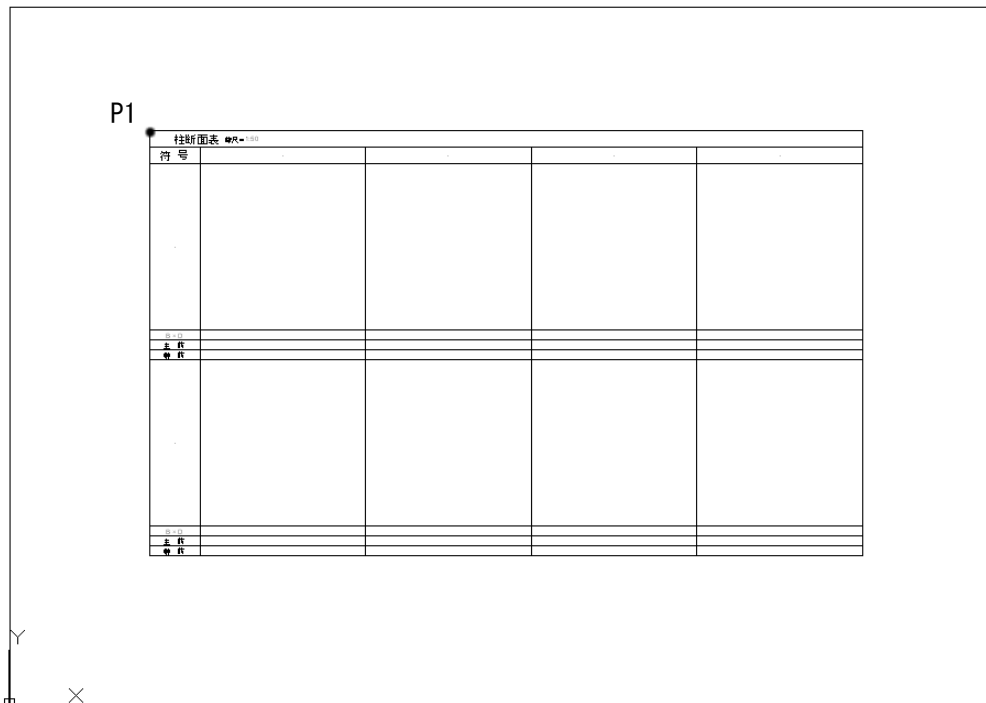
- ④ 再度断面表設定ダイアログボックスが表示するので、【キャンセル】をクリックして終了します。

- ⑥ 柱・杭断面表枠ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

- ・柱・杭種別：RC 角柱
- ・行数：2
- ・列数：4

他は初期値

- 》挿入点を指示：（P1 を指示）



3-1-3 表枠へ文字を記入する

メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「点」を設定しておきます。

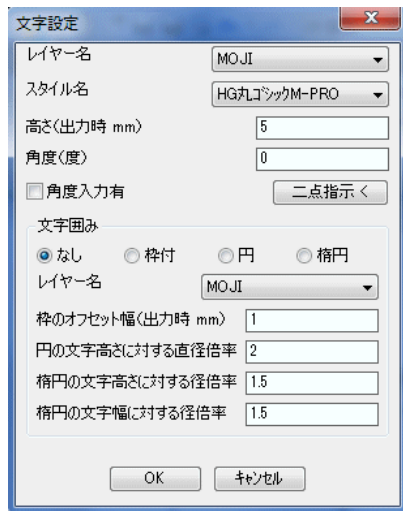
下記の手順で、表枠へ文字を記入します。

(1) 文字設定

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから「文字設定」コマンドを選択します。




- ② 文字設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。





- ・スタイル名：HG 丸ゴシック M-PRO
- ・高さ： 5
- ・文字囲み：なし

他は初期値


メモ  この設定は、これ以降に《文字／引出線》メニューの「文字記入」や「スタンプ」コマンドで作図した文字に反映されます。

(2) 符号と階名の記入

- ① リボンメニューの「NEO i 基本」－《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから、「文字記入 中」コマンド  を選択します。
- ② 文字の垂直方向の基点を「M=中」に変更して、文字の基点（中央中）の位置を指示します。
- 記入する文字列を入力します。


》挿入点を指示 (Enter=終了/T=上/M=中/B=下) [現設定=B]: M 

》挿入点を指示 (Enter=終了/T=上/M=中/B=下) [現設定=M]: (P1 を指示)


》文字列を入力 (Enter=挿入点指示): C1 

柱断面表 比例=1:50		P1		
符号				
6 × 9				
主筋				
箍筋				
6 × 9				
主筋				
箍筋				

- ③ 続けて作図できるので、下図のように「C2」「C3」「C4」「2F」「1F」と記入して、でコマンドを終了します。


》挿入点を指示 (Enter=終了/T=上/M=中/B=下) [現設定=M]: 

符 号	O1	O2	O3	O4
2F				
续表				
续表				
续表				
1F				
续表				
续表				
续表				

メモ  表枠の符号や階を入れる欄の中央には「点」を配置しています。文字入力の際にはOSNAPの点モードを使用してください。

3-1-4 柱断面表を作成する

下記の手順で、RC 角柱断面表を作成します。

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《断面リスト》またはメインツールバーの《断面リスト》ツールバーから、＜RC 角柱＞コマンド  を選択します。
- ② RC 柱のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【枠内配置】をクリックします。




- ・ B : 650
- ・ D : 650
- ・ X 方向一段筋 : 4, D22
- ・ Y 方向一段筋 : 4, D22
- ・ X 方向帯筋 : 2, D13, 100
- ・ Y 方向帯筋 : 2, D13, 100

他は初期値




- ③ 2F の C1 の欄をクリックして作図します。

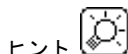
》挿入点を指示：(P1 を指示)

柱断面表 縮尺=1:50				
符号	C1	C2	C3	C4
2F				
B×D				
主筋				
帯筋				
1F				
B×D				
主筋				
帯筋				

次ページの図のとおり、C1 の欄に部材断面と文字が自動生成されます。

- ④ 《断面リスト》の＜RC 角柱＞コマンドを繰り返し実行します。
設定内容はそのまま変更せずに、【枠内配置】で 2F の C2 の欄をクリックして作図します。
- ⑤ 再度＜RC 角柱＞コマンドを実行し、【枠内配置】で 2F の C3 の欄にも、次ページのとおりに作図します。

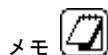
柱断面表 縮尺=1:50				
符号	C1	C2	C3	C4
2F				
B × D	650×650	650×650	650×650	
主筋	12-D22	12-D22	12-D22	
寄筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	
1F				
B × D				
主筋				
寄筋				



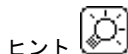
《断面リスト》の＜RC 角柱＞等のコマンドで作図した断面部材と文字は、オブジェクト図形化されます。また、＜柱・杭断面表枠＞等のコマンドで作図した表枠もオブジェクト図形化されます。

オブジェクト図形を個別に自由編集する場合は、グループをオフにして行います。

グループのオン／オフの切り替えは、【Ctrl】＋【Shift】＋【A】キーを押すことにより行うことができます。このオン／オフの状態は次に変更するまで継続し、図面中の全ての図形に有効になります。



グループ オフの状態でも部材断面と文字の配置は可能です。
必ずグループ オンの状態にしておく必要はありません。



オブジェクト図形は、《構造図一般》の＜オブジェクト更新＞コマンドや＜オブジェクト編集＞コマンドが使用可能です。

- ⑥ ＜RC 角柱＞コマンドを繰り返し実行し、RC 柱のダイアログボックスで次のように設定して【枠内配置】をクリックします。





The dialog box for 'RC Column' (RC柱) contains the following settings:

- 断面パラメータ (Section Parameters):**
 - B: 650
 - D: 650
 - X方向一段筋 (X-direction 1st bar): 4, D22
 - X方向二段筋 (X-direction 2nd bar): (empty)
 - Y方向一段筋 (Y-direction 1st bar): 3, D22
 - Y方向二段筋 (Y-direction 2nd bar): (empty)
 - X方向帯筋 (X-direction stirrup): 1, D13, 100
 - Y方向帯筋 (Y-direction stirrup): 1, D13, 100
- 参照 (Reference):** A small diagram showing the column cross-section with reinforcement details.
- 寄せ筋 (Bar Alignment):**
 - ☐ X方向 (X-direction)
 - ☐ Y方向 (Y-direction)
- 作図オプション (Drawing Options):**
 - ☐ 寸法 (Dimensions)
 - ☒ 文字 (Text)
- Buttons:** 枠内配置 (In-frame placement), 任意配置 (Arbitrary placement), キャンセル (Cancel).

- ・ B : 650
- ・ D : 650
- ・ X 方向一段筋 : 4, D22
- ・ Y 方向一段筋 : 3, D22
- ・ X 方向帯筋 : 1, D13, 100
- ・ Y 方向帯筋 : 1, D13, 100

他は初期値

- ⑦ 2F の C4 の欄をクリックして、下図のように作図します。

C3	C4
	
650×650	650×650
12-D22	10-D22
2-D13@100,2-D13@100	1-D13@100,1-D13@100



- ⑧ <RC 角柱> コマンドを繰り返し実行し、RC 柱のダイアログボックスで次のように設定して【枠内配置】をクリックします。



- ・ B : 650
- ・ D : 650
- ・ X 方向一段筋 : 5, D22
- ・ Y 方向一段筋 : 4, D22
- ・ X 方向帯筋 : 2, D13, 100
- ・ Y 方向帯筋 : 2, D13, 100

他は初期値

- ⑨ 1F の C1 の欄をクリックして、下図のように作図します。同じ設定で同様に C2 の欄にも作図します。

	B × D	650×650	650×650
	主 筋	12-D22	12-D22
	帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100
1F			
	B × D	650×650	650×650
	主 筋	14-D22	14-D22
	帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100

- ⑩ <RC 角柱> コマンドを繰り返し実行し、RC 柱のダイアログボックスで次のように設定して【枠内配置】をクリックします。

- ・ B : 650 / D : 650
- ・ X 方向一段筋 : 4, D22 / ・ Y 方向一段筋 : 5, D22
- ・ X 方向帯筋 : 3, D13, 100 / ・ Y 方向帯筋 : 3, D13, 100 他は初期値

- ⑪ 1F の C3 の欄をクリックして作図します。

- ⑫ <RC 角柱>コマンドを繰り返し実行し、RC 柱のダイアログボックスで次のように設定して【枠内配置】をクリックします。

・ B : 650 / D : 650
 ・ X 方向一段筋 : 5, D22 / ・ Y 方向一段筋 : 3, D22
 ・ X 方向帯筋 : 1, D13, 100 / ・ Y 方向帯筋 : 1, D13, 100 他は初期値

- ⑬ 1F の C4 の欄をクリックして、下図のように作図します。

650×650	650×650
12-D22	10-D22
2-D13@100,2-D13@100	1-D13@100,1-D13@100
650×650	650×650
14-D22	12-D22
3-D13@100,3-D13@100	1-D13@100,1-D13@100

- ⑭ RC 角柱断面表が作成されました。

柱断面表 縮尺=1:50				
符 号	C1	C2	C3	C4
2F				
B × D	650×650	650×650	650×650	650×650
主 筋	12-D22	12-D22	12-D22	10-D22
帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	1-D13@100,1-D13@100
1F				
B × D	650×650	650×650	650×650	650×650
主 筋	14-D22	14-D22	14-D22	12-D22
帯 筋	3-D13@100,3-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	3-D13@100,3-D13@100	1-D13@100,1-D13@100

3-1-5 作成した柱断面表のパラメータを変更する



下記の手順で、作成した RC 角柱断面表のパラメータを変更します。

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《構造図一般》またはメインツールバーの《構造図一般》ツールバーから、＜オブジェクト編集＞コマンドを選択します。



- ② 種類を変更する 1F の C1 の欄の柱断面を選択します。



》編集するオブジェクトを指示：（P1 を指示）

1F		
B × D	650×650	650×650
主 筋	14-D22	14-D22
帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100









- ③ RC 柱ダイアログボックスが表示するので、X 方向一段筋を「5, D22」から「4, D22」に変更して【OK】をクリックします。



- ④ 柱断面と文字が変更した内容に更新されます。


1F		
B×D	650×650	650×650
主 筋	12-D22	14-D22
帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100

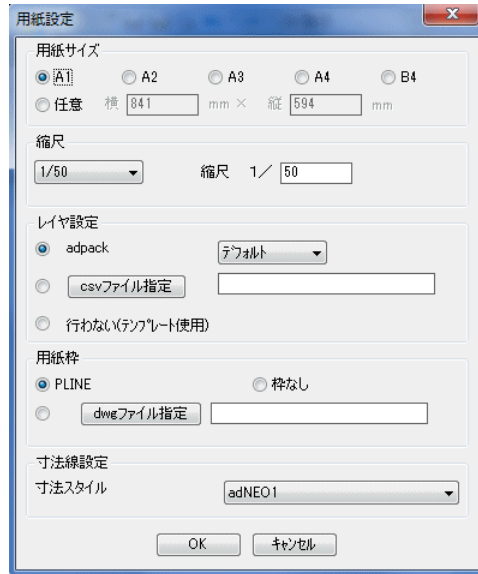
図面全体ズームを実行した後で、CAD ソフトの「名前を付けて保存」コマンドを実行します。
任意の場所に、ファイル名「柱断面リスト」として保存します。

柱断面表 001-100				
符 号	C1	C2	C3	C4
2F				
B×D	650×650	650×650	650×650	650×650
主 筋	12-D22	12-D22	12-D22	12-D22
帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100
1F				
B×D	650×650	650×650	650×650	650×650
主 筋	12-D22	12-D22	12-D22	12-D22
帯 筋	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100	2-D13@100,2-D13@100

3-2-1 梁断面リストの用紙設定を行う

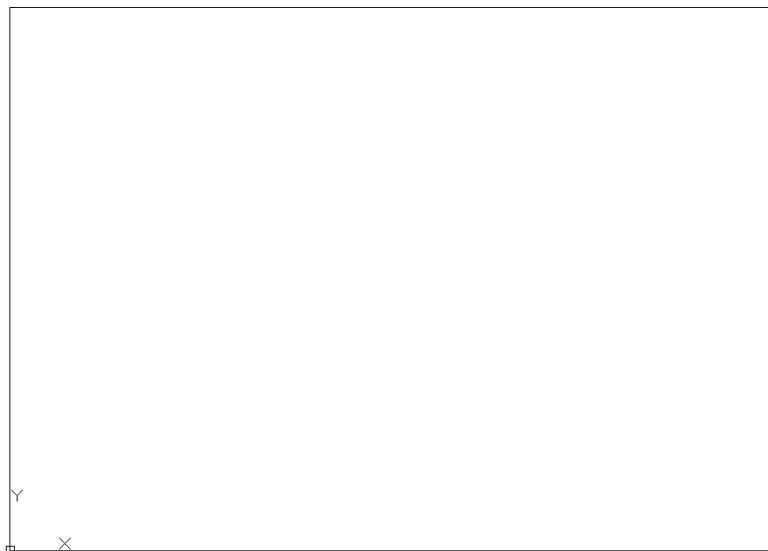
新規図面を開いて、下記の手順で用紙設定を行います。

- ① リボンメニューの [NEO i 基本] - <<基本設定/UCS 他>>またはメインツールバーの<<基本設定/UCS 他>>ツールバーから、<用紙設定/設定変更>コマンド  を選択します。
- ② 用紙設定ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




- ・用紙サイズ：A1
- ・縮尺：1/50
- ・レイヤ設定：[adpack] - デフォルト
- ・用紙枠：PLINE
- ・寸法スタイル：adNEO1

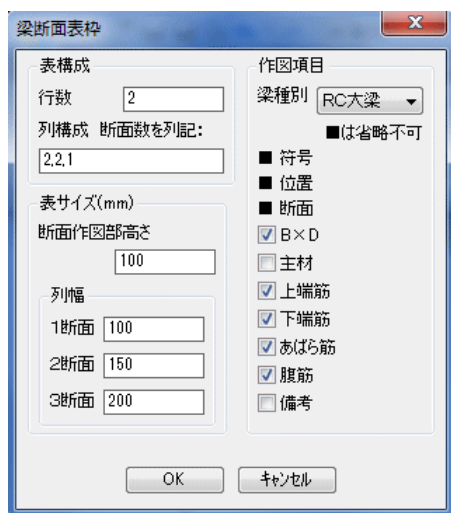
- ③ 作図範囲が設定され、画面上に設定した用紙枠が作図されます。



3-2-2 梁断面表枠を作成する

下記の手順で、梁断面表枠を作成します。

- ① リボンメニューの [NEO i 構造図] - <<断面リスト>> またはメインツールバーの <<断面リスト>> ツールバーから、<梁断面表枠> コマンド  を選択します。
- ② 梁断面表枠ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

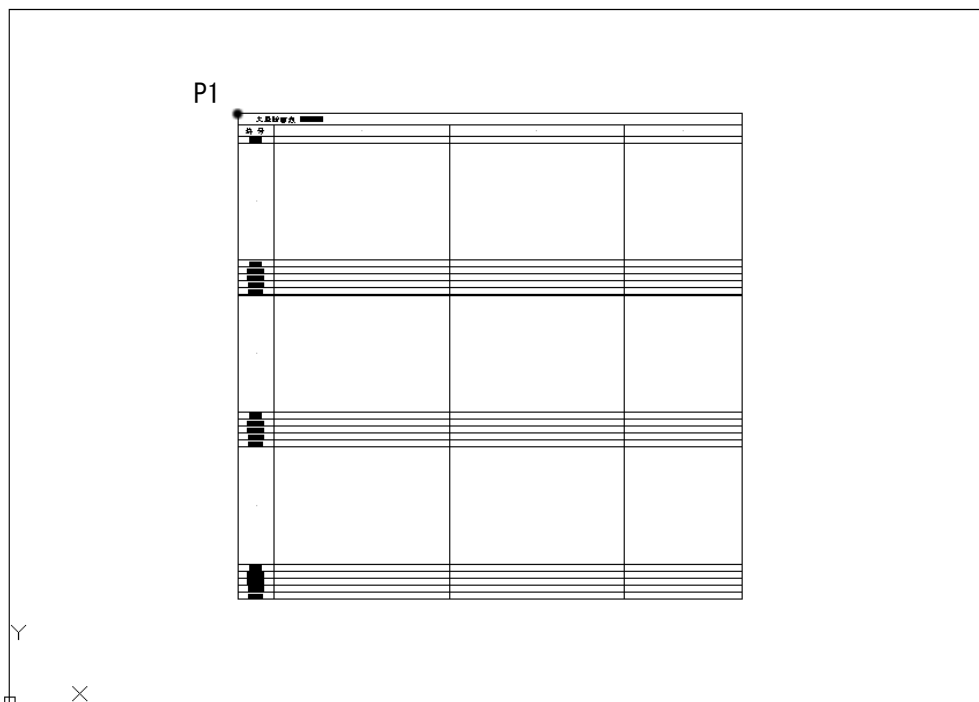


- ・ 梁種別 : RC 大梁
- ・ 行数 : 3
- ・ 列数 : 2, 2, 1

他は初期値


- ③ 断面表枠の挿入点を指示して、梁断面表枠を作図します。

》挿入点を指示 : (P1 を指示)




3-2-3 表枠へ文字を記入する


メモ  あらかじめ、定常OSNAPの「点」を設定しておきます。

① リボンメニューの「NEO i 基本」－《文字／引出線》またはメインツールバーの《文字／引出線》ツールバーから、＜文字記入 中＞コマンド  を選択します。


② 文字の垂直方向の基点を「M=中」に変更して、文字の基点（中央中）の位置を指示します。
記入する文字列を入力します。


》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=B]: M 

》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]: (P1 を指示)

》文字列を入力(Enter=挿入点指示): G1 

大断面図表 新規表 (1)			
符 号	P1		
点			
上端係			
下端係			
断面係			


③ 続けて作図できるので、下図のように「G2」「G3」「RF」「2F」「F」と記入して、でコマンドを終了します。

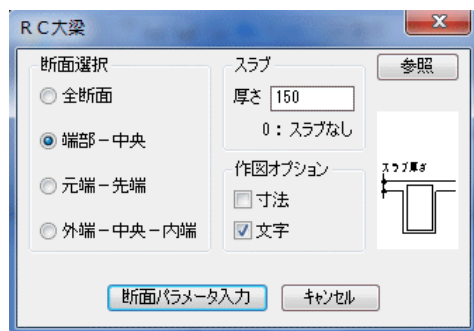
》挿入点を指示(Enter=終了/T=上/M=中/B=下)[現設定=M]: 

大断面図表 新規表 (1)			
符 号	G1	G2	G3
FF			
上端係			
下端係			
断面係			
2F			
上端係			
下端係			
断面係			
F			
上端係			
下端係			
断面係			

3-2-4 梁断面表を作成する

下記の手順で、RC 大梁断面表を作成します。

- ① リボンメニューの「NEO i 構造図」－《断面リスト》またはメインツールバーの《断面リスト》ツールバーから、＜RC 大梁＞コマンド  を選択します。
- ② RC 大梁のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【断面パラメータ入力】をクリックします。



・断面選択：端部－中央

他は初期値

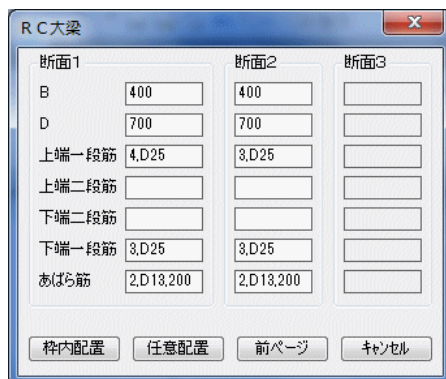
- ③ 断面パラメータ入力のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【枠内配置】をクリックします。

[断面 1]

・ B : 400 D : 700 ・ 上端一段筋 : 4, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200


[断面 2]

・ B : 400 D : 700 ・ 上端一段筋 : 3, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200





- ④ RF の G1 の欄をクリックして作図します。

》挿入点を指示：(P1 を指示)





大梁断面表 縮尺=1:50			
符 号	G1	G2	G3
位 置			
RF			
上 端 筋			
下 端 筋			
あばら筋			
腹 筋			

- ⑤ 下図のとおり、G1 の欄に部材断面と文字が自動生成されます。

大梁断面表 縮尺=1:50				
符 号	G1		G2	
位 置	端部	中央	端部	中央
RF				
B × D	400×700			
上 端 筋	4-D25	3-D25		
下 端 筋	3-D25	3-D25		
あばら筋	2-D13@200			
腰 筋	2-D10			

- ⑥ ≪断面リスト≫の<RC 大梁>コマンドを繰り返し実行します。

設定内容はそのまま変更せずに、【断面パラメータ入力】 【枠内配置】をクリックして、RF の G2 の欄をクリックして作図します。

大梁断面表 縮尺=1:50				
符 号	G1		G2	
位 置	端部	中央	端部	中央
RF				
B × D	400×700		400×700	
上 端 筋	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25
下 端 筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
あばら筋	2-D13@200		2-D13@200	
腰 筋	2-D10		2-D10	

- ⑦ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、設定は変更せずに【断面パラメータ入力】をクリックします。

次のように設定し、【枠内配置】をクリックして、2F の G1 の欄をクリックして作図します。

[断面 1]

・ B : 400 D : 800 ・ 上端一段筋 : 5, D25 ・ 下端一段筋 : 4, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 150

[断面 2]

・ B : 400 D : 800 ・ 上端一段筋 : 3, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 150

- ⑧ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、設定は変更せずに【断面パラメータ入力】をクリックします。

次のように設定し、【枠内配置】をクリックして、2F の G2 の欄をクリックして作図します。

[断面 1]

・ B : 400 D : 800 ・ 上端一段筋 : 4, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

[断面 2]

・ B : 400 D : 800 ・ 上端一段筋 : 3, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

2F				
B × D	400×800		400×800	
上端筋	5-D25	3-D25	4-D25	3-D25
下端筋	4-D25	3-D25	3-D25	3-D25
あばら筋	≥φ13@150		≥φ13@200	
数 尺	≥φ10		≥φ10	

- ⑨ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、設定は変更せずに【断面パラメータ入力】をクリックします。

次のように設定し、【枠内配置】をクリックして、F の G1 の欄をクリックして作図します。

[断面 1]

・ B : 400 D : 1200 ・ 上端一段筋 : 5, D25 ・ 下端一段筋 : 5, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

[断面 2]

・ B : 400 D : 1200 ・ 上端一段筋 : 4, D25 ・ 下端一段筋 : 4, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

- ⑩ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、設定は変更せずに【断面パラメータ入力】をクリックします。

次のように設定し、【枠内配置】をクリックして、F の G2 の欄をクリックして作図します。

[断面 1]

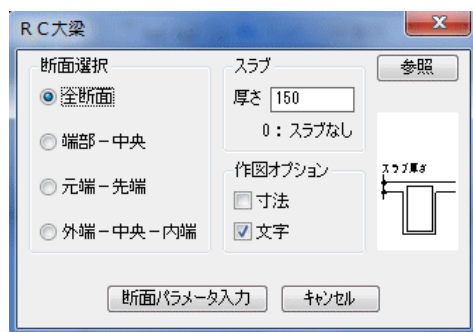
・ B : 400 D : 1200 ・ 上端一段筋 : 4, D25 ・ 下端一段筋 : 4, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

[断面 2]

・ B : 400 D : 1200 ・ 上端一段筋 : 4, D25 ・ 下端一段筋 : 4, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

F				
B × D	400×1200		400×1200	
上端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25
あばら筋	≥φ13@200		≥φ13@200	
数 尺	φφ10		φφ10	

- ⑪ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、次のように設定して【断面パラメータ入力】をクリックします。



・ 断面選択 : 全断面

他は初期値

- ⑫ 断面パラメータ入力のダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【枠内配置】をクリックします。

[断面 1]

・ B : 400 D : 1200 ・ 上端一段筋 : 4, D25 ・ 下端一段筋 : 4, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

- ⑬ F の G3 の欄をクリックして作図します。

F					
	400×1200		400×1200		400×1200
	上端筋 5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	下端筋 5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	あばら筋 2-D13@300		2-D13@300		2-D13@300
	6-D10		6-D10		

- ⑭ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、設定は変更せずに【断面パラメータ入力】をクリックします。

次のように設定し、【枠内配置】をクリックして、RF の G3 の欄をクリックして作図します。

[断面 1]

・ B : 400 D : 700 ・ 上端一段筋 : 3, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200






大梁断面表 縮尺=1/50					
符 号	G1		G2		G3
位 置	端部	中央	端部	中央	全断面
RF					
B × D	400×700		400×700		400×700
上端筋	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25
あばら筋	2-D13@200		2-D13@200		2-D13@200
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10

- ⑮ 再度<RC 大梁>コマンドを実行し、設定は変更せずに【断面パラメータ入力】をクリックします。

次のように設定し、【枠内配置】をクリックして、2F の G3 の欄をクリックして作図します。

[断面 1]

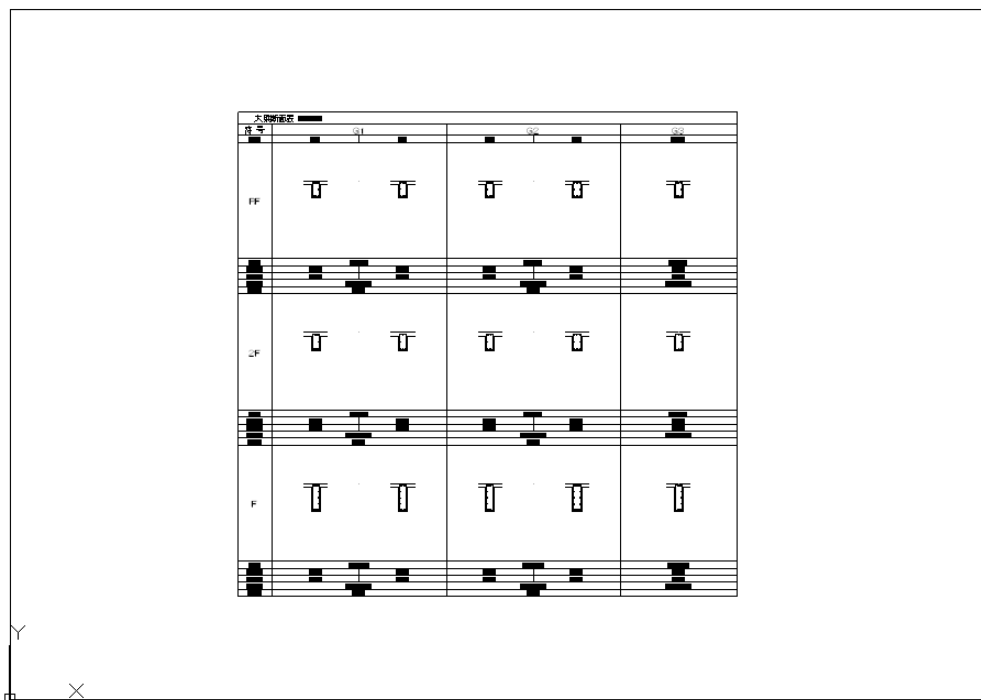
・ B : 400 D : 800 ・ 上端一段筋 : 3, D25 ・ 下端一段筋 : 3, D25 ・ あばら筋 : 2, D13, 200

2F					
B × D	400×800		400×800		400×800
上 端 筋	5-Φ25	3-Φ25	4-Φ25	3-Φ25	3-Φ25
下 端 筋	4-Φ25	3-Φ25	3-Φ25	3-Φ25	3-Φ25
ねじり筋	2-Φ13@150		2-Φ13@200		2-Φ13@200
腹 筋	2-Φ10		2-Φ10		

⑩ RC 大梁断面表が作成されました。

図面全体ズームを実行した後で、CAD ソフトの [名前を付けて保存] コマンドを実行します。

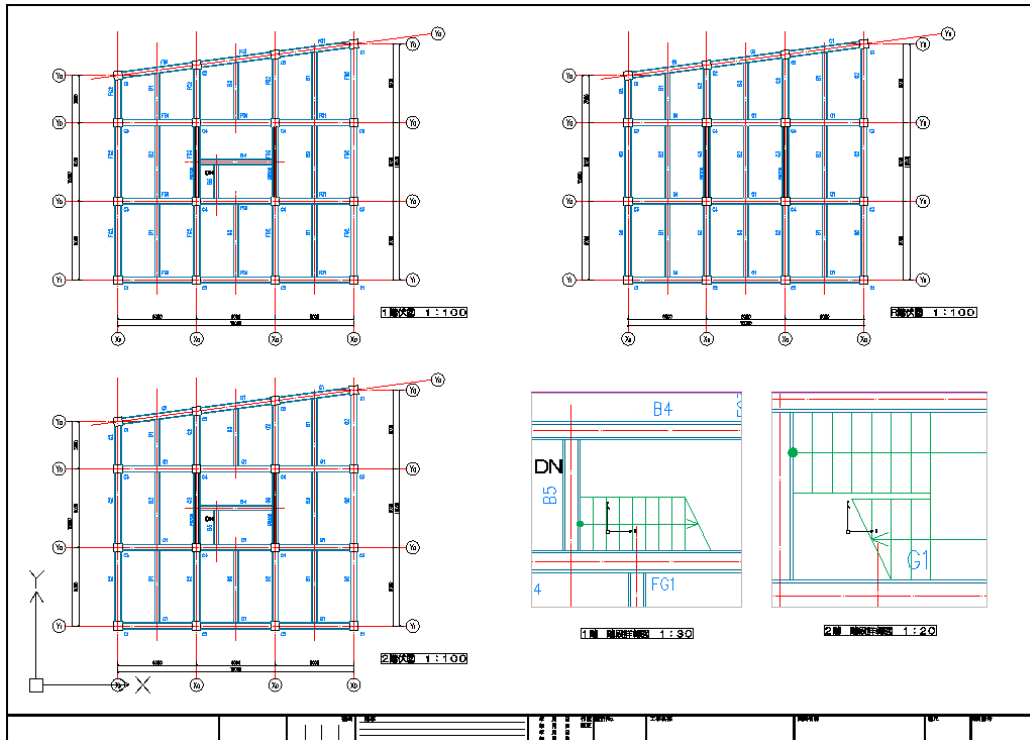
任意の場所に、ファイル名「梁断面リスト」として保存します。




第4章

異縮尺図面の作成

本章では、『構造図版 adpack-NEO i 』の様々な機能を使用して、下図のような異縮尺図面を作成する手順について説明します。



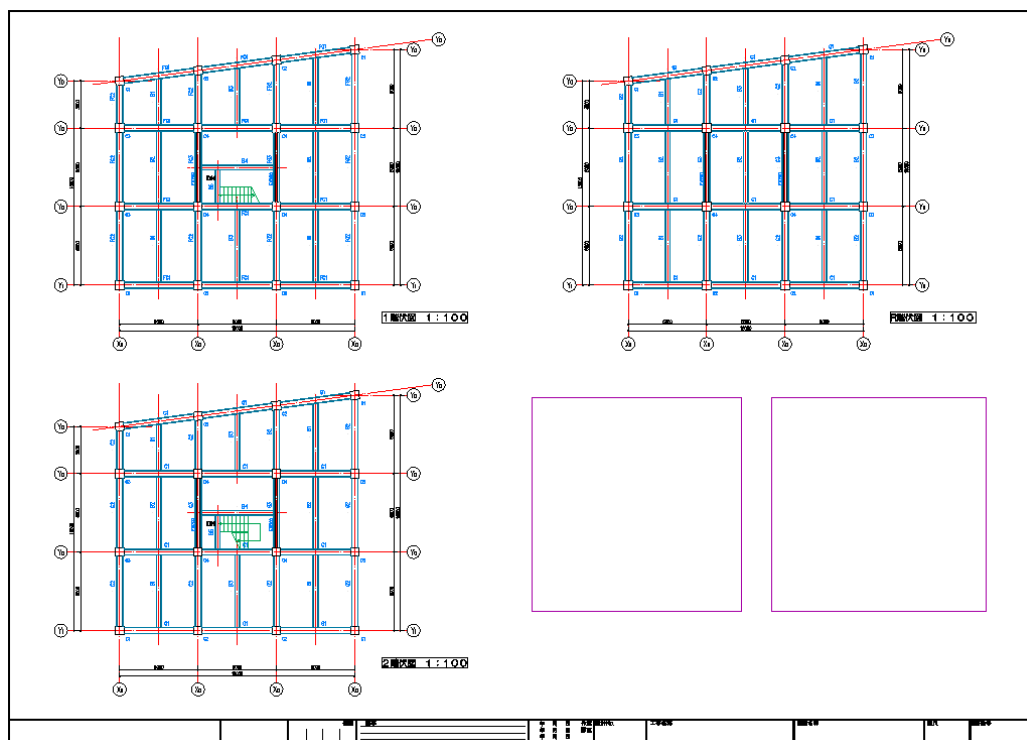
4-1 異縮尺編集の準備を行う


メモ  CADソフトの「開く」コマンドを実行して、前章で保存した「伏図」を開きます。

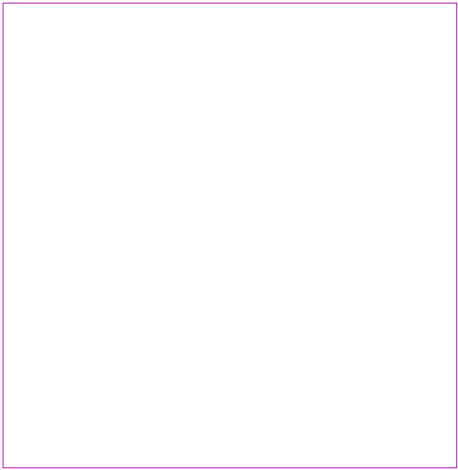
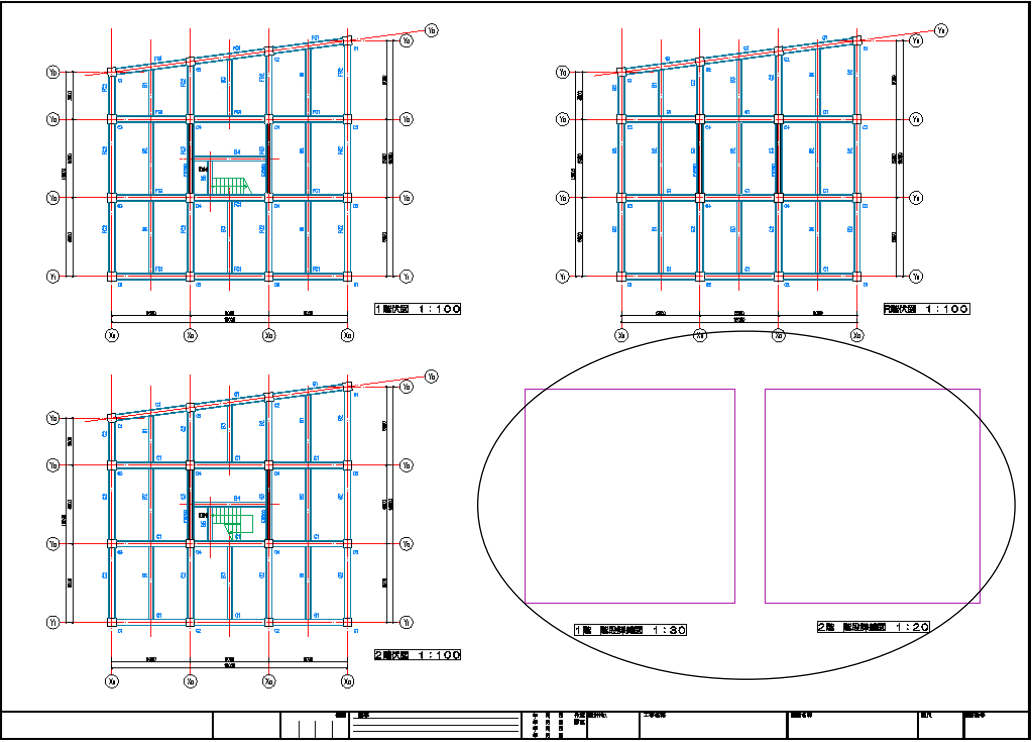
メモ  現在層を H0J0 に設定します。

下記の手順で、異縮尺図面を作図する準備を行います。

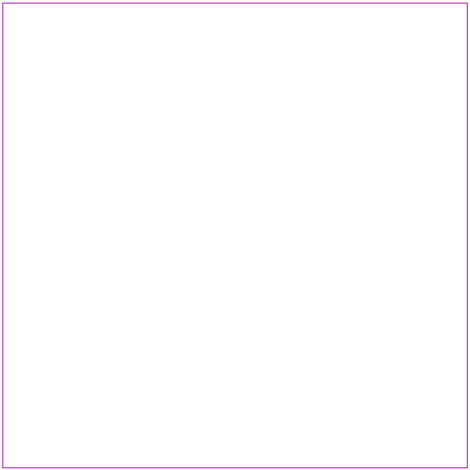
- ① 下図のように、異縮尺図面を作図するスペースに CAD ソフトの長方形コマンド（短縮：REC）で補助線を作図します。



② 下図のように、＜スタンプ＞コマンド  で図面名称を作図します。




1階 階段詳細図 1:30




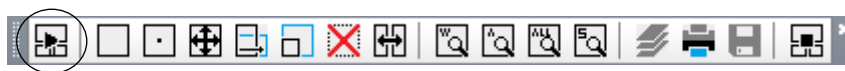
2階 階段詳細図 1:20

4-2 異縮尺編集を開始する

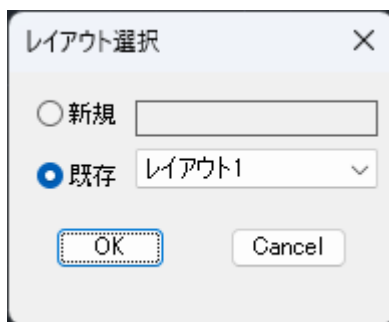
下記の手順で、異縮尺編集を開始します。

注意  異縮尺編集の画面の状態です。CAD ソフトを終了した場合は、次回起動時に必ず「異縮尺編集開始」コマンドを実行するようにしてください。文字高さ等の設定が正しくない場合があります。


- ① リボンメニューの「NEO 基本」-「異縮尺編集」またはメインツールバーの「異縮尺編集」ツールバーから、「異縮尺編集開始」コマンド  を選択します。



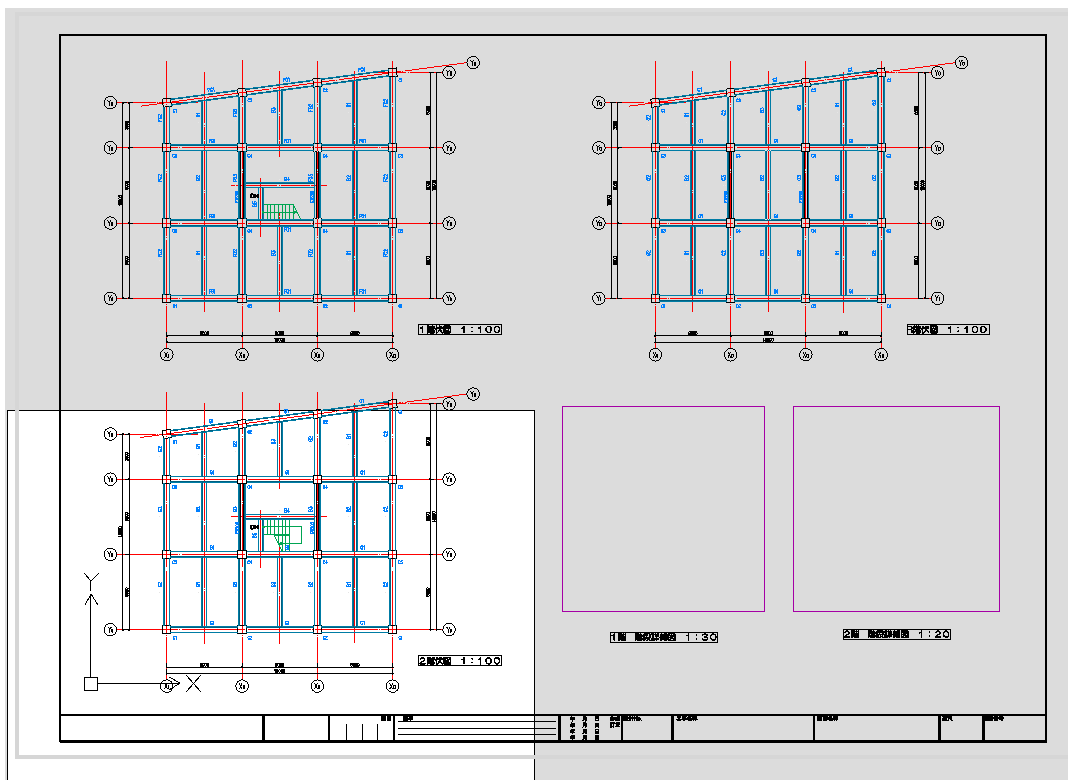
- ② レイアウト選択ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。




・レイアウト選択：既存にチェック — 「レイアウト1」

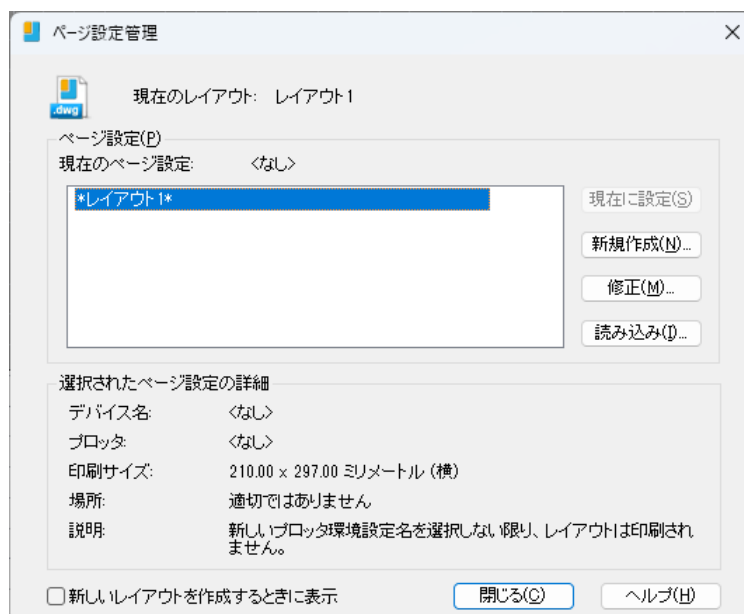
メモ  新規でレイアウトを作成することもできますが、ここでは既存のレイアウトを使用します。

- ③ 指定したレイアウトタブに切り替わり、図面がビューに配置されます。

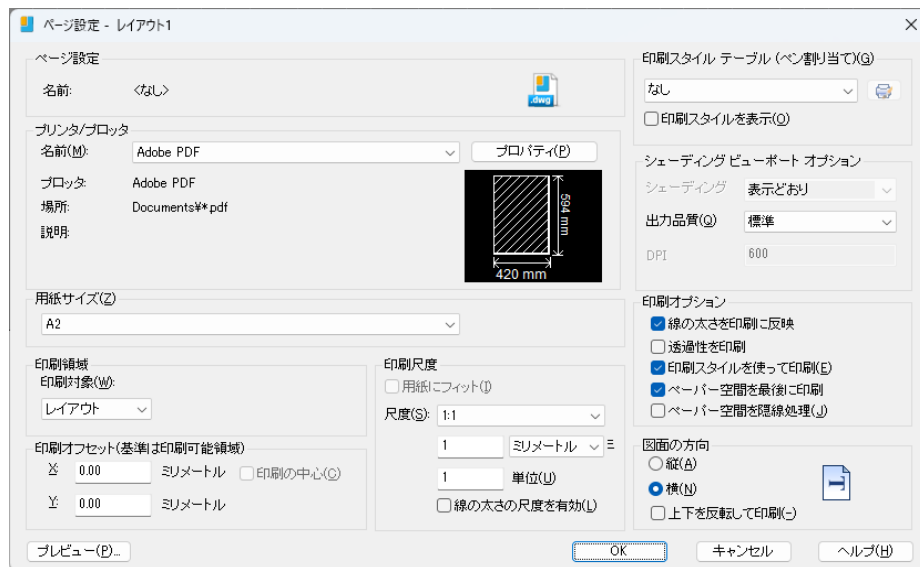


メモ  レイアウトのページ設定と図面の用紙設定が異なる場合は図のように表示されますので、次の手順で合わせます。


- ④ レイアウトのページ設定を用紙サイズに合わせるため、CAD ソフトのページ設定管理コマンド (PAGESETUP) でプリンタおよび用紙サイズを選択します。





・【修正…】をクリック

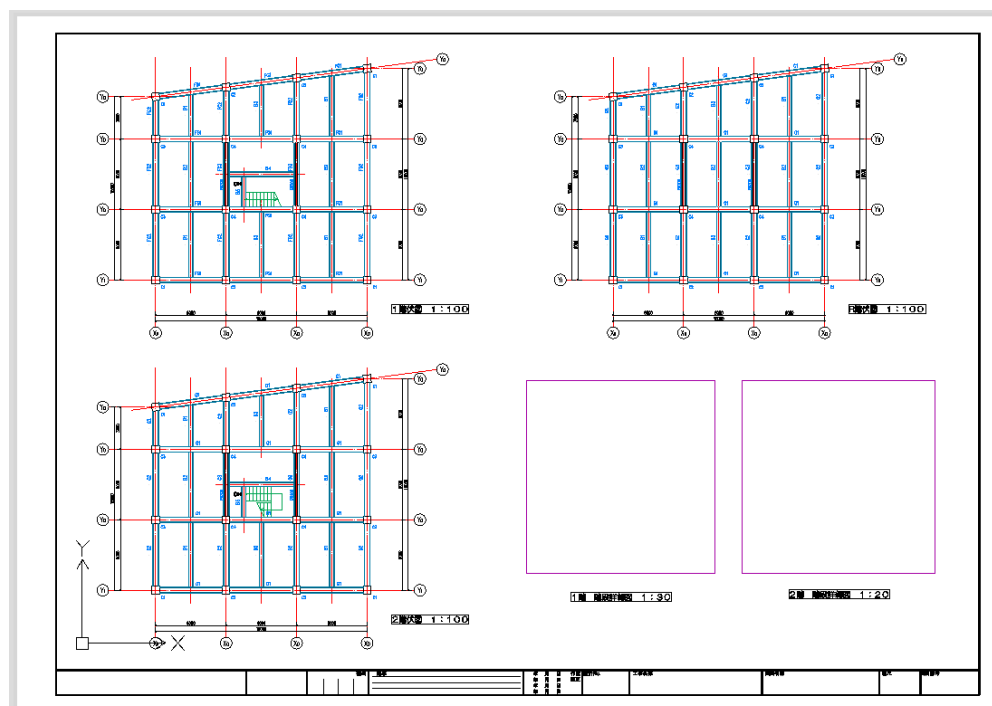


- ・ プリンタの[名前]、[用紙サイズ]、[尺度]等の各項目を設定し、【保存】をクリック。
- ・ ページ設定管理コマンドのダイアログに戻るので【閉じる】をクリックします。

注意  ページレイアウトの設定の尺度は、1 : 1を指定してください。

メモ  上記のダイアログはCADソフトのバージョンにより異なる場合があります。
プリンタ/プロッタや用紙サイズ等はご利用の環境に合わせて設定してください。


ヒント  機能や操作方法の詳細は、CAD ソフトのマニュアルを参照してください。



4-3 ビューを配置する

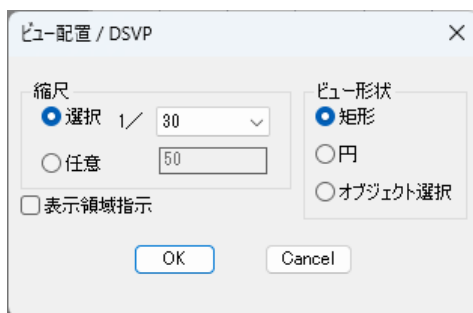
メモ  あらかじめ、定常OSNAPの[交点]を設定しておきます。

下記の手順で、異縮尺図面のビューを配置します。

- ① リボンメニューの[NEO 基本] - «異縮尺編集»またはメインツールバーの«異縮尺編集»ツールバーから、<ビュー配置>コマンド  を選択します。



- ② ビュー配置のダイアログが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

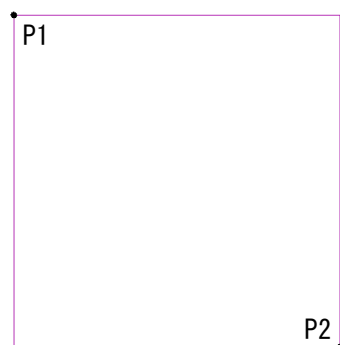


・選択 : 30
他は初期値

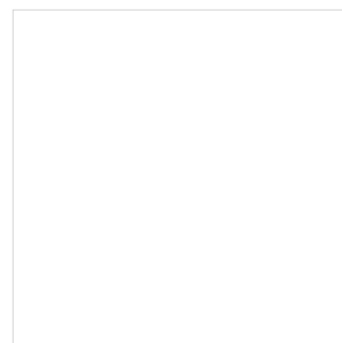
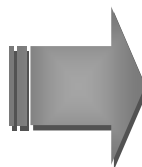
- ③ P1、P2 を指示してビューを配置します。

》一点目を指示 : (P1 を指示)


》二点目を指定 : (P2 を指示)



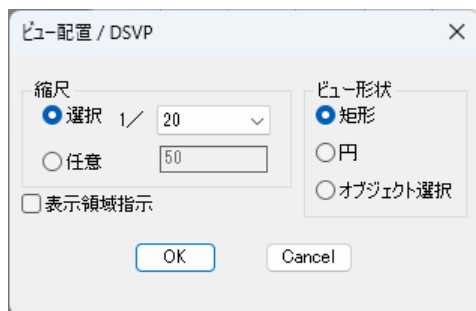
1階 階段詳細図 1:30



1階 階段詳細図 1:30

- ④ 続けてもう 1 つビューを配置するため、リボンメニューの [NEO 基本] - «異縮尺編集» またはメインツールバーの«異縮尺編集» ツールバーから、<ビュー配置> コマンド  を選択します。

- ⑤ ビュー配置のダイアログが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

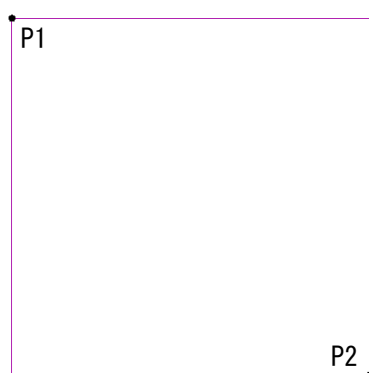


- ・選択 : 20
- 他は初期値

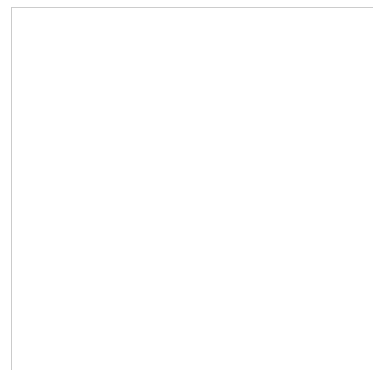
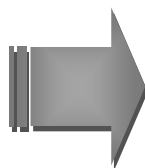
- ⑥ P1、P2 を指示してビューを配置します。

》一点目を指示 : (P1 を指示)


》二点目を指定 : (P2 を指示)





2階 階段詳細図 1:20



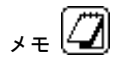
2階 階段詳細図 1:20

メモ  ビューのモデル空間上の作図領域は図面枠から一定の距離の位置に配置されます。

メモ  ビューに直接作図することも可能ですが、本章では前章で作図した図面上に表示位置を切り替えます。

注意  ビューに直接作図した場合、モデル空間で ZOOM コマンド「A (図面全体)」を実行するとビューの作図領域を含む範囲で表示されます。


4-4 ビューの表示位置を調整する




最後に配置したビューがアクティブになっています。
ここでは初めに配置したビューから表示位置を調整します。


下記の手順で、ビューの表示位置を調整します。

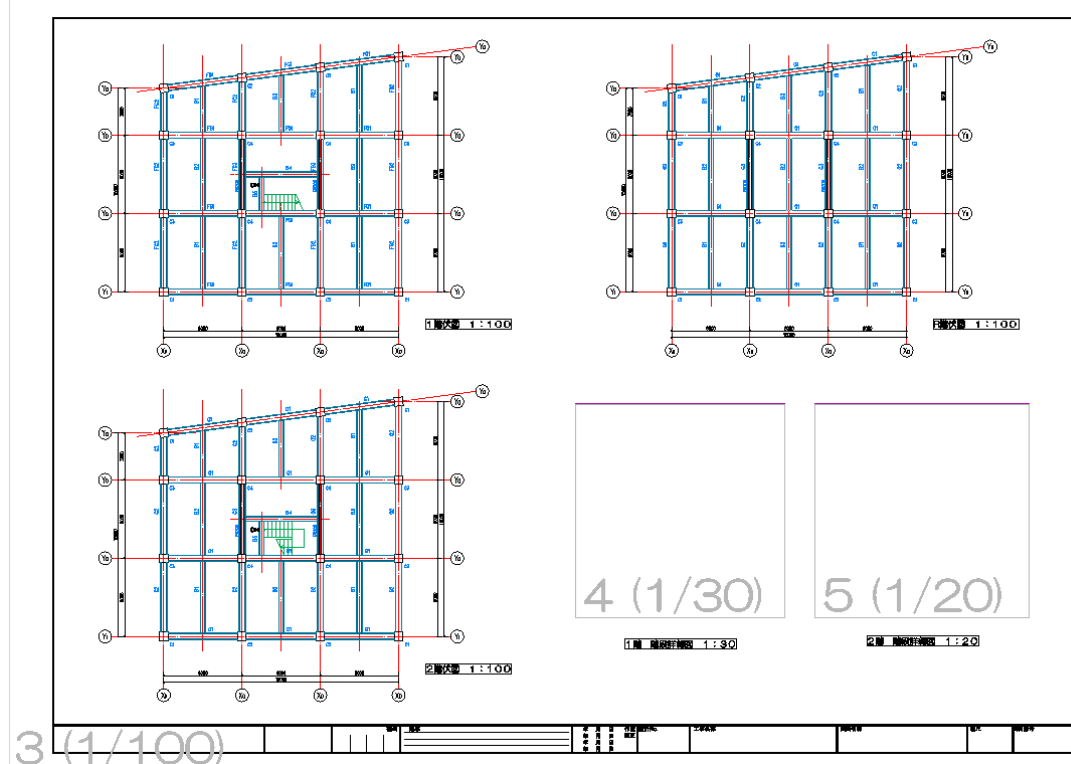
(1) ビューの切り替え

- ① リボンメニューの「NEO 基本」-《異縮尺編集》またはメインツールバーの《異縮尺編集》ツールバーから、<ビュー切替>コマンド  を選択します。

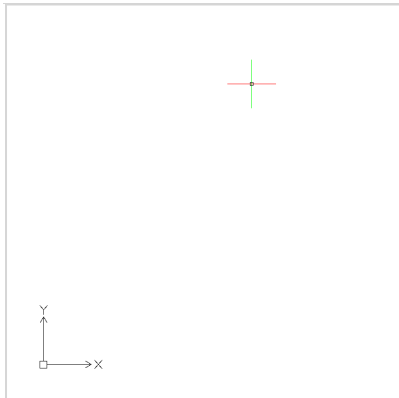



- ② それぞれのビューに番号が表示されるので、キーボードから切り替えるビューの番号「4」を入力し、 でコマンドを終了します。

》ビューの番号を選択<5>: 4 



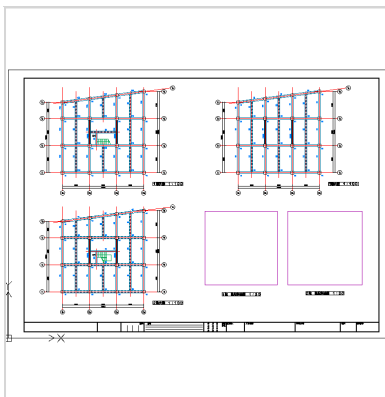
- ③ 選択したビューが画面全体に表示されます。




注意  ビューの切り替えは<ビュー切替>コマンドで行なってください。

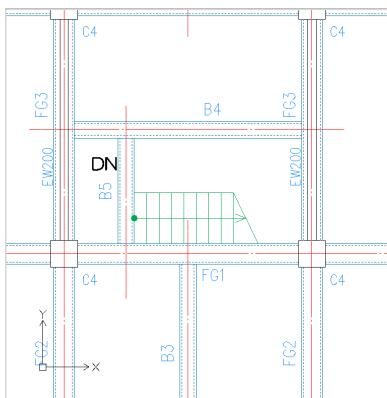
(2) ビューの表示位置の調整


- ① ZOOM コマンド「A (図面全体)」を実行します。



メモ  アクティブなビューに図面全体が表示されます。

- ② ZOOM コマンドで、1 階の階段の中心がビューの中心になるように表示します。



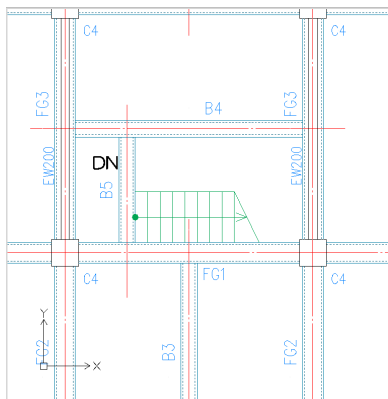
- ③ リボンメニューの [NEO 基本] - <<異縮尺編集>> またはメインツールバーの <<異縮尺編集>> ツールバーから、<ビュー表示位置登録> コマンド  を選択します。




- ④ ビュー表示位置登録のダイアログボックスが表示するので、【OK】をクリックします。



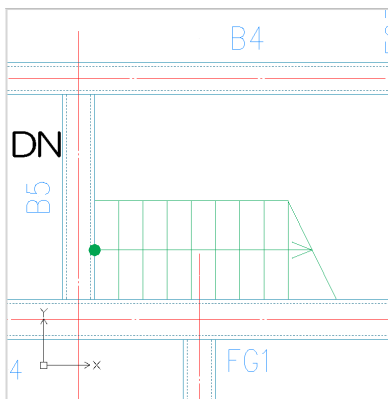
- ⑤ ビューの表示位置が中心位置として登録されます。




- ⑥ リボンメニューの [NEO 基本] - <<異縮尺編集>> またはメインツールバーの <<異縮尺編集>> ツールバーから、<スケールズーム> コマンド  を選択します。

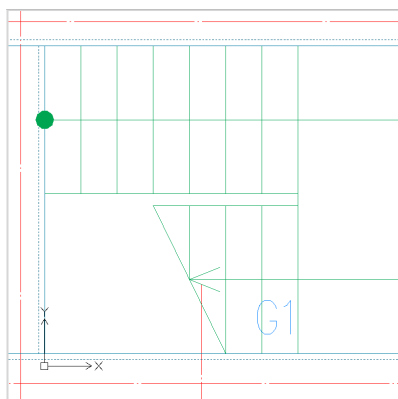



- ⑦ ビュー表示位置登録で登録した位置を中心に、設定された縮尺で表示されます。

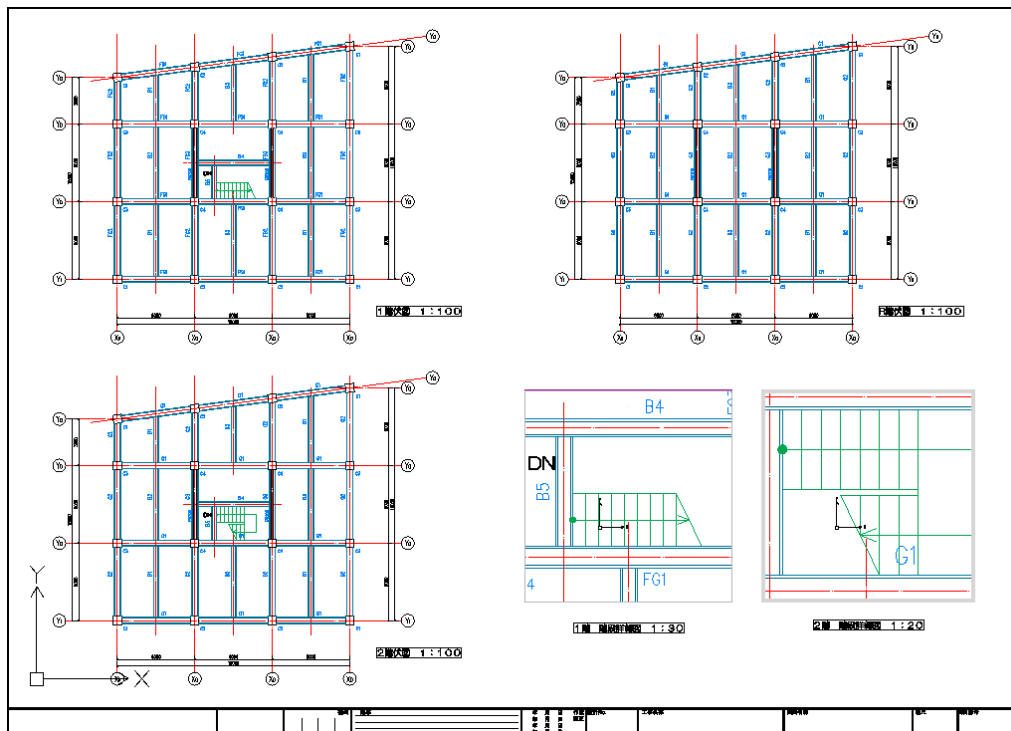



- メモ  <ビュー表示位置登録>コマンドを、既に実行したビューに対して使用すると中心位置が更新されます。


- ⑧ 同様に、2階の階段詳細図も作図します。



- ⑨ リボンメニューの「NEO 基本」－「異縮尺編集」またはメインツールバーの「異縮尺編集」ツールバーから、＜ズームA－ALL＞コマンド  を選択します。




メモ  今回は事前にモデル空間内に2つの補助線を作図しましたが、補助線なしでもビューの配置が可能です。

メモ  モデル空間で図面を編集すると各ビューの該当箇所も変更されます。
これにより一般図と詳細図の一元管理が可能です。


4-5 ビュー毎のレイヤを切り替える


下記の手順で、ビュー毎のレイヤを切り替えます。

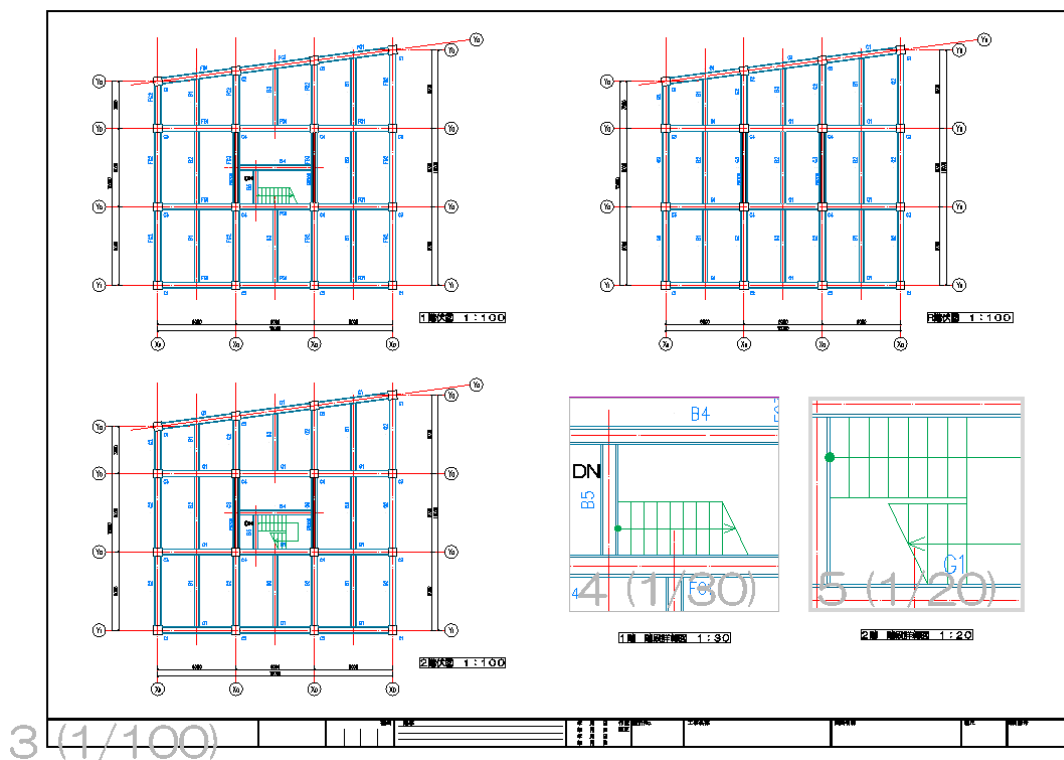
(1) ビューの切り替え

- ① リボンメニューの「NEO 基本」-《異縮尺編集》またはメインツールバーの《異縮尺編集》ツールバーから、＜ビュー切替＞コマンド  を選択します。

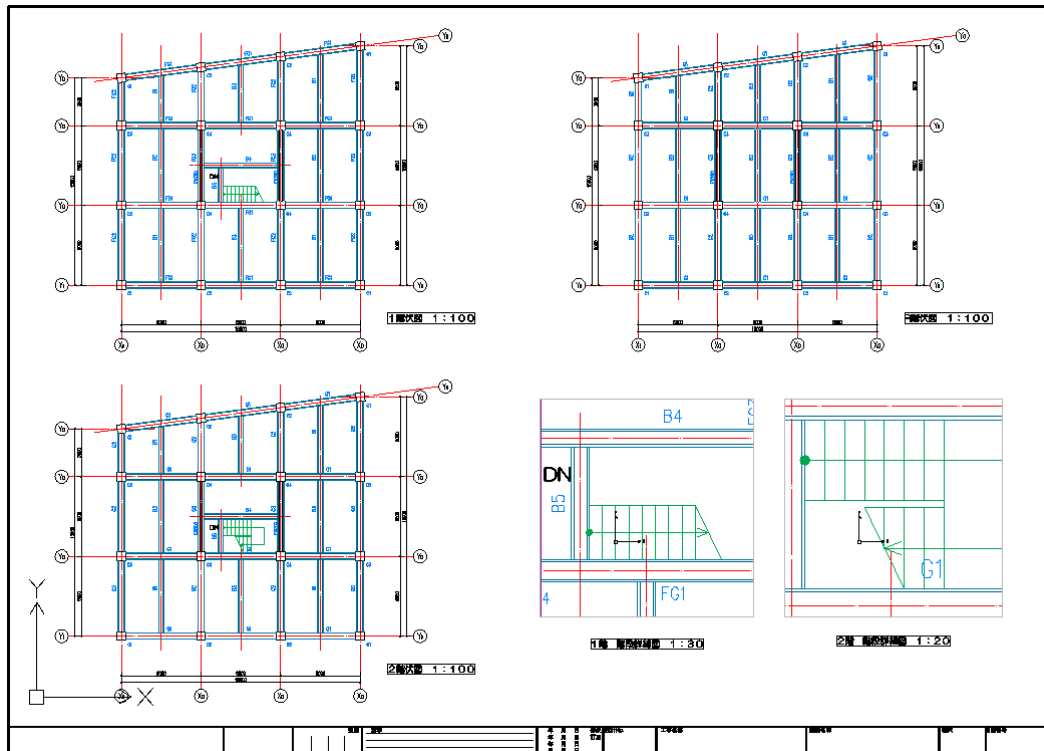


- ② それぞれのビューに番号が表示されるので、キーボードから切り替えるビューの番号「3」を入力し、 でコマンドを終了します。

》ビューの番号を選択<5> : 3 




③ 選択したビューが画面全体に表示されます。



＜ビュー切替＞コマンドでは、スケールに関する設定値を対応するビューに合わせて切り替えます。マウスを使用したビュー指示によるビュー切替は行わないでください。

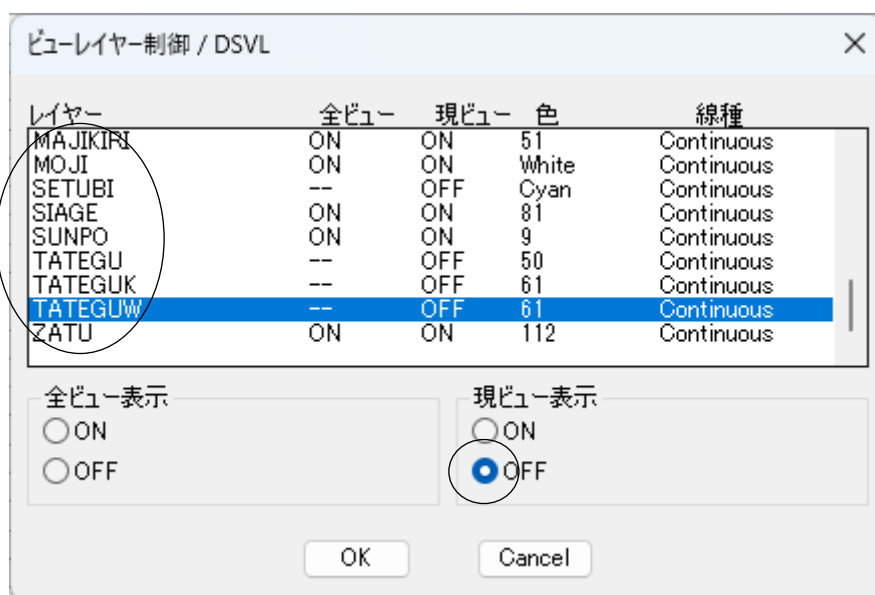
(2) レイヤの切り替え


- ① リボンメニューの「NEO 基本」－《異縮尺編集》またはメインツールバーの《異縮尺編集》ツールバーから、＜ビューレイヤ制御＞コマンド  を選択します。



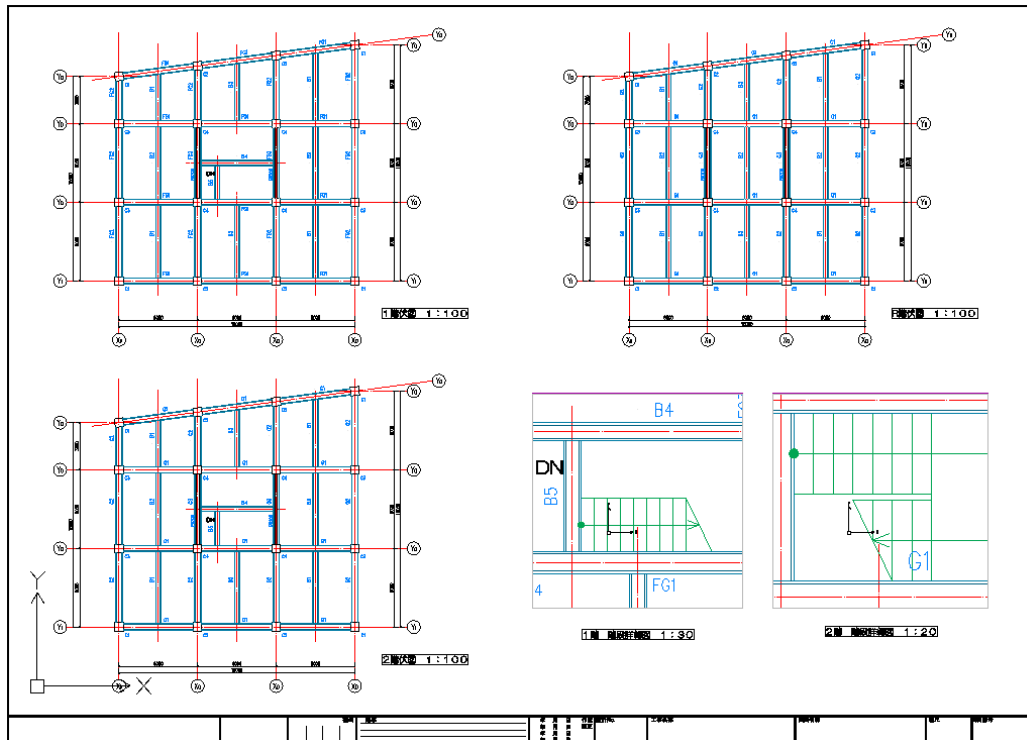
- ② ビューレイヤ制御ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。


レイヤーが[ZATU]の行を選択し、現ビュー表示の OFF をクリック



ヒント  リストの各行を、【Ctrl】や【Shift】キーを押しながら複数選択すると一括で変更できます。


③ アクティブなビューのレイヤのみ表示が切り替わり、画面上に表示されます。

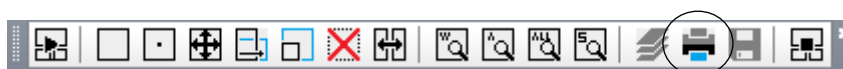


メモ  モデル空間で図面を編集すると各ビューの該当箇所も変更されます。
これにより一般図と詳細図の一元管理が可能です。

4-6 異縮尺図面を印刷する

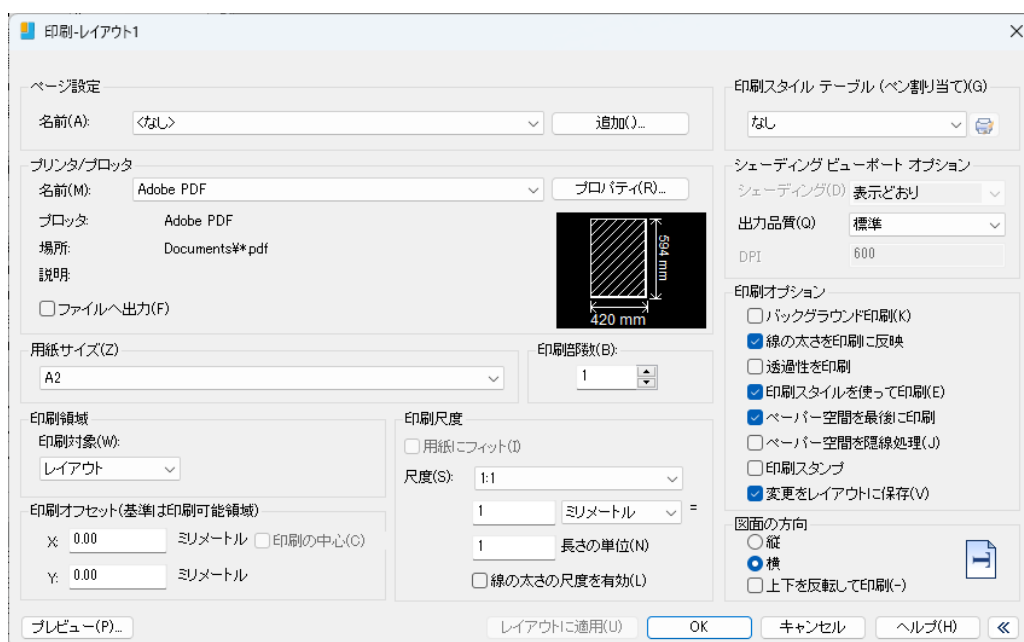
下記の手順で、異縮尺図面を印刷します。


- ① リボンメニューの「NEO 基本」－《異縮尺編集》またはメインツールバーの《異縮尺編集》ツールバーから、＜異縮尺図面印刷＞コマンド  を選択します。





- ② 印刷ダイアログボックスが表示するので、次のように設定して【OK】をクリックします。

- ・プリンタの[名前]、[用紙サイズ]、[尺度]等の各項目を必要に応じて設定



注意  ページレイアウトの設定の尺度は、1 : 1を指定してください。

メモ  上記のダイアログはCADソフトのバージョンにより異なる場合があります。
プリンタ/プロッタや用紙サイズ等はご利用の環境に合わせて設定してください。

メモ  印刷終了後は、ペーパー空間に切替っていますので、CADソフトのモデル空間コマンド（短縮：MS）を実行するか、ビュー切り替えコマンドによりモデル空間に切り替えてください。

ヒント  機能や操作方法の詳細は、CADソフトのマニュアルを参照してください。

4-7 異縮尺図面を切り出す

メモ  あらかじめ、＜ズーム A-A L L＞コマンドで図面全体を表示しておきます。


下記の手順で、異縮尺図面の切り出しを行います。

- ① リボンメニューの [NEO 基本] - ≪異縮尺編集≫ またはメインツールバーの ≪異縮尺編集≫ ツールバーから、＜異縮尺図面切出＞コマンド  を選択します。

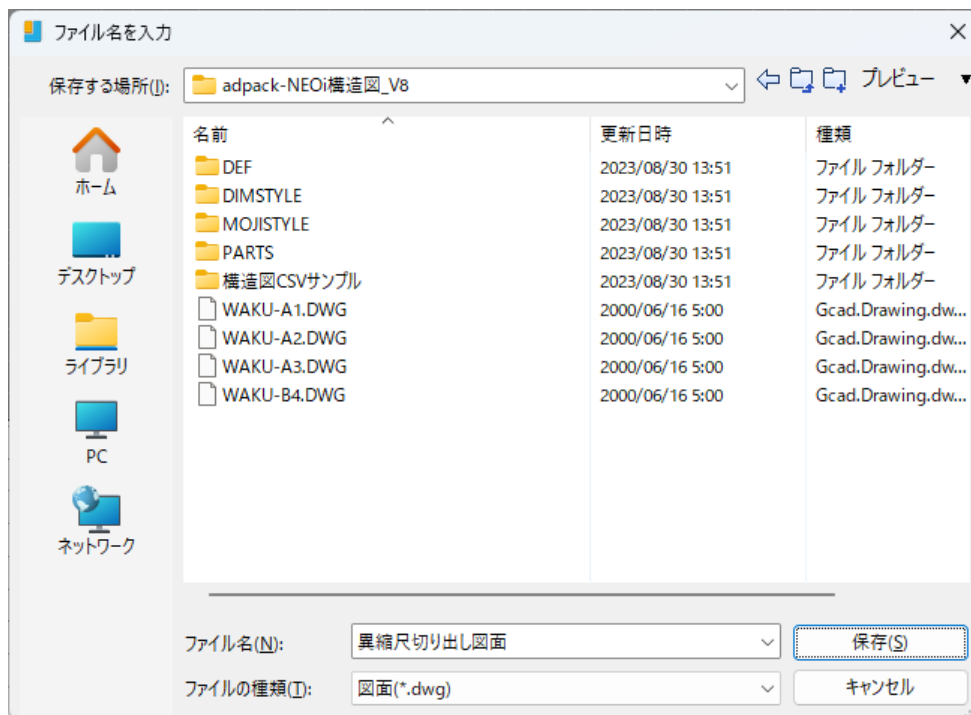


- ② 異縮尺図面切出タイプを指定します。


ここでは DWG 形式で切り出すので、キーボードから「D」を入力します。

異縮尺図面切出タイプ (D=DWG/X=DXF) <D>: » D 


- ③ ファイル名を入力ダイアログボックスが表示するので、任意の場所に、ファイル名「異縮尺切り出し図面」として【保存】をクリックします。



4-8 異縮尺編集を終了する

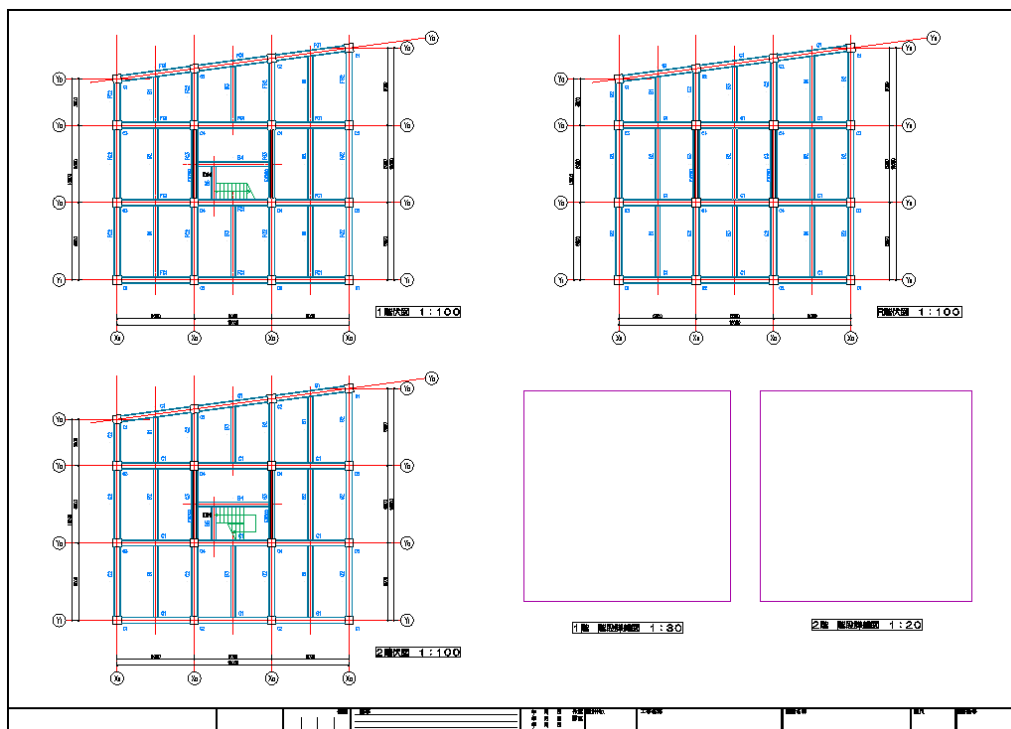
メモ  あらかじめ、「伏図」の図面タブをクリックしてアクティブにしておきます。


下記の手順で、異縮尺編集を終了します。

- ① リボンメニューの[NEO 基本] - «異縮尺編集» またはメインツールバーの«異縮尺編集» ツールバーから、<異縮尺編集終了> コマンド  を選択します。



- ② モデル空間が表示されます。



注意  本コマンドにより、各種スケール関係の設定値を切り替えますので、手動でのモデル空間 (TILEMODE=1) への画面切替は行わないでください。

図面全体ズームを実行した後で、CAD ソフトの [名前を付けて保存] コマンドを実行します。
任意の場所に、ファイル名「異縮尺図面」として保存します。

構造図版 adpack-NEO i 操作手順マニュアル 2023 年 9 月



制作・著作 株式会社アークデータ研究所

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-37-14

TEL : 03-5901-9452、FAX : 03-5901-9451

無断転載禁止

